

平成 27 年度環境省委託事業

地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業

日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査 年次レポート

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
(全国地球温暖化防止活動推進センター)

目 次

1. 目的	1
2. 検討経過	2
(1) 平成 25 年度 検討概要	2
(2) 平成 26 年度 検討概要	5
(3) 平成 27 年度 検討概要	9
3. 調査概要	10
(1) 調査フロー	10
(2) 調査の実施概要	11
(3) 調査項目	14
4. 調査結果	21
(1) 冷蔵庫の使用実態調査	21
(2) 一般住宅の設備導入実態調査	38
(3) エネルギー消費量実態把握調査	54
5. 自由回答	61
(1) 冷蔵庫の使用実態調査	61
(2) 一般住宅の設備導入実態調査／エネルギー消費量実態把握調査	64
(3) その他	70
6. まとめ	73
(1) 冷蔵庫の使用実態調査	73
(2) 一般住宅の設備導入実態調査	73
(3) エネルギー消費量実態把握調査	73
7. 資料編	74
(1) 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会 配付資料	74
(2) 参考調査	82

1. 目的

地球温暖化対策に関し、我が国の社会経済活動、とりわけ近年温室効果ガス排出量が 1990 年比で約 50%増加している民生部門の排出の抑制等を促進するための措置を講じ、地球温暖化対策の推進を図るため、地球温暖化対策に関する普及啓発を行うこと等により地球温暖化の防止に寄与する活動の促進を図ることを目的とし、地球温暖化対策の推進に関する法律（以下「温対法」という。）第 24 条及び第 25 条に基づき、都道府県知事等や環境大臣が地域地球温暖化防止活動推進センター（以下「地域センター」という。）及び全国地球温暖化防止活動推進センター（以下「全国センター」という。）を指定している。

地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業では、温対法第 25 条第 2 項各号に規定されている全国センターが実施する事業である国民の日常生活に関する温室効果ガスの排出の実態調査及び排出の抑制等のための措置を促進する方策や地球温暖化及び地球温暖化対策に関する調査研究、情報資料の収集、分析、提供及び普及啓発・広報活動、地域センターや関係主体との連絡調整、地域センター事業の支援手法の検討及び地域センター従事者に対する研修等の事業の一層の円滑化と促進を図り、各地域センターとの連携を図りながら広く全国に活動の基盤を形成し、低炭素社会の構築を目指すことを目的とする。

その中で、日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会では、主に以下の事項について検討を行う。

- (1) 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態の調査・研究の進め方に関すること。
- (2) 調査・研究に基づく温室効果ガスの排出抑制方策に係る検討に関すること。
- (3) (1)及び(2)に係る事業についての助言・評価・とりまとめに関すること。
- (4) その他目的達成に必要な事項。

最終的に、日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会での議論及び全国センター、地域センターにおける調査・研究結果を、年次レポートとしてまとめた。

2. 検討経過

(1) 平成 25 年度 検討概要

① 平成 25 年度 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会

「地域での地球温暖化防止活動事業」のあり方、評価・とりまとめを行う「地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会」の下部機関として「日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会」を設置し、検討を行った。

〔委員〕

氏 名	職 名	備 考
三浦 秀一	東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科 准教授	座長
増井 利彦	独立行政法人 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 統合評価モデリング研究室 研究室長	副座長
明石 修	武蔵野大学 環境学部 環境学科 環境学専攻 講師	
中口 毅博	NPO 法人 環境自治体会議環境政策研究所 所長	

〔オブザーバー〕

氏 名	職 名	備 考
中野 雅夫	新潟県地球温暖化防止活動推進センター センター長 (公益財団法人 新潟県環境保全事業団)	
田中 利男	大阪府地球温暖化防止活動推進センター シニアコーディネーター (一般財団法人 大阪府みどり公社)	
吉川 守秋	福井県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長 (特定非営利活動法人 エコプランふくい)	

第 1 回部会

平成 25 年 7 月 25 日(木) 14:00～16:00

《内容》 「GHG 排出実態調査」検討の方向性について



第 2 回部会

平成 25 年 12 月 19 日(木) 14:00～16:00

《内容》 家庭エコ診断データ活用マニュアルについて
地域センターにおける実態把握について



第 3 回部会

平成 26 年 3 月 6 日(木) 14:00～16:00

《内容》 GHG 排出実態調査の全国データの集計について
地域センターにおける排出実態調査結果について

② 検討概要

a) 全国センターと地域センターの役割

日常生活に関する二酸化炭素排出実態調査は、全国センターと地域センターが連携して家庭からの二酸化炭素の排出実態を調査し、全国を網羅する家庭からの二酸化炭素の排出実態を把握するための一環として実施した。

全国センターでは、平成 24 年度うちエコ診断データを活用して、全国レベルの二酸化炭素排出実態を推計し、その結果を地域センターに提供した。地域センターは、全国センターの結果を参考に、独自に排出実態把握を行った。

調査における全国センターと地域センターの役割は、下図のとおり。

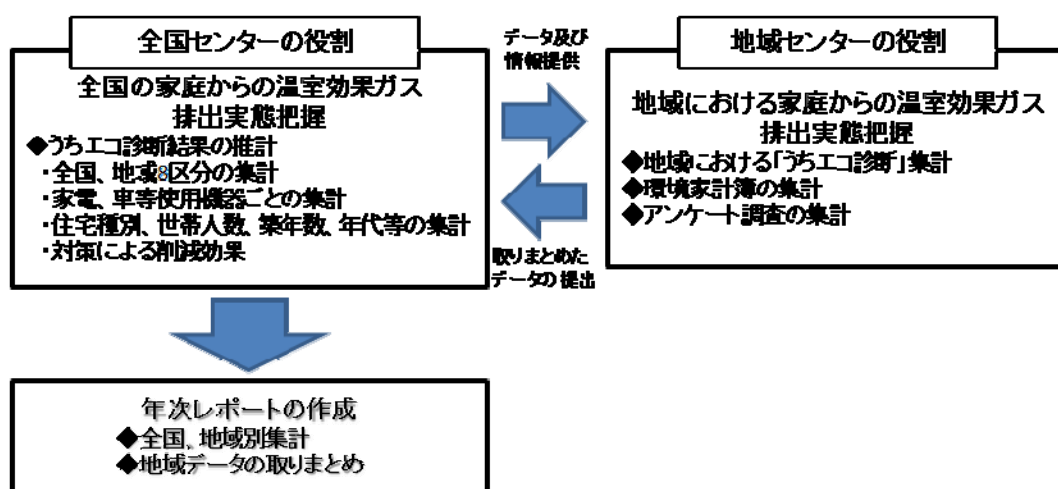


図 2-1 全国センターと地域センターの役割

b) 温室効果ガス排出実態把握に用いたデータ

全国及び地域 8 区分の二酸化炭素の排出実態を把握するために、平成 24 年度のうちエコ診断事業の内、全国センターと地域センターが連携して実施した、うちエコ診断の全国のデータを活用した。

c) 地域センターの二酸化炭素の排出実態把握事業に関する調査

地域センターでは、従来から地域の地球温暖化対策事業を通じて、例えば「環境家計簿」による二酸化炭素排出削減の取り組みを行っている。これらの事業で得られた情報を活用することにより地域の排出実態把握に努めており、平成 25 年度も地域センターでは排出実態調査に取り組んだ。

そこで、地域センターが行っている家庭からの二酸化炭素排出実態把握のための事業内容について調査を行った。調査方法は、「地域センターにおける「日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査」」の提出を依頼して行った。

d) まとめ

家庭からの二酸化炭素排出実態について、以下の内容を把握した。

- 平成 24 年度うちエコ診断データを活用して、全国のうちエコ診断受診世帯の二酸化炭素排出実態を把握した。
- 平成 24 年度うちエコ診断データを集計すると、世帯あたりの全国平均の二酸化炭素総排出量は 5,808kg/年・世帯であった。また、家庭のさまざまなエネルギー源や、冷暖房・給湯からの二酸化炭素排出量、世帯構成や住宅の建て方等と、二酸化炭素排出の特徴を把握した。
- 全国を 8 区分した地域ごとの家庭からの二酸化炭素排出の実態を把握することが出来た。同様に「大都市」と「その他地域」の区分についても実態を把握した。
- 地域センターは、うちエコ診断、環境家計簿などの各種データを活用して、地域ごとの家庭からの二酸化炭素排出実態の把握に努めた。

平成 26 年度は、二酸化炭素排出実態把握の充実に努めるとともに、平成 25 年度に集計したデータを積極的に活用し、家庭からの排出削減に関する啓発活動に活用する。

地域センターは、他の地域センターの取組などを参考に、調査手法の統一化と客観的な事業評価に努め、地域特性を踏まえた地球温暖化対策事業を展開する。

(2) 平成 26 年度 検討概要

① 平成 26 年度 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会

「地域での地球温暖化防止活動事業」のあり方、評価・とりまとめを行う「地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会」の下部機関として「日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会」を設置し、3回の部会を経て、モデル事業の提案に向けた議論を重ねた。

〔委員〕

氏 名	職 名	備 考
三浦 秀一	東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科 教授	座長
増井 利彦	独立行政法人 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 統合評価モデリング研究室 研究室長	副座長
明石 修	武蔵野大学 環境学部 環境学科 環境学専攻 准教授	
佐藤 律子	日本工営株式会社 社会システム事業部 環境部 課長	

〔オブザーバー〕

氏 名	職 名	備 考
中野 雅夫	新潟県地球温暖化防止活動推進センター センター長 (公益財団法人 新潟県環境保全事業団)	
和田 峻輔	大阪府地球温暖化防止活動推進センター 主査 (一般財団法人 大阪府みどり公社)	
吉川 守秋	福井県地球温暖化防止活動推進センター センター長 (特定非営利活動法人 エコプランふくい)	

第1回部会

平成 26 年 7 月 3 日(木) 13:30～15:30

《内容》 実態把握の目的、実践結果の評価軸の明確化
手法ごとの特色のある取組の調査・選定



第2回部会

平成 26 年 11 月 14 日(木) 13:00～15:00

《内容》 カテゴリーごとの特色のある取組の詳細把握
「成功要因」、「地域センターにおける実施可能な条件等」の
検討



第3回部会

平成 27 年 3 月 18 日(水) 14:00～15:30

《内容》 GHG 排出実態把握事業のモデル化の検討

② 検討概要

a) 地域センターにおける GHG 排出実態調査の分類

平成 26 年度に地域センターが取り組んでいる GHG 排出実態調査は、地域課題解決のためにさまざまな手法で実施されている。特徴に従い 4 つに分類した上で、それぞれの手法のモデル化を検討した。

表 2-1 地域センターにおける GHG 排出実態調査手法の 4 分類と GHG 排出量把握事業の状況

	手法名	特 徴	取り組み数
A	家庭エネルギー排出実態調査	a) 通年調査 b) 期間限定調査	37 (15)
B	製品・分野別排出実態調査	a) 特定の家電製品の使用状況調査 b) 個別の分野の取り組みに関する調査	7
C	定性的排出実態調査	a) 来場者アンケート b) 郵送アンケート	27
D	その他	a) エネルギーの計測による調査 b) 温度等の計測による調査	3

* A 家庭エネルギー排出実態調査の取り組み数 (15) は、うちエコ診断の結果を活用。

* 複数の事業を取り組む地域センターあり。

b) 分類ごとの特色のある事業

モデル化検討フローのステップ 1 では、地域センターが取り組んでいる GHG 排出実態調査の 4 分類の中で、「A：家庭エネルギー排出実態調査」と「B：製品・分野別排出実態調査」について検討した。

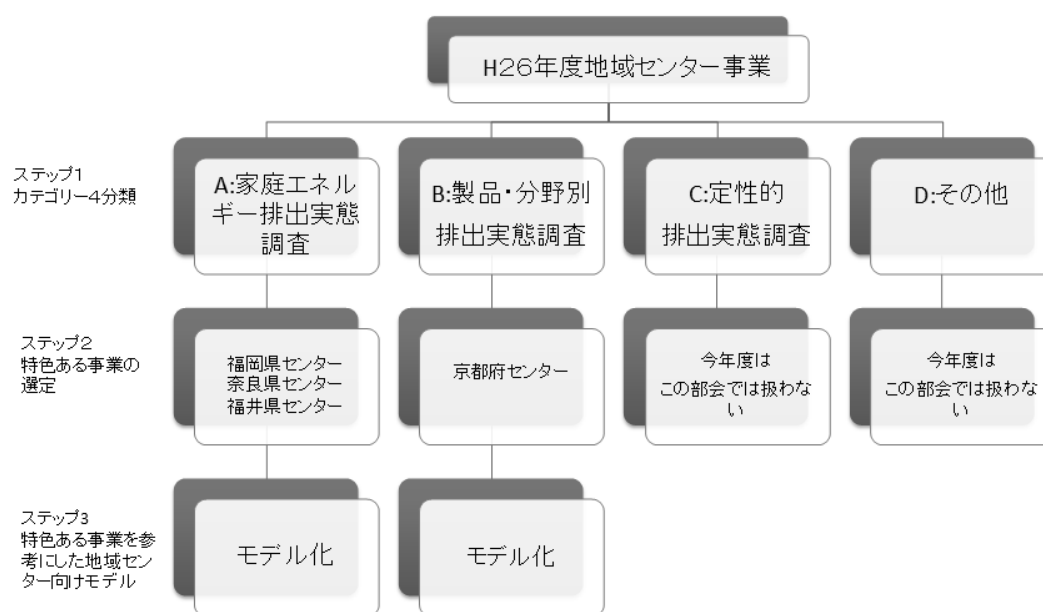


図 2-2 GHG 排出実態調査手法のモデル化検討フロー

ステップ2では、各地域センターの排出量把握実態調査を以下の5つの視点の選定基準に照らした結果、4つの事業をモデル化の対象として検討することとした。

- 視点1 低予算、省労力で事業設計できること
- 視点2 調査目的及び活用意図を明確に定めていること
- 視点3 調査サンプル数、調査方法、調査対象などに特色がみられるもの
- 視点4 全国どの地域でも応用しやすいコンテンツを扱っていること
- 視点5 推進員との効果的な連携ができていること

表 1-2 GHG 排出実態調査手法モデルの参考とした地域センター事業

	手法名	事業名	実施地域センター名
A	家庭エネルギー排出実態調査	エコファミリー応援事業	福岡県センター
		奈良の環境家計簿	奈良県センター
		家庭のCO ₂ 排出実態調査	福井県センター
B	製品・分野別排出実態調査	冷蔵庫設置状況調査	京都府センター

C) GHG 排出実態調査の計画策定フローモデル

GHG 排出実態把握のための調査計画検討フローモデルは以下のとおり。



図 2-3 GHG 排出実態調査 計画策定のための検討フローモデル

d) まとめ

家庭からの GHG 排出実態を把握して対策を推進することは、地域において効果的な地球温暖化対策を推進するために重要である。

平成 26 年度は、各地域センターの取り組みの中から特色のある調査を参考にして、「家庭エネルギー排出実態調査」と「製品・分野別排出実態調査」を参考にしてモデル化を行った。また、モデル化した事業の実施にあたっては、複数の地域センターが連携して取り組むことについても検討を行った。

平成 27 年度は、今回モデル化した 2 つの調査「住宅の CO₂ 排出実態調査」、「冷蔵庫の CO₂ 排出実態調査」を参考として、具体的な取り組みに発展させることが望ましい、という結果になった。

(3) 平成 27 年度 検討概要

① 平成 27 年度 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会

「地域での地球温暖化防止活動事業」のあり方、評価・とりまとめを行う「地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会」の下部機関として「日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会」を設置し、検討を行った。

〔委員〕

氏 名	職 名	備 考
鶴崎 敬大	株式会社 住環境計画研究所 研究所長	座長
増井 利彦	国立研究開発法人 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 統合評価モデリング研究室 研究室長	副座長
明石 修	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 准教授	
佐藤 律子	日本工営株式会社 社会システム事業部 環境部 課長	

〔オブザーバー〕

氏 名	職 名	備 考
浅井 薫	京都府地球温暖化防止活動推進センター (特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)	
松崎 良勇	福岡県地球温暖化防止活動推進センター 普及啓発部 係長 (一般財団法人 九州環境管理協会)	
吉川 守秋	福井県地球温暖化防止活動推進センター センター長 (特定非営利活動法人 エコプランふくい)	

第 1 回部会

平成 27 年 5 月 22 日(金) 13:00～15:00

《内容》 住宅、家電の省エネ性能等の実態について
温室効果ガス排出実態の統一調査票について



第 2 回部会

平成 27 年 10 月 27 日(木) 10:00～12:00

《内容》 冷蔵庫の使用実態調査、一般住宅の設備導入実態調査／エネルギー消費量実態把握調査の中間集計結果について
その他統計調査について



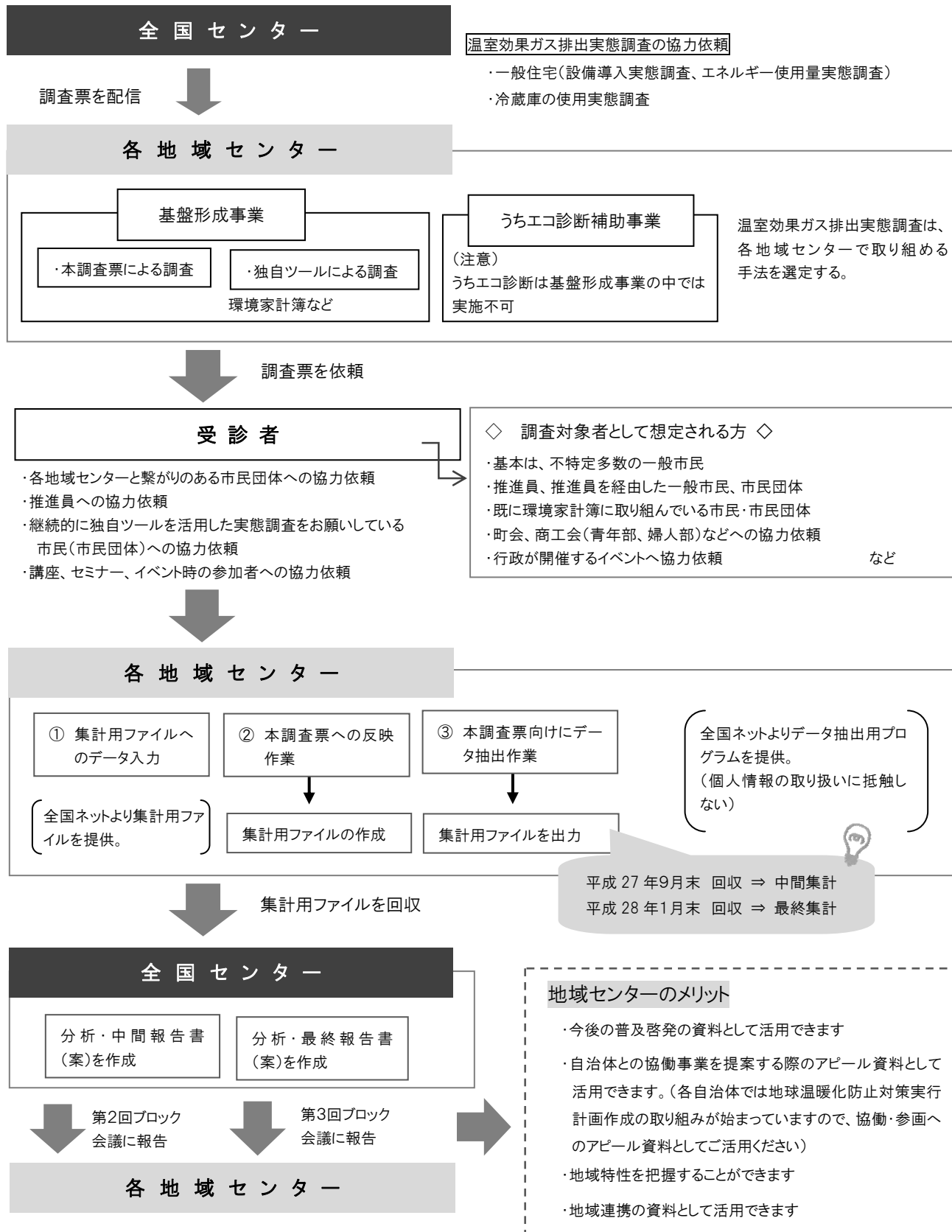
第 3 回部会

平成 28 年 3 月 2 日(水) 10:00～12:00

《内容》 冷蔵庫の使用実態調査、一般住宅の設備導入実態調査／エネルギー消費量実態把握調査の最終集計結果について

3. 調査概要

(1) 調査フロー



(2) 調査の実施概要

① 調査方法

調査期間 : 平成 27 年 6 月 10 日 ~ 平成 28 年 2 月 8 日
(9 月末時点のデータを回収し、中間集計を実施)

調査対象 : 地域センターが各地域で調査票を配布

調査種類 : ① 冷蔵庫の使用実態調査
② 一般住宅の設備導入実態調査
③ エネルギー消費量実態把握調査

② 回収数

a) 中間集計 (9 月末時点)

No	センター名	冷蔵庫	一般住宅の設備導入	エネルギー消費量
1	青森県	75 件	74 件	-
2	群馬県	59 件	56 件	30 件
3	神奈川県	48 件	-	-
4	新潟県	60 件	59 件	6 件
5	富山県	-	65 件	-
6	長野県	26 件	-	-
7	三重県	45 件	43 件	-
8	奈良県	24 件	27 件	-
9	福岡県	28 件	30 件	22 件
10	川崎市	27 件	27 件	-
11	福井県	-	23 件	23 件
12	鹿児島県	27 件	27 件	27 件
-	-	419 件	431 件	108 件

* No11 福井県、No12 鹿児島県は、中間集計に含んでいません。

そのため、中間集計では冷蔵庫(n=392)、住宅〔設備導入〕(n=381)、住宅〔エネルギー消費〕(n=58)となっています。

b) 最終集計（1月末時点）

冷蔵庫の使用実態調査実施状況一覧					
地域センター	件数	地域センター	件数	地域センター	件数
1 北海道センター	221	20 新潟県センター	60	39 島根県センター	295
2 青森県センター	115	21 山梨県センター	54	40 岡山県センター	△
3 青森市センター		22 静岡県センター		41 広島県センター	30
4 岩手県センター	5	23 浜松市センター		42 山口県センター	
5 宮城県センター		24 富山県センター	25	43 徳島県センター	48
6 秋田県センター		25 石川県センター		44 香川県センター	72
7 秋田市センター	83	26 福井県センター	△	45 愛媛県センター	55
8 山形県センター	51	27 長野県センター	31	46 高知県センター	
9 福島県センター		28 長野市センター	26	47 福岡県センター	31
10 茨城県センター	134	29 岐阜県センター		48 佐賀県センター	
11 栃木県センター		30 愛知県センター	283	49 長崎県センター	
12 群馬県センター	94	31 三重県センター	45	50 熊本県センター	6
13 埼玉県センター	115	32 滋賀県センター		51 熊本市センター	
14 熊谷市センター		33 京都府センター	130	52 大分県センター	
15 川口市センター		34 大阪府センター		53 宮崎県センター	
16 千葉県センター		35 兵庫県センター		54 鹿児島県センター	86
17 東京都センター		36 奈良県センター	26	55 沖縄県センター	
18 神奈川県センター	48	37 和歌山県センター	152		
19 川崎市センター	26	38 鳥取県センター	166		

分析対象外：△独自調査

一般住宅設備導入実態調査の実施状況一覧					
地域センター	件数	地域センター	件数	地域センター	件数
1 北海道センター		20 新潟県センター	59	39 島根県センター	
2 青森県センター	109	21 山梨県センター	52	40 岡山県センター	△
3 青森市センター		22 静岡県センター		41 広島県センター	30
4 岩手県センター	5	23 浜松市センター		42 山口県センター	
5 宮城県センター		24 富山県センター	169	43 徳島県センター	10
6 秋田県センター		25 石川県センター		44 香川県センター	
7 秋田市センター		26 福井県センター	△	45 愛媛県センター	55
8 山形県センター		27 長野県センター	31	46 高知県センター	
9 福島県センター		28 長野市センター	18	47 福岡県センター	30
10 茨城県センター		29 岐阜県センター		48 佐賀県センター	
11 栃木県センター		30 愛知県センター	290	49 長崎県センター	
12 群馬県センター	57	31 三重県センター	43	50 熊本県センター	6
13 埼玉県センター		32 滋賀県センター		51 熊本市センター	
14 熊谷市センター		33 京都府センター		52 大分県センター	
15 川口市センター	66	34 大阪府センター	△	53 宮崎県センター	
16 千葉県センター		35 兵庫県センター		54 鹿児島県センター	27
17 東京都センター		36 奈良県センター	28	55 沖縄県センター	
18 神奈川県センター		37 和歌山県センター			
19 川崎市センター	26	38 鳥取県センター	166		

分析対象外：△独自調査

エネルギー消費量実態把握調査の実施状況一覧					
地域センター	実施状況	地域センター	実施状況	地域センター	実施状況
1 北海道センター		20 新潟県センター	22	39 島根県センター	
2 青森県センター		21 山梨県センター		40 岡山県センター	
3 青森市センター		22 静岡県センター		41 広島県センター	
4 岩手県センター		23 浜松市センター		42 山口県センター	
5 宮城県センター		24 富山県センター	10	43 徳島県センター	10
6 秋田県センター		25 石川県センター		44 香川県センター	
7 秋田市センター		26 福井県センター	△	45 愛媛県センター	
8 山形県センター		27 長野県センター	21	46 高知県センター	
9 福島県センター		28 長野市センター		47 福岡県センター	28
10 茨城県センター		29 岐阜県センター		48 佐賀県センター	
11 栃木県センター		30 愛知県センター	81	49 長崎県センター	
12 群馬県センター	20	31 三重県センター	12	50 熊本県センター	2
13 埼玉県センター		32 滋賀県センター		51 熊本市センター	
14 熊谷市センター		33 京都府センター		52 大分県センター	
15 川口市センター	64	34 大阪府センター		53 宮崎県センター	
16 千葉県センター		35 兵庫県センター		54 鹿児島県センター	●
17 東京都センター		36 奈良県センター		55 沖縄県センター	
18 神奈川県センター		37 和歌山県センター			
19 川崎市センター	21	38 鳥取県センター			

分析対象外：△独自調査、●金額入力

【合計】

調査種類	回収件数
冷蔵庫	2,513 件
住宅（設備導入）	1,277 件
住宅（エネルギー集計）	291 件

(3) 調査項目

① 調査票の設計

冷蔵庫の使用実態調査、一般住宅の設備導入実態調査、エネルギー消費量実態把握調査の3つの調査票を設計するにあたり、日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会等にて検討した。主な調査項目については、以下のとおり。

a) 冷蔵庫の使用実態調査 〔主な調査項目〕

調査項目	集計・分析方針
ご自宅に冷蔵庫は何台あるか	保有台数（地域特性）
使用目的（※2台目、3台目）	使用目的の確認
製造年数、大きさ、年間消費電力	製造年数と容量、年間消費電力との関係
中身の詰め具合、季節によって設定温度を変えているか、省エネとして常に取り組んでいることは何か等	省エネ意識（詰め具合、設定温度の意識度、日常の取り組み
買い替えの検討	買い替え時期（買い替え時期の意識、買い替え時の省エネ意識）
冷蔵庫を購入する際に重視する点	買い替え時の省エネ意識

b) 一般住宅の設備導入実態調査 〔主な調査項目〕

調査項目	集計・分析方針
お住まいの市町村、ガスの種類、お風呂の熱源、オール電化向けの契約をしているか等	地域特性の分析（エネルギー源、お風呂の熱源の使用件数の割合、オール電化住宅の割合等）
家の造り、新築時の断熱設計の配慮、窓の断熱	一戸建て集合住宅との比較（断熱設計配慮の比較、断熱窓の導入割合の比較）
家の所有、断熱リフォーム箇所	リフォームの実施内容について（持家、賃貸での実施割合の比較、リフォームの実施箇所の割合）
太陽光発電の設置、太陽熱の温水器の利用	再生可能エネルギーの導入割合（太陽光、太陽熱の導入割合）
ご利用の自動車のタイプ、保有台数	自動車の保有台数の確認（エコカーの導入割合）
給湯器の熱源タイプ	省エネ給湯器の導入割合
冬期に日常的に使用している暖房機器	暖房機器の利用割合（機器の燃料別利用割合）
使用している照明器具のタイプ、個数	LED照明の導入割合（LED電球、LED照明器具の導入割合）

c) エネルギー消費量実態把握調査 〔主な調査項目〕

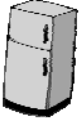
調査項目	集計・分析方針
お住まいの市町村	地域特性の分析（エネルギー源の使用量の割合）
家の造り、建築年代	一戸建て集合住宅との比較（同じ家族構成、築年代の違いによるエネルギー使用量の比較）

① 冷蔵庫の使用実態調査

事務局記入欄	
区分 ☐ 推進員 ☐ 市民団体 ☐ 一般市民 ☐ 企業等 ☐ 自治会等	No. _____
記入日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	

冷蔵庫の使用実態調査票

- ご自宅に冷蔵庫は何台ありますか。 _____ 台


- それぞれの冷蔵庫の情報についてご記入ください。 ※1台しか持っていない場合は、2台目以降は空欄で結構です。4台以上持っている方は、主に使用している3台目までをご記入ください。

※製造年、年間消費電力量や大きさは、冷蔵庫の扉の内側等に貼られた品質ラベルに記載されています。（右記例）ご自宅で記入される際は、ぜひ確認してご記入ください。

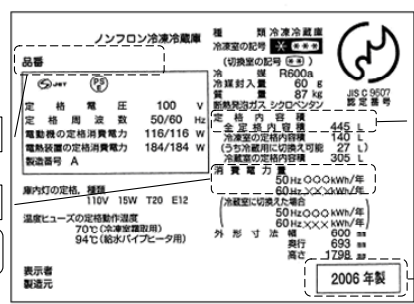
②型番（品番）

④年間消費電力

③大きさ

①製造年数

（お住まいの地域の周波数（Hz：ヘルツ）の消費電力量をご記入ください。）



	メインで使っているもの	2台目	3台目
① 製造年数 （わからない場合はおよその年を記入）	西暦 _____ 年	西暦 _____ 年	西暦 _____ 年
② 型番（品番） （英数字で書かれています）			
③ 大きさ	リットル	リットル	リットル
※ 正確にわかる場合	1 大型（背丈くらい） 2 中型（胸くらい） 3 小型（腰くらい）	1 大型（背丈くらい） 2 中型（胸くらい） 3 小型（腰くらい）	1 大型（背丈くらい） 2 中型（胸くらい） 3 小型（腰くらい）
※ 正確にわからない場合			
④ 年間消費電力量	KWh/年	KWh/年	KWh/年
⑤ 中身の詰め具合 （普段の状況をお答えください）	1 1～2割 2 3～5割 3 6～8割 4 ほぼ満杯	1 1～2割 2 3～5割 3 6～8割 4 ほぼ満杯	1 1～2割 2 3～5割 3 6～8割 4 ほぼ満杯
⑥ 設定温度（記入日時点）	1 弱 2 中 3 強 4 ECOモード等 5 わからない	1 弱 2 中 3 強 4 ECOモード等 5 わからない	1 弱 2 中 3 強 4 ECOモード等 5 わからない
⑥-1 季節によって設定温度を変えていますか	1 変えている 2 変えていない	1 変えている 2 変えていない	1 変えている 2 変えていない
⑦ 買い替えの検討	1 すぐにでも 2 今年度中を予定 3 壊れたら 4 買い替えただけなので、予定なし	1 すぐにでも 2 今年度中を予定 3 壊れたら 4 買い替えただけなので、予定なし	1 すぐにでも 2 今年度中を予定 3 壊れたら 4 買い替えただけなので、予定なし
⑧ 使用目的	/	1 二、三世帯用 2 共用 3 仕事で使用 4 その他（ ）	1 二、三世帯用 2 共用 3 仕事で使用 4 その他（ ）
⑨ 使用停止の可能性について、お答えください	/	1 日常生活に必要で、使用停止は難しい 2 少々困るが、止められる可能性あり 3 使用をやめても困らない	1 日常生活に必要で、使用停止は難しい 2 少々困るが、止められる可能性あり 3 使用をやめても困らない

3. 冷蔵庫を購入する際に重視する点について、上位3つをお答えください。

第1位 _____

第2位 _____

第3位 _____

- 1 冷蔵庫のサイズ（高さ・幅・奥行など、設置場所に入るか）
2 メーカー 3 価格
4 省エネであること 5 ノンフロンタイプであること
6 特になし 7 その他（ ）

4. 冷蔵庫の省エネとして常に取り組んでいることは何ですか。（複数回答可）

- 1 開けている時間を短くする 2 壁から適切な距離にする 3 熱いものは冷ましてから入れる
4 ものを詰め込みすぎない 5 無駄な開閉をしない 6 設定温度は適切にしている
7 冷蔵庫カーテンの使用 8 購入時に省エネの性能考慮 9 特になし
10 その他（ ）

5. 世帯構成についてお答えください。（数値を記入）

合計	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	人	人	人	人	人	人	人	人
女性	人	人	人	人	人	人	人	人

5-1. 何世代で同居していますか。

- 1 単世帯 2 二世帯 3 三世帯



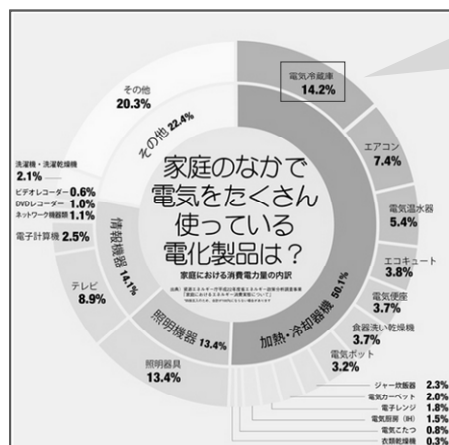
6. 現在お住まいの市町村をご記入ください。

_____ 都・道・府・県 _____ 市・町・村

～ 自由回答 ～

省エネ等で行っていることや疑問に思っていること、調査の感想など、ご自由にご記入ください。

ありがとうございました！



家庭のなかで電気をたくさん電化製品は **冷蔵庫** です！

省エネのコツ

- 熱いものは冷ましてからいれましょう！
冷やすのに余分なエネルギーが消費されてしまいます。
- 冷蔵庫の中身の整理をしましょう！
常温で保存できるもの、未開封の缶詰や調味料は冷蔵庫に入れないようにしましょう。
- 温度を調整しましょう！
温度設定を「強」から「中」や「弱」にすると省エネになります。

資料：資源エネルギー庁平成22年度省エネルギー政策分析調査事業
「家庭におけるエネルギー消費実態について」「省エネ性能カタログ」

② 一般住宅の設備導入実態調査

事務局記入欄									
区分	☐ 推進員 ☐ 市民団体 ☐ 一般市民 ☐ 企業等 ☐ 自治会等	No. _____	記入日：平成____年____月____日						
一般住宅の設備導入実態調査票									
～ 世帯状況やお住まいの住宅についてお聞きます ～									
1. 世帯構成についてお答えください。(数値を記入)									
合計		10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性		人	人	人	人	人	人	人	人
女性		人	人	人	人	人	人	人	人
1-1. 何世代で同居していますか。 1 単世帯 2 二世帯 3 三世帯									
2. 現在お住まいの市町村をご記入ください。 _____ 都・道・府・県 _____ 市・町・村									
3. エネルギーについてお答えください。(それぞれ該当するものに○)									
① ガスの種類	1 都市ガス 2 LPガス 3 使っていない								
② 料理用コンロの熱源	1 ガス 2 電気								
③ お風呂の熱源	1 ガス 2 電気 3 灯油 4 薪やペレット 5 太陽熱								
④ オール電化向けの契約	1 している 2 していない								
4. お住まいについてお答えください。(それぞれ該当するものに○)									
① 家の所有	1 持ち家 2 持ち家でない								
② 家の造り	1 一戸建て 2 集合(マンションなど) 3 その他()								
③ 延べ床面積	1 0～25㎡未満(約0～7坪) 3 50～75㎡未満(約15坪～22坪) 5 100～150㎡未満(約30坪～45坪) 7 200㎡以上(約60坪以上) 2 25～50㎡未満(約7坪～15坪) 4 75～100㎡未満(約22坪～30坪) 6 150～200㎡未満(約45坪～60坪) 8 わからない								
④ 建築年代	1 1970(昭和45)年以前 3 1981～1985(昭和56～60)年 5 1991～1995(平成3～7)年 7 2001～2005(平成13～17)年 9 2011(平成23)年以降 2 1971～1980(昭和46～55)年 4 1986～1990(昭和61～平成2)年 6 1996～2000(平成8～12)年 8 2006～2010(平成18～22)年 10 わからない								
⑤ 太陽熱温水器	1 利用している 2 利用していない								
⑥ 太陽光発電	1 設置している(kw) 2 設置していない								
⑦ 新築時の断熱設計の配慮	1 とても配慮した 2 一定配慮した 3 少し配慮した 4 配慮しなかった 5 わからない 【※ 主観的な判断でご選択ください】								
⑧ 断熱リフォーム箇所	1 窓 2 壁 3 屋根または天井 4 床 5 していない								
⑨ 窓の断熱(記入日時点)	1 エコガラス(Low-Eガラス) 2 二重窓 3 通常の複層ガラス 4 単板ガラス 5 わからない								

～ あなたの身の回りの生活環境についてお聞きます ～

1. ご利用の自動車のタイプはどれですか。保有台数もご記入ください。（複数回答可）

合計

____台

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 ガソリン車〔 ____ 台〕 | 2 ディーゼル車〔 ____ 台〕 |
| 3 ハイブリッド車〔 ____ 台〕 | 4 プラグインハイブリッド車〔 ____ 台〕 |
| 5 電気自動車〔 ____ 台〕 | 6 燃料電池車〔 ____ 台〕 |
| 7 所有していない | |



2. 給湯器の熱源タイプを選択してください。ガスの場合は、種類もお答えください。

- | | | | |
|----------------------------|------|------|---------------|
| 1 ガス〔 a プロパンガス b 都市ガス 〕 | 2 灯油 | 3 電気 | 4 その他（ ____ ） |
|----------------------------|------|------|---------------|

- ↓
- | |
|-----------------------|
| 1 従来型のガス給湯器 |
| 2 省エネ型給湯器（エコジョーズ） |
| 3 家庭用燃料電池（エネファーム） |
| 4 ガスエンジン発電・給湯器（エコウィル） |

- ↓
- | |
|-------------------|
| 1 石油給湯器（ボイラー） |
| 2 省エネ型給湯器（エコフィール） |
| 3 家庭用燃料電池（エネファーム） |

- ↓
- | |
|---------------------------------|
| 1 電気温水器 |
| 2 家庭用自然冷媒（CO2）ヒートポンプ給湯機（エコキュート） |

2-1. 上記の給湯器は、太陽熱利用給湯システムと併用ですか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

3. 冬期に日常的に使用している暖房機器について、ご利用のタイプをご選択ください。（複数回答可）

- | | |
|------------------------|---|
| 1 エアコン | 2 エアコン以外の電気暖房（電気ストーブ、电热床暖房、夜間蓄熱式暖房、セラミックファンヒーター等） |
| 3 ガス暖房（床暖房、ストーブ、FF 式等） | 4 灯油暖房（ストーブ、FF 式等） |
| 5 薪・木質ペレットストーブ | 6 こたつやホットカーペット |
| 7 何も使用していない | 8 その他（ ____ ） |

3-1. セントラルヒーティングを使用していますか。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

4. 使用している照明器具のタイプについてお答えください。個数もご記入ください。（複数回答可）

① 電球タイプ	1 白熱電球〔 ____ 個〕	2 蛍光管タイプ電球〔 ____ 個〕
	3 LED 電球〔 ____ 個〕	
② 照明器具※	1 蛍光管タイプ照明〔 ____ 個〕	2 LED 照明〔 ____ 個〕

※電球使用の照明器具は除く（例：シャンデリア等の電球使用器具）

～ 自由回答 ～

省エネ等で取り組んでいることや疑問に思っていること、調査の感想など、ご自由にご記入ください。

ありがとうございました！

③ エネルギー消費実態把握調査

事務局記入欄

区分 ☐推進員 ☐市民団体 ☐一般市民 ☐企業等 ☐自治会等 No.

提出日：平成 年 月 日

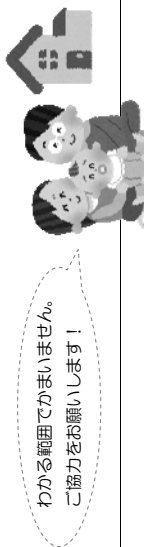
エネルギー消費量実態把握調査票

1. 世帯構成についてお答えください。(数値を記入)

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	人	人	人	人	人	人	人	人
女性	人	人	人	人	人	人	人	人

3. お住まいについてお答えください。(それぞれ該当するものに○)

① 家の造り	1 一戸建て	2 集合(マンションなど)	3 その他()
② 建築年代	1 1970(昭和45)年以前 4 1986~1990(昭和61~平成2)年 7 2001~2005(平成13~17)年 10 わからない	2 1971~1980(昭和46~55)年 5 1991~1995(平成3~7)年 8 2006~2010(平成18~22)年	3 1981~1985(昭和56~60)年 6 1996~2000(平成8~12)年 9 2011(平成23)年以降



2. 現在お住まいの市町村をご記入ください。

____ 都・道・府・県 ____ 市・町・村

4. エネルギーの消費量について、数値を記入してください。(調査票を受けとられた時点からご記入ください)

遡ってデータのご記入が可能でしたらお願いします。1月~3月は、2015年、2016年どちらかの該当する年に○をつけてください。

※伝票等の正確な数値でない場合は、カッコをつけていただき、「O」の場合には、「O」と記入してください。

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
① 電気(kWh) ※総量														
そのうち深夜電力契約分(kWh)														
② 太陽光発電(kWh)														
③ 都市ガス(m ³)														
④ LPガス(m ³)														
⑤ 灯油(l)														
⑥ ガソリン(l)														
⑦ 軽油(l)														

-----▶ ※年間把握されている場合、年間のエネルギー消費量をお答えください。 ⑤ 灯油 l ⑥ ガソリン l ⑦ 軽油 l

4. 調査結果

(1) 冷蔵庫の使用実態調査

① 世帯構成等の内訳について

地域センター	回収数
北海道センター	223 件
青森県センター	116 件
岩手県センター	5 件
秋田市センター	83 件
山形県センター	51 件
茨城県センター	134 件
群馬県センター	94 件
埼玉県センター	126 件
神奈川県センター	48 件
川崎市センター	27 件
新潟県センター	60 件
山梨県センター	54 件
富山県センター	25 件
長野県センター	31 件
長野市センター	26 件
愛知県センター	290 件
三重県センター	45 件
京都府センター	130 件
奈良県センター	26 件
和歌山県センター	153 件
鳥取県センター	166 件
島根県センター	296 件
広島県センター	30 件
徳島県センター	48 件
香川県センター	72 件
愛媛県センター	55 件
福岡県センター	31 件
熊本県センター	6 件
鹿児島県センター	133 件
合計	2,584 件

— はじめに —

冷蔵庫の使用実態調査の集計結果については、左の表のとおり、合計 2,584 件の回答があったが、『冷蔵庫を保有していない方』、または『回答欄にほとんど回答をしていない方』を除いて集計を行ったため、n=2,513 となる。

回答者の世帯構成について、「2 人世帯」が 36.1%で最も多く、次いで、「3 人世帯」が 23.9%、「4 人世帯」が 15.7%となっている。

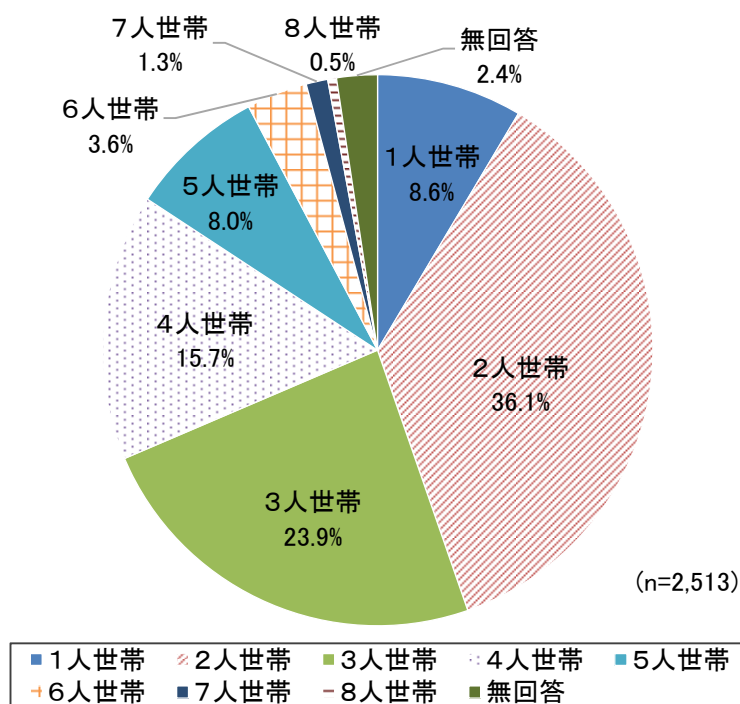


図 4-1 世帯構成 (割合)

高齢者のいる世帯、若中年者中心の世帯について、「高齢者のいる世帯」は、60.5%と6割を超えている。

高齢者のいる世帯、若中年者中心の世帯について、世帯人数別にみると、「高齢者のいる世帯」は2人世帯が最も多くなっている。

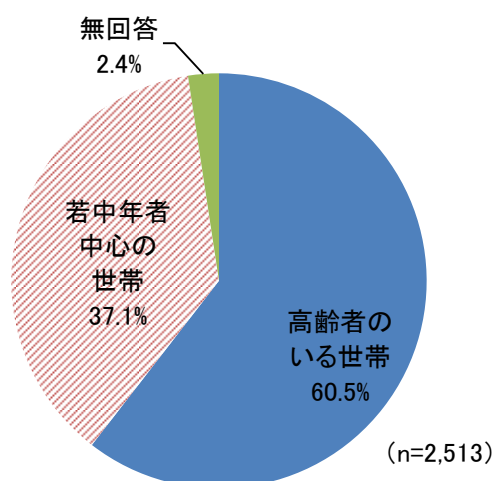
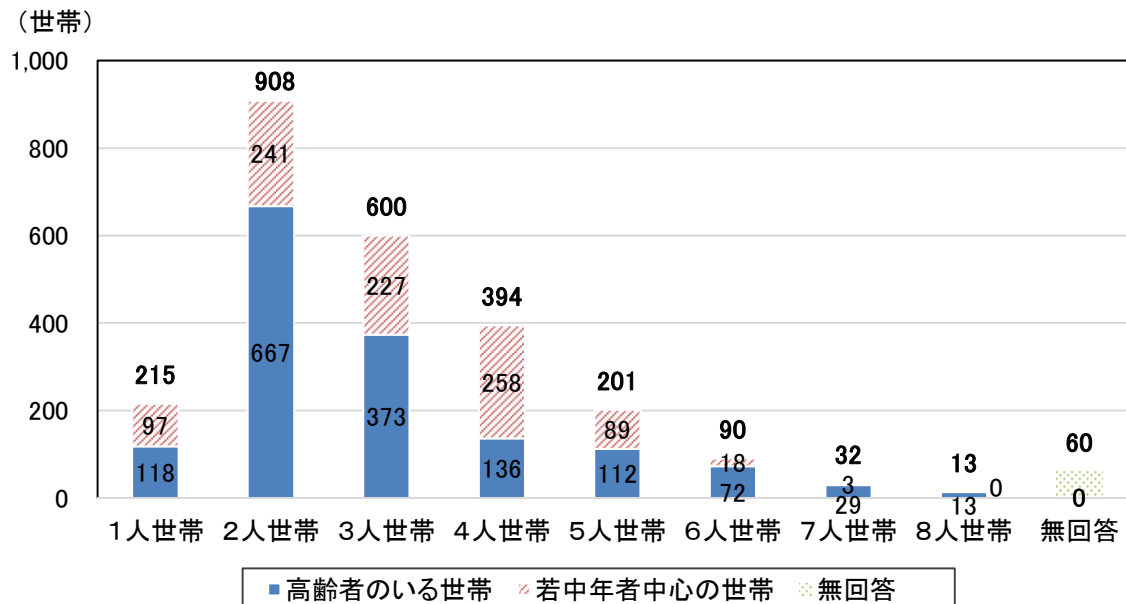


図 4-2 高齢者のいる世帯、若中年者中心の世帯（割合）



図表 4-3 高齢者のいる世帯、若中年者中心の世帯 世帯人数別（世帯数）

② 冷蔵庫の保有台数について（製造年代別）

冷蔵庫の保有台数について、1 台目から 3 台目の冷蔵庫で「2000 年代」が最も多くなっている。また、3 台目の冷蔵庫は、1990 年代までの冷蔵庫が 3 割近くを占めている。

（単位：件）

	1950 年代	1960 年代	1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年代	2010 年代	無回答	計
1 台目	0	2	0	15	249	1,102	951	194	2,513
2 台目	1	0	1	15	99	290	161	115	682
3 台目	0	0	1	7	34	49	26	32	149

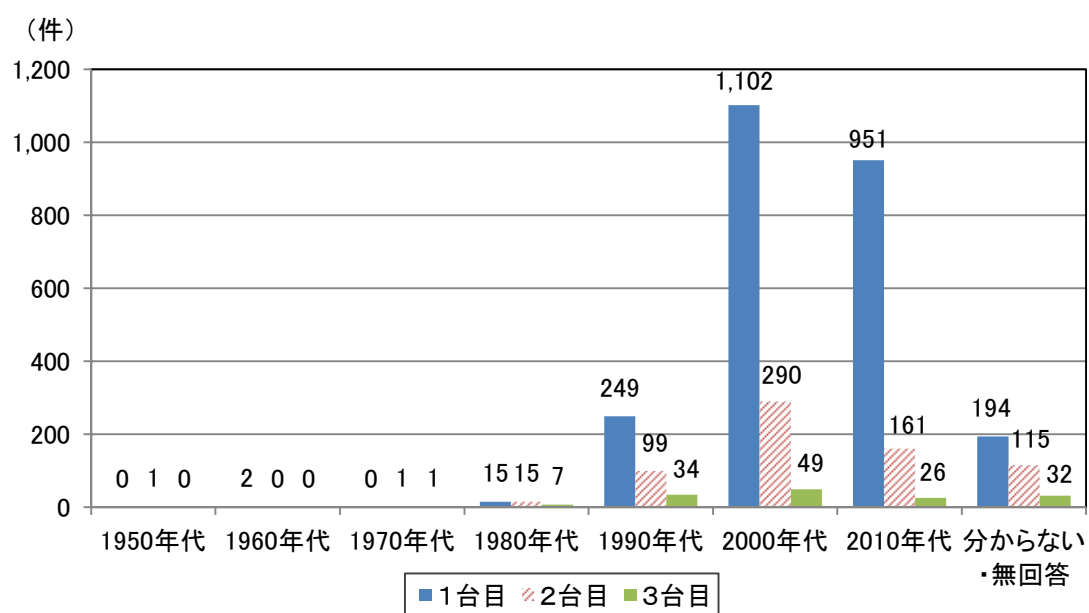
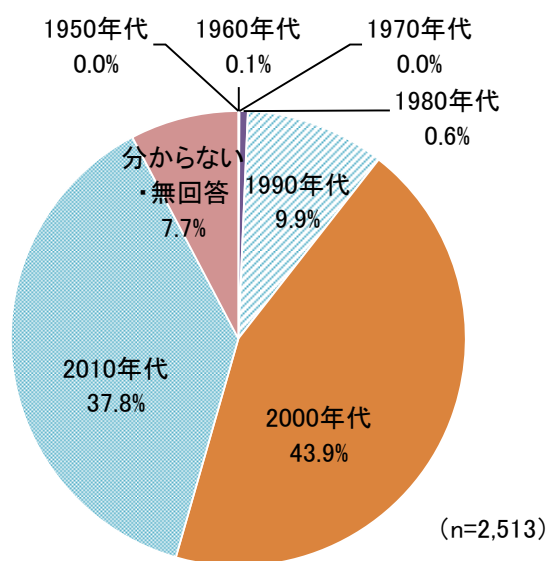
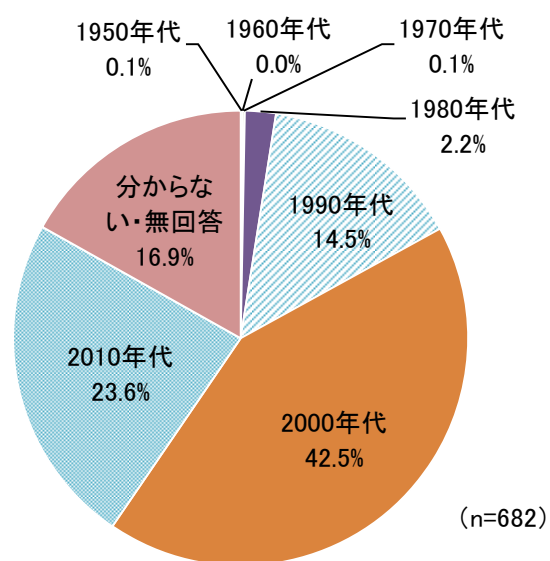


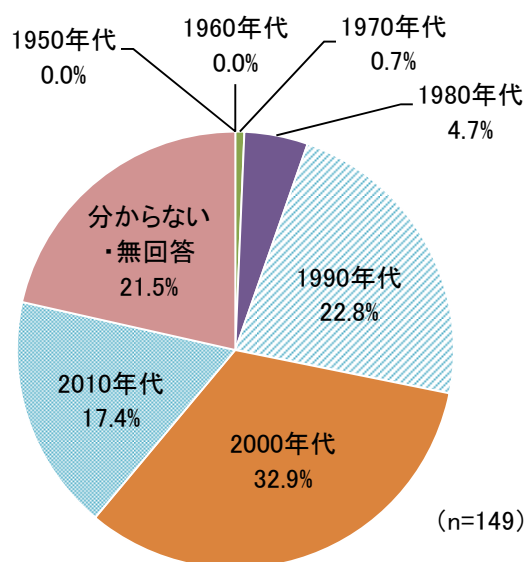
図 4-4 冷蔵庫の保有台数 製造年代別



【1台目】



【2台目】



【3台目】

図 4-5 冷蔵庫の保有割合 製造年代別

③ 冷蔵庫の大きさについて

冷蔵庫の大きさについて、1台目の冷蔵庫は「大型」が85.2%と、8割を超えている。また、2台目、3台目の冷蔵庫では「小型」がやや多くみられる。

(単位:件)

	大型	中型	小型	わからない・無回答	計
1台目	2,140	212	89	72	2,513
2台目	208	178	254	42	682
3台目	21	31	78	19	149

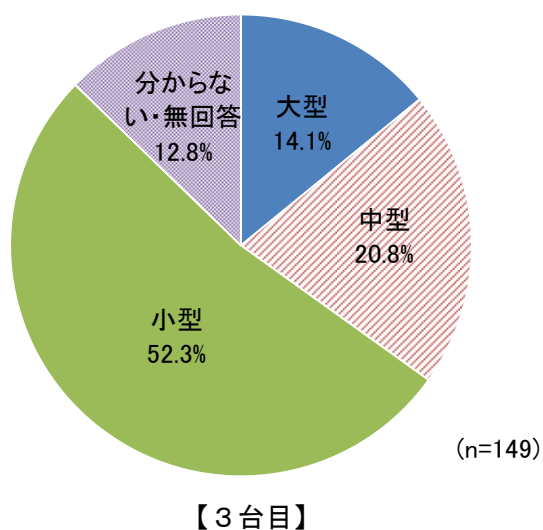
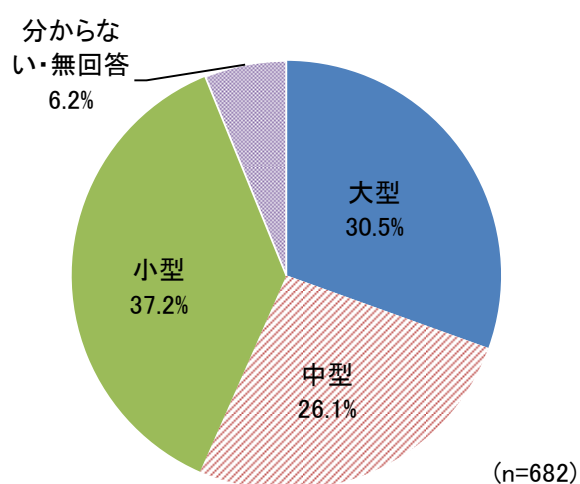
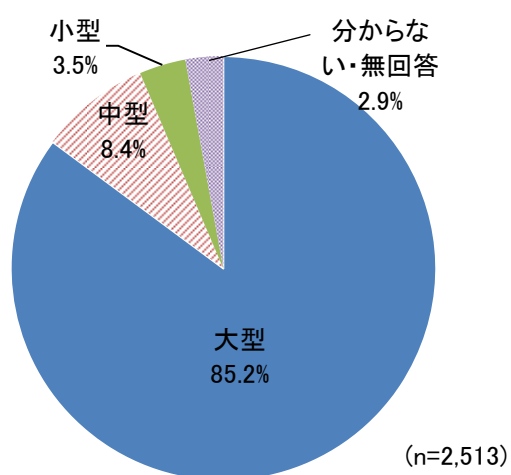


図 4-6 冷蔵庫の大きさ

④ 中身の詰め具合について

中身の詰め具合について、1台目の冷蔵庫は「6～8割」が47.4%と、5割近くを占めている。2台目の冷蔵庫では、「3～5割」と「6～8割」が約3割と同程度、3台目の冷蔵庫では、「3～5割」が2割以上で、最も多くなっている。

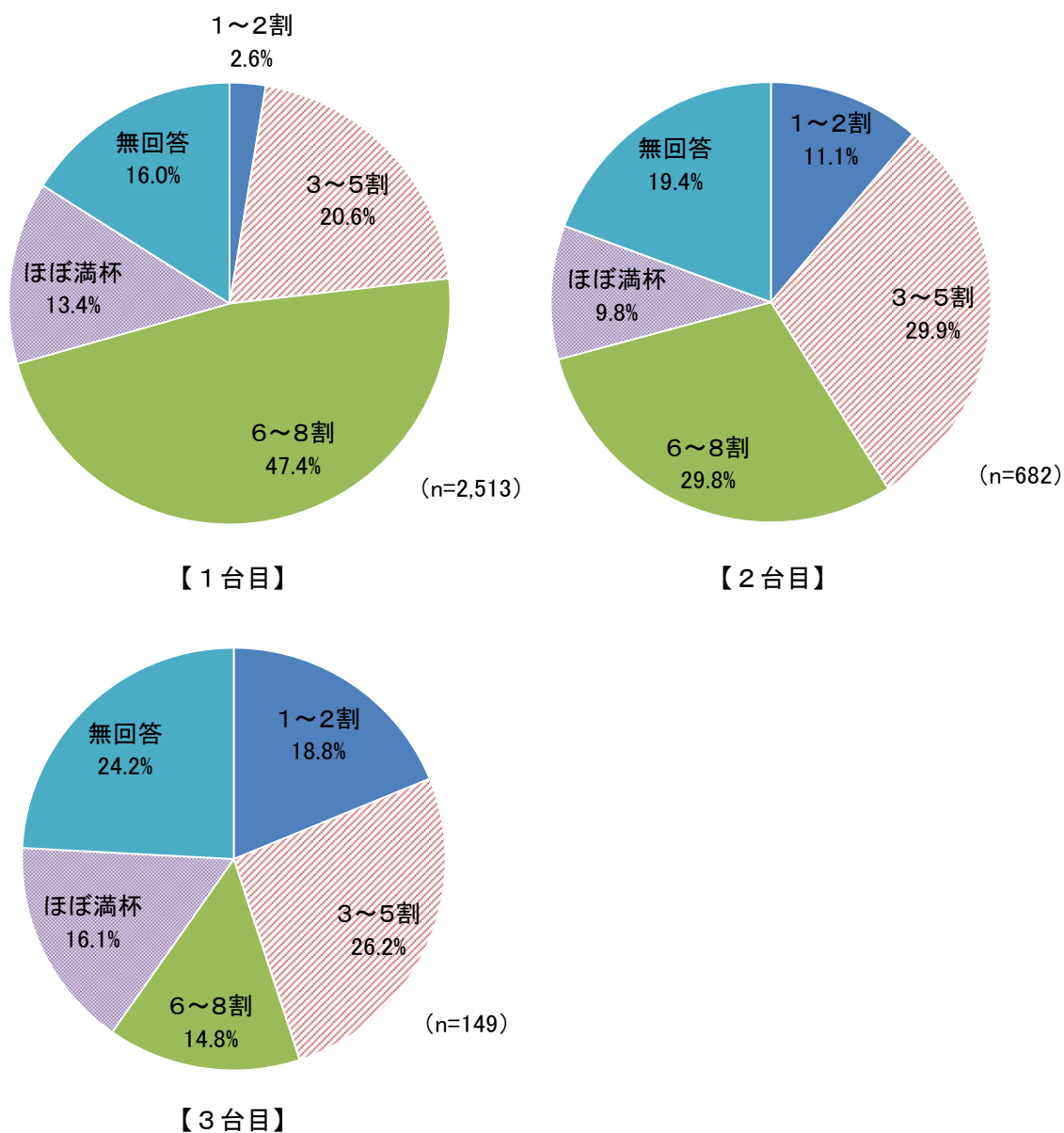


図 4-7 中身の詰め具合（割合）

⑤ 温度設定について

温度設定について、1 台目、2 台目、3 台目の冷蔵庫で、「中」が最も多くなっている。「ECOモード等」、「弱」は、1 台目の冷蔵庫で2 割以上、2 台目、3 台目の冷蔵庫で、約 2 割となっている。

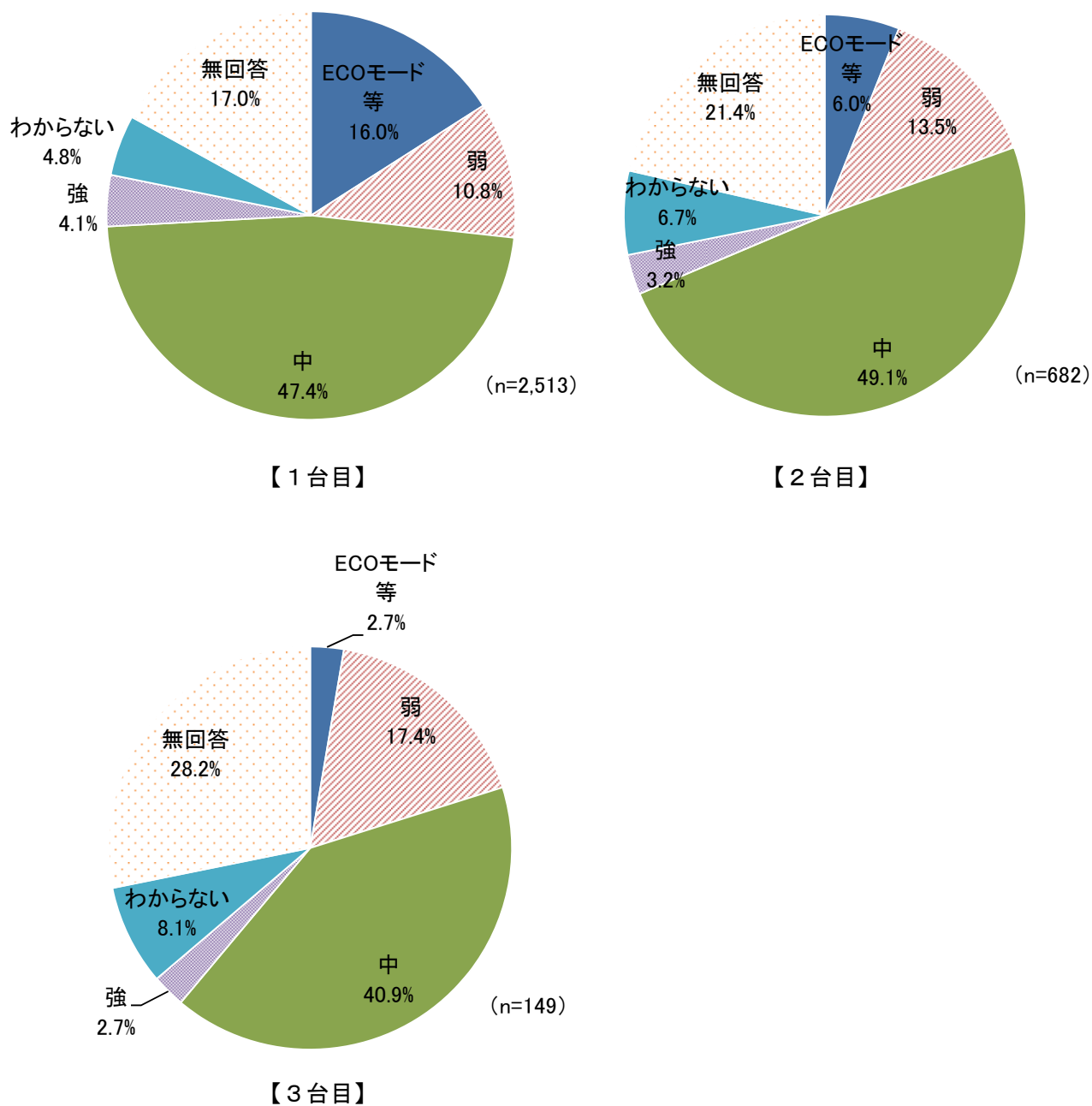


図 4-8 温度設定（割合）

⑤- i 季節によって設定温度を変えているか

季節によって設定温度を変えているかは、「変えている」は1台目の冷蔵庫で3割、2台目の冷蔵庫で2割、3台目の冷蔵庫では2割以下となっている。

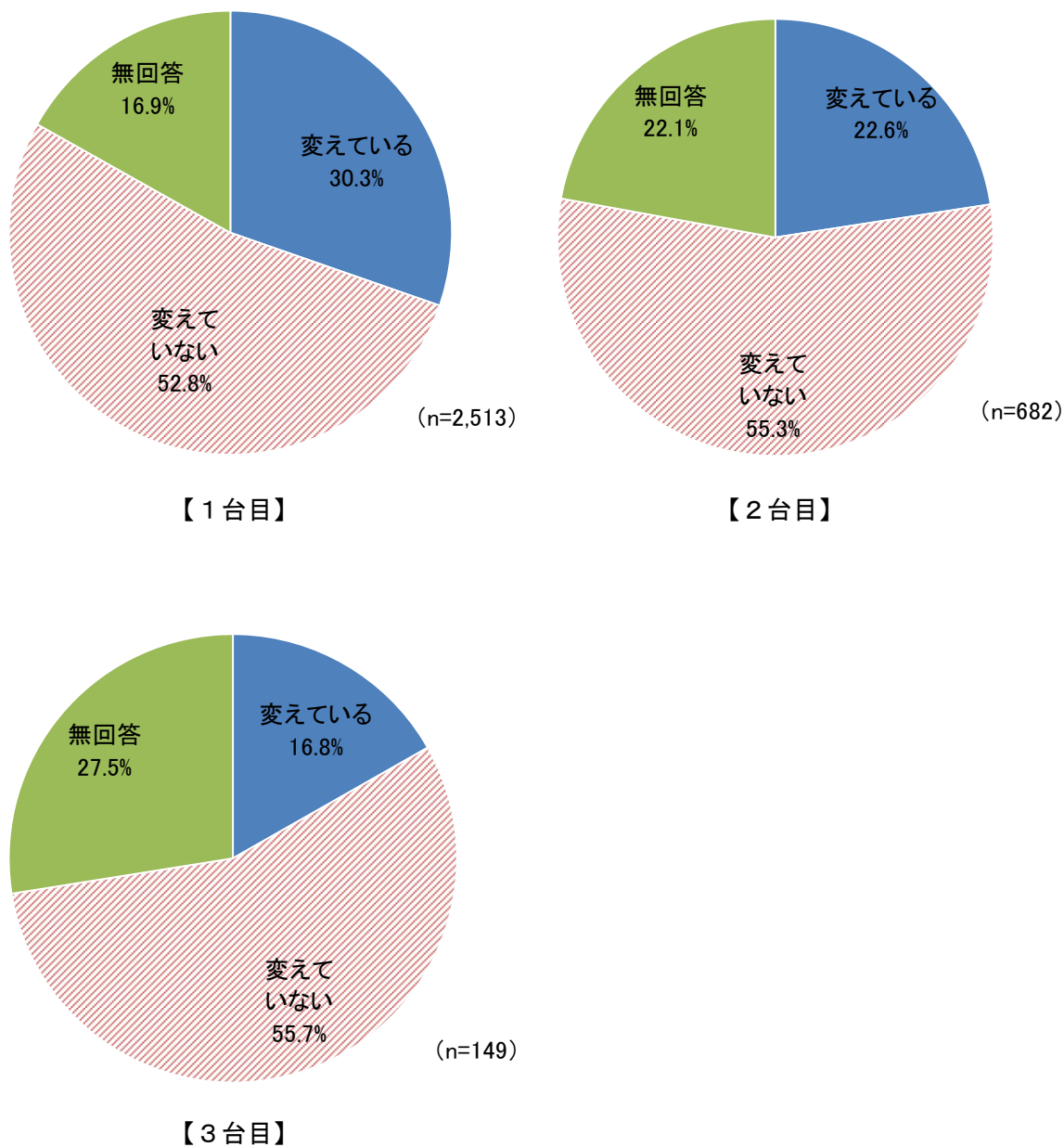


図 4-9 季節による温度設定の変化（割合）

1 台目の冷蔵庫で、季節によって設定温度を変えているかを世帯別にみると、「変えている」は、すべての世帯で2割、3割程度となっている。

冷蔵庫の大きさ別にみると、「変えている」は、小型で4割となっている。

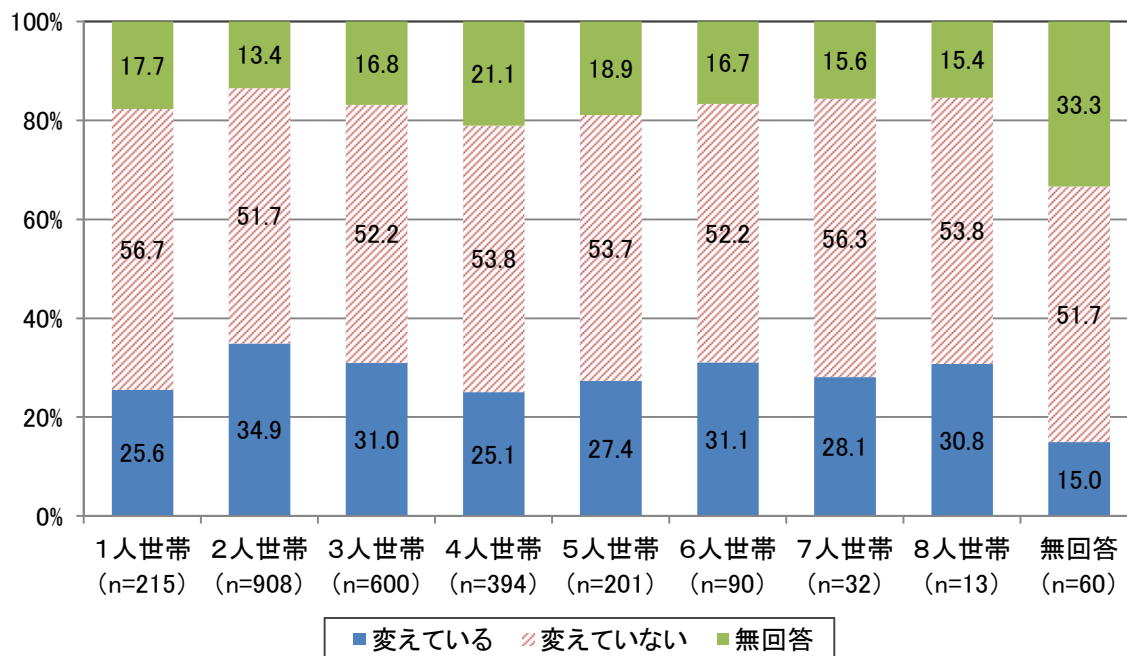


図 4-10 【1 台目】 季節による温度設定の変化 世帯別（割合）

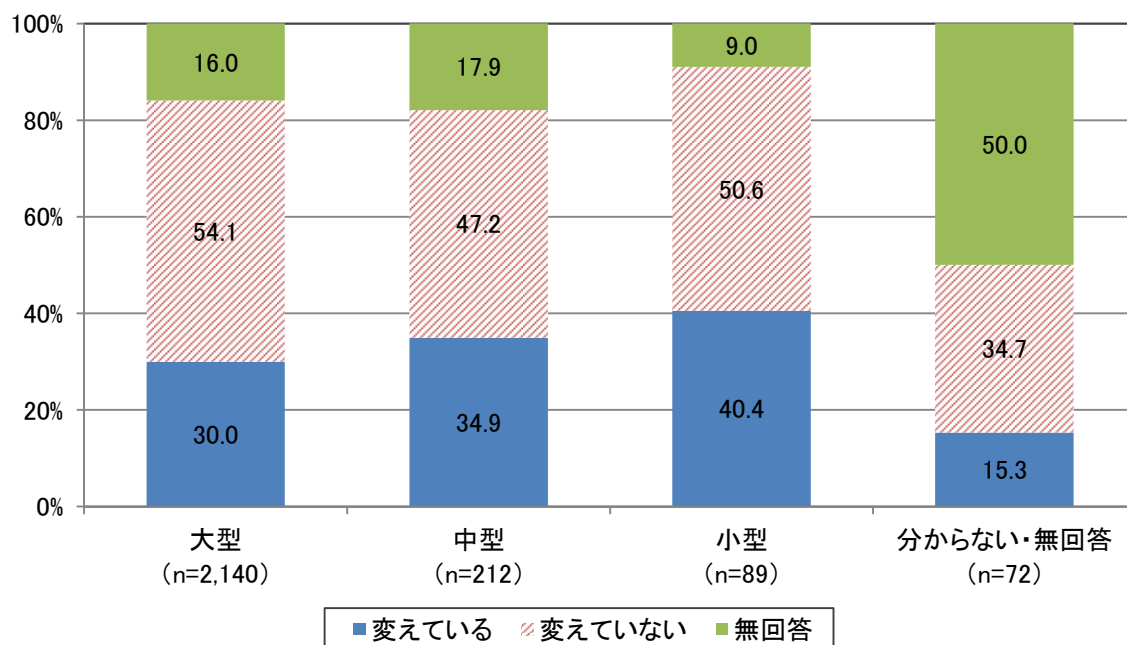


図 4-11 【1 台目】 季節による温度設定の変化 冷蔵庫の大きさ別（割合）

2台目の冷蔵庫で、季節によって設定温度を変えているかを世帯別にみると、「変えている」は、すべての世帯で1割、2割程度となっている。

冷蔵庫の大きさ別にみると、「変えている」は、中型で約3割となっている。

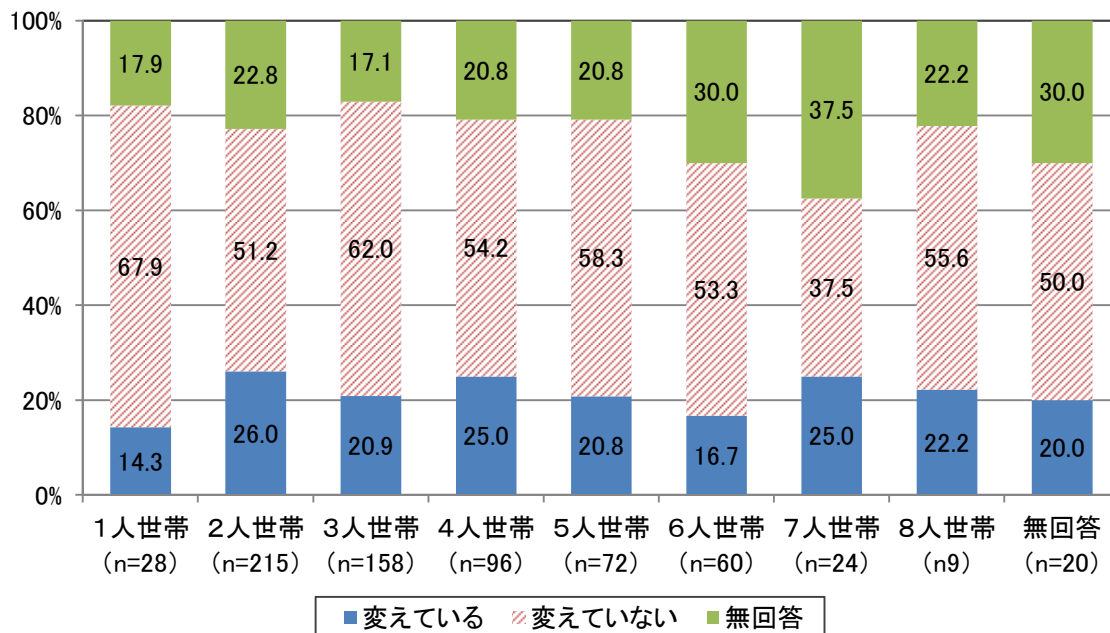


図 4-12 【2台目】季節による温度設定の変化 世帯別（割合）

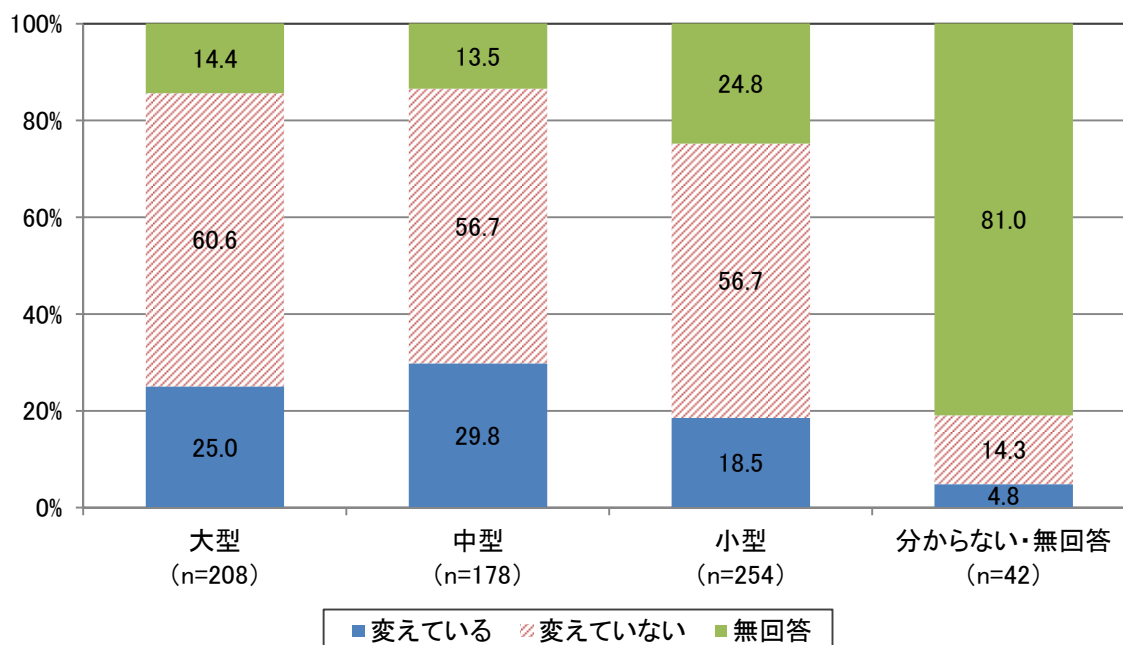


図 4-13 【2台目】季節による温度設定の変化 冷蔵庫の大きさ別（割合）

使用用途別にみると、「変えている」は、仕事で使用している場合、3割を超えている。

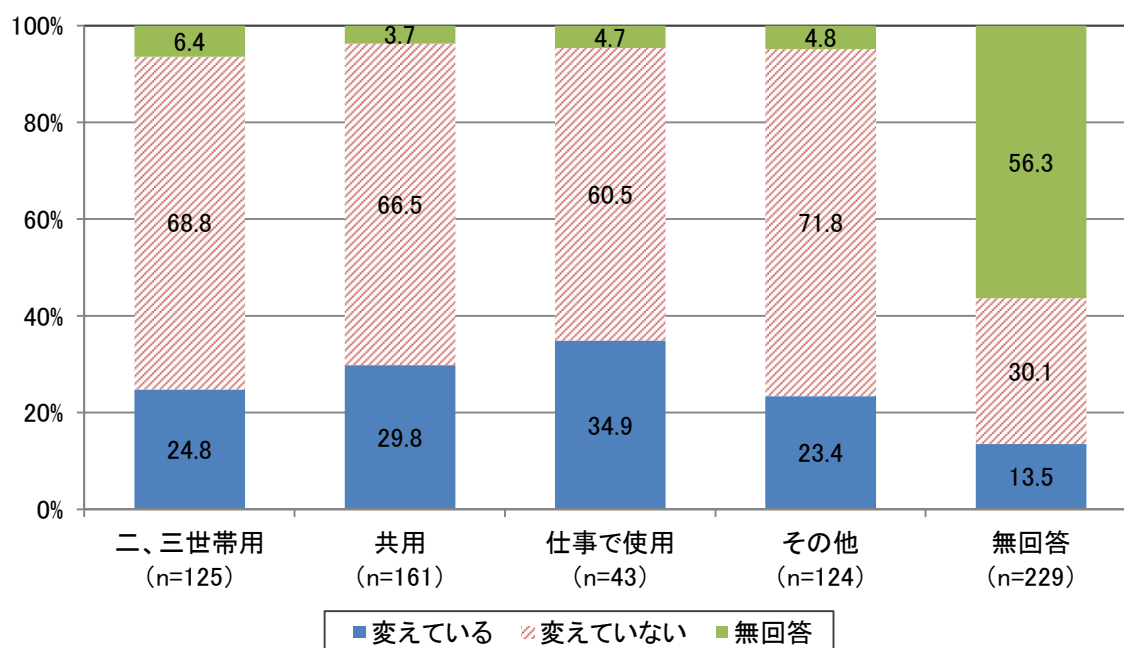


図 4-14 【2 台目】季節による温度設定の変化 使用用途別（割合）

3 台目の冷蔵庫で、季節によって設定温度を変えているかを冷蔵庫の大きさ別にみると、「変えている」は、すべての世帯で1割程度となっている。

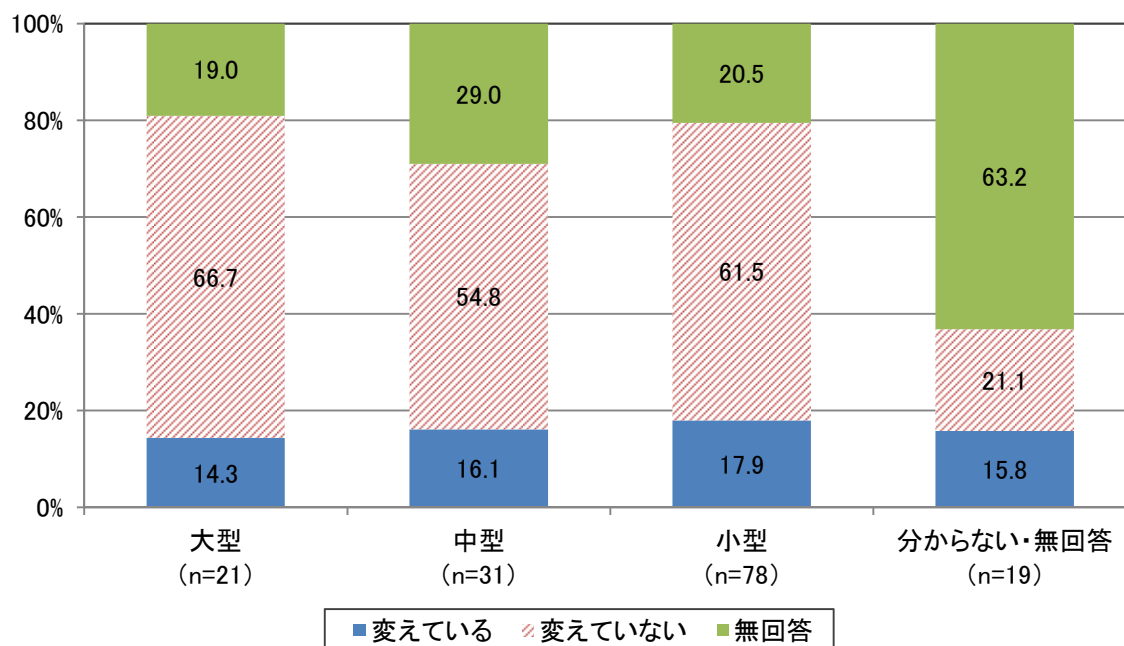


図 4-15 【3 台目】季節による温度設定の変化 冷蔵庫の大きさ別（割合）

⑥ 買い替えの検討について

買い替えの検討について、すべての冷蔵庫で「壊れたら」が5割を超え、最も多くなっている。

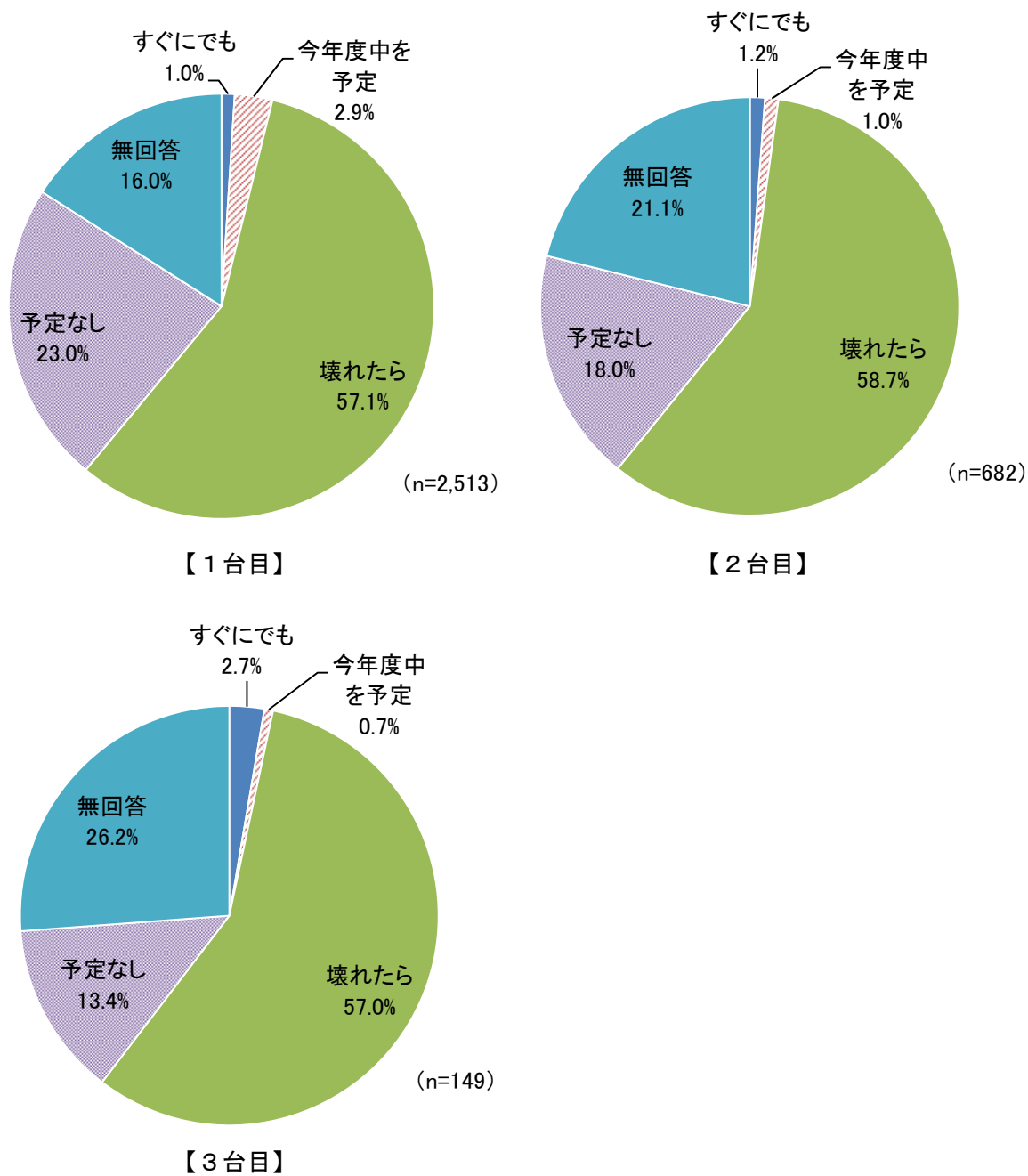


図 4-16 買い替えの検討（割合）

1 台目の冷蔵庫で、買い替えの検討について年代別にみると、1990 年代の冷蔵庫で「今年度中を予定」が 1 割程度みられる。

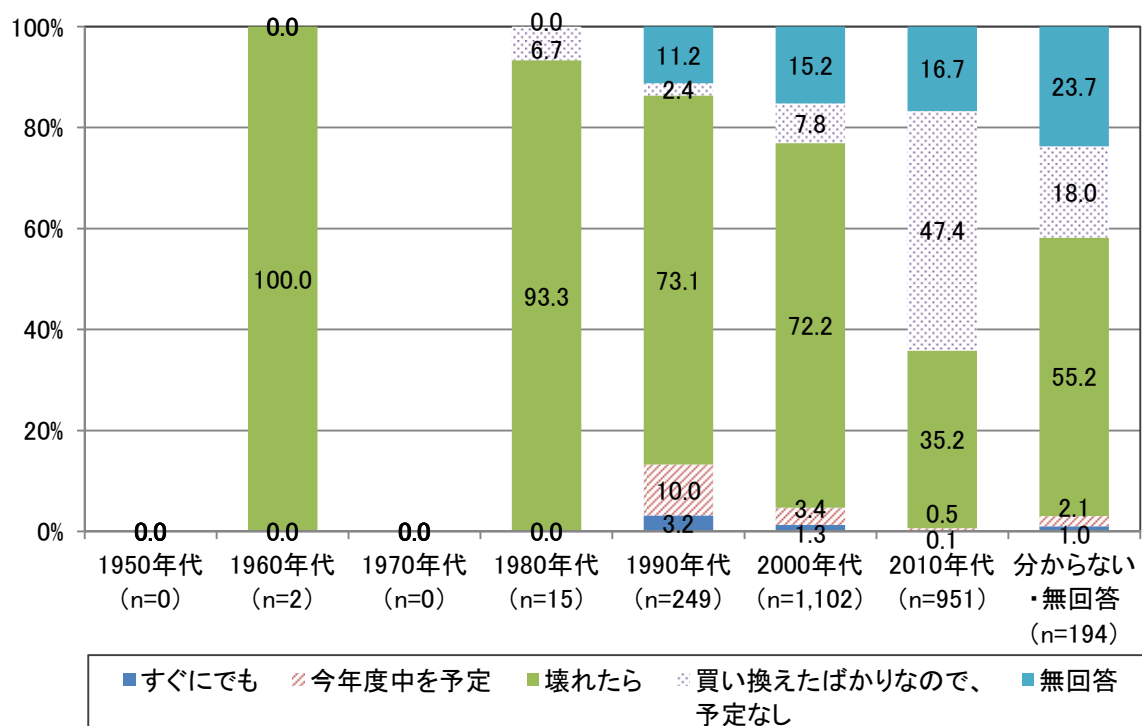


図 4-17 【1 台目】買い替えの検討 年代別（割合）

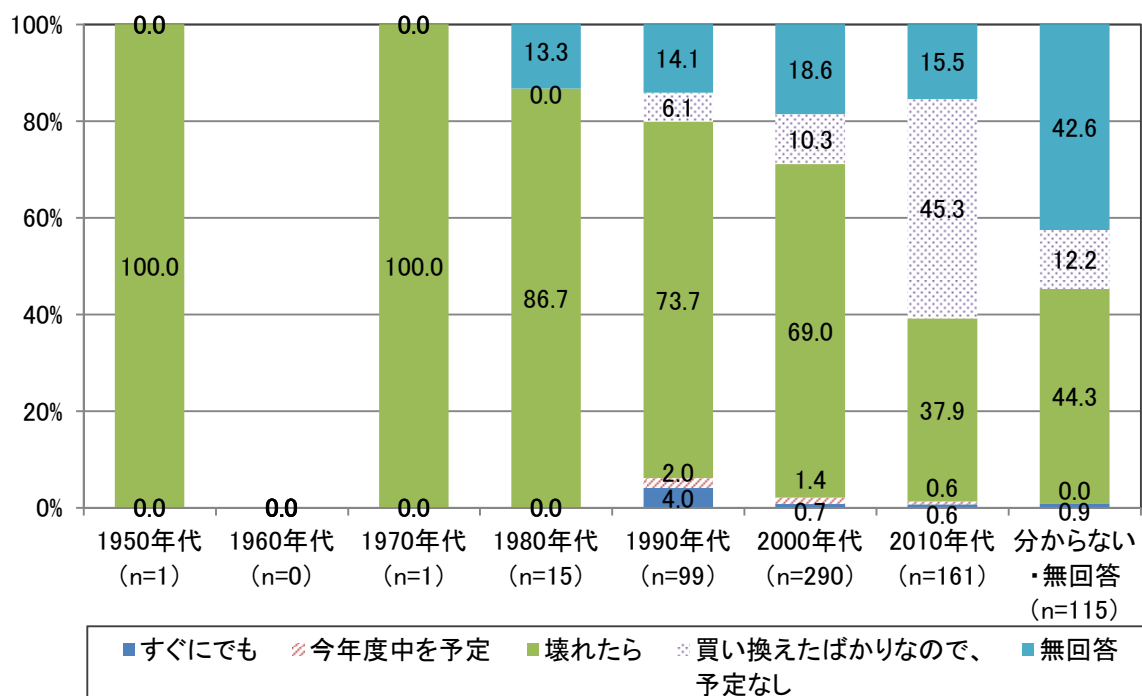


図 4-18 【2 台目】買い替えの検討 年代別（割合）

⑦ 使用目的（2台目以降）

使用目的について、2台目の冷蔵庫では「共用」、3台目の冷蔵庫では「その他」がそれぞれ2割を超え、最も多くなっている。

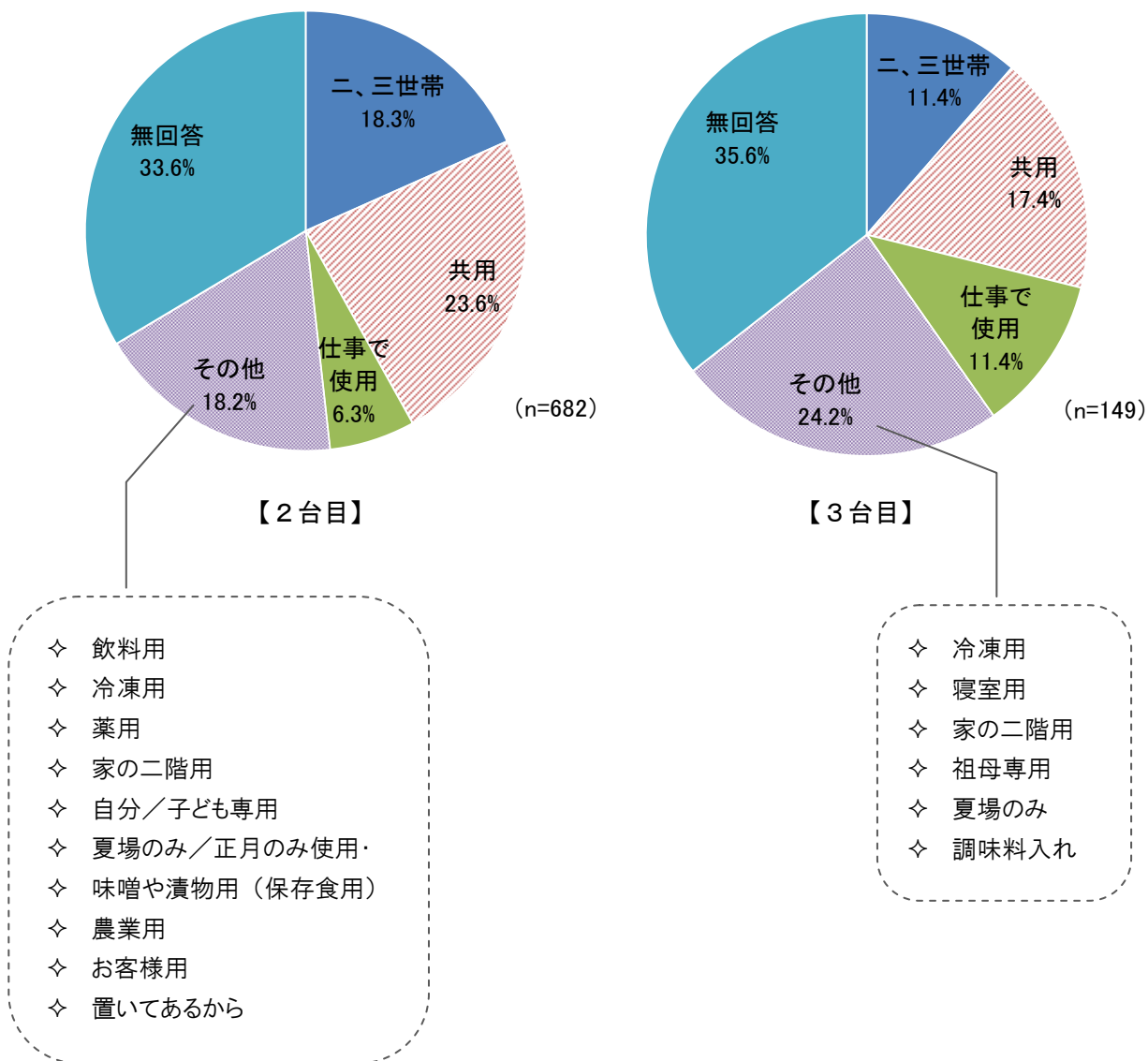


図 4-19 使用目的（割合）

使用目的別に、使用停止の可能性をみると、2台目の冷蔵庫では、二、三世帯用の冷蔵庫で「日常生活に必要で、使用停止は難しい」が7割を超えている。また、仕事で使用している冷蔵庫は、「使用をやめても困らない」が2割を超えている。

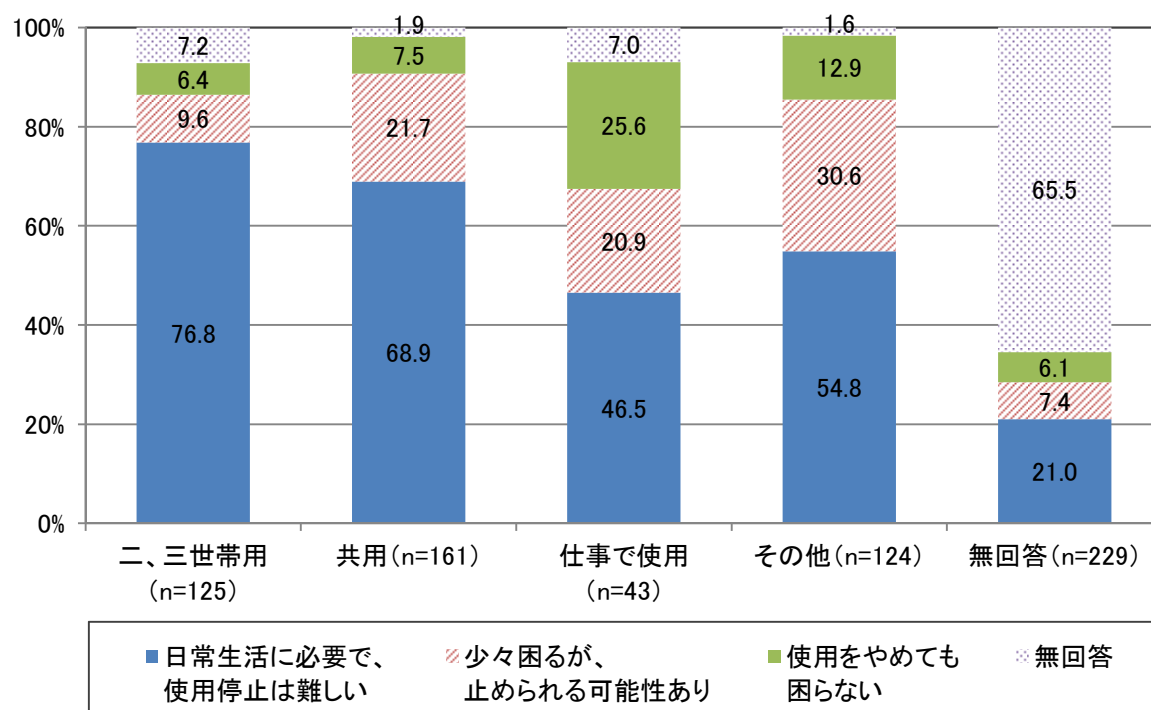


図 4-20 【2台目】使用目的別 使用停止の可能性（割合）

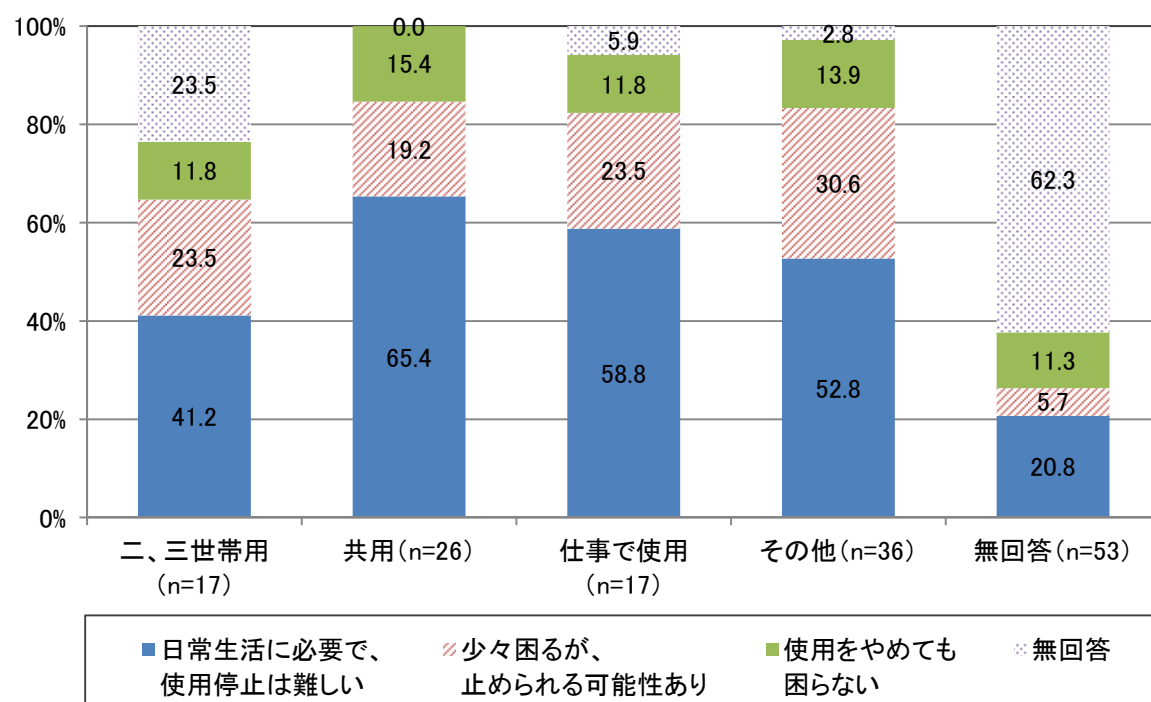


図 4-21 【3台目】使用目的別 使用停止の可能性（割合）

⑧ 使用停止の可能性について（２台目以降）

使用停止の可能性について、２台目の冷蔵庫では、「日常生活に必要で、使用停止は難しい」が５割、３台目の冷蔵庫では４割を超え、最も多くなっている。

また、３台目の冷蔵庫では、「使用をやめても困らない」が１割程度みられる。

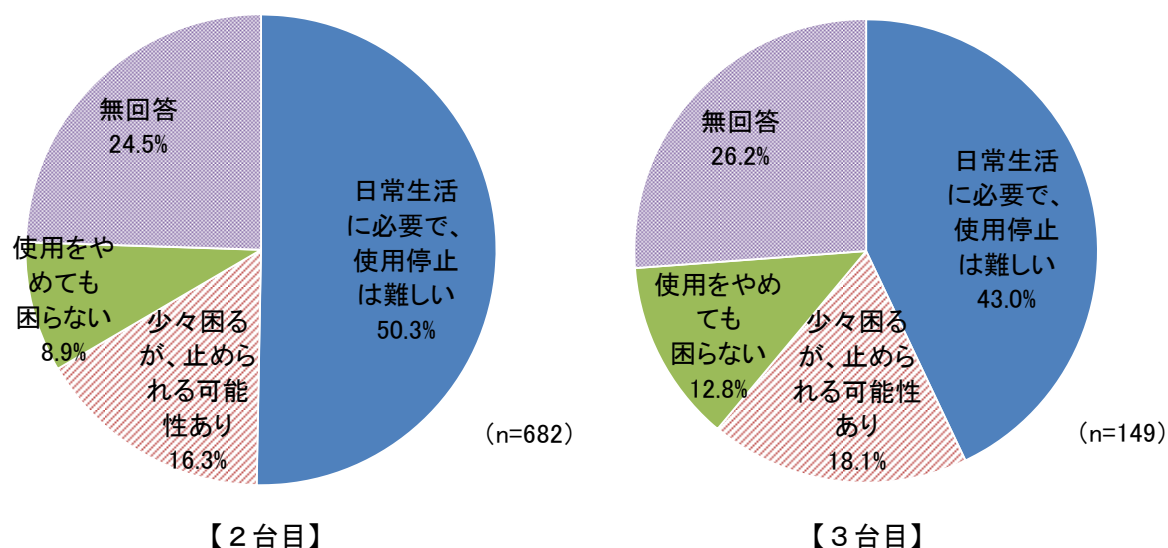


図 4-22 使用停止の可能性（割合）

⑨ 冷蔵庫を購入する際に重視する点について

冷蔵庫を購入する際に重視する点について、１位に挙げられたものは「冷蔵庫のサイズ」が最も多く、次いで、「省エネであること」となっている。

全体的にみると、「価格」と「省エネ」が概ね同程度となっている。

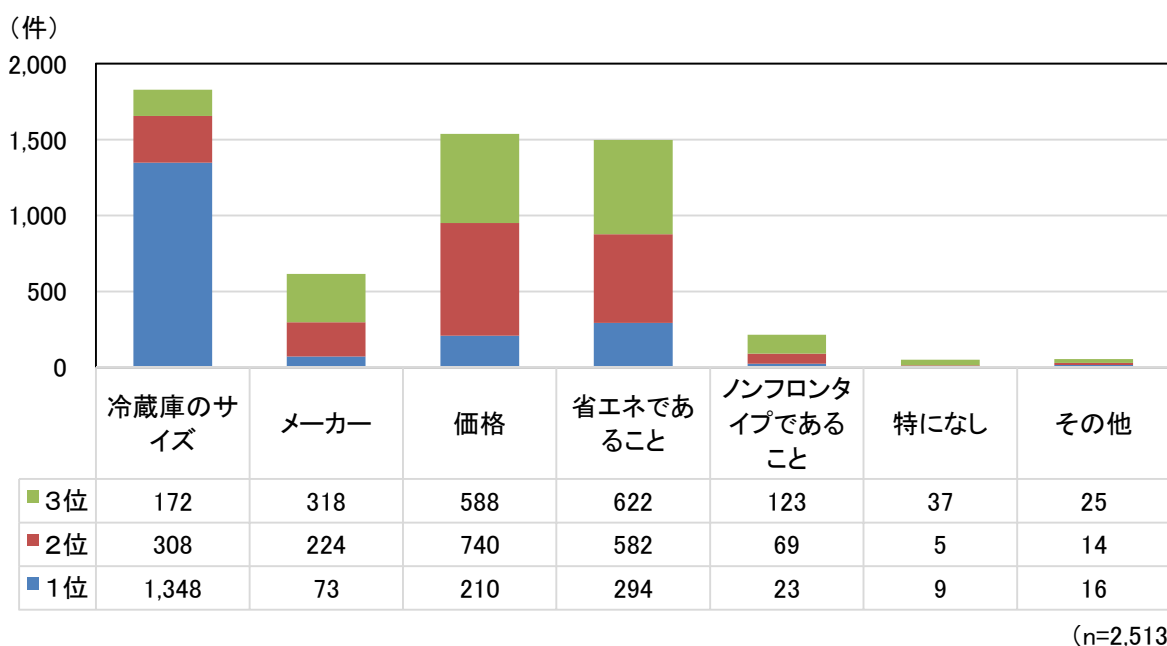
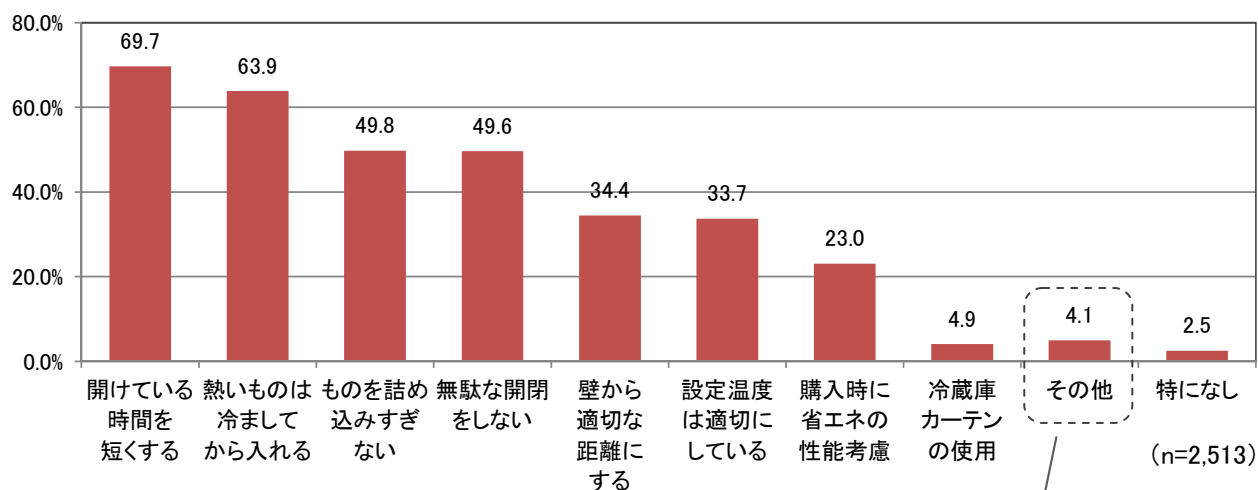


図 4-23 冷蔵庫を購入する際に重視する点（件数）

⑩ 冷蔵庫の省エネとして取り組んでいること

冷蔵庫の省エネとして取り組んでいることは、「開けている時間を短くする」が69.7%と最も多く、次いで、「熱いものは冷ましてから入れる」が63.9%、「ものを詰め込みすぎない」が49.8%となっている。また、「購入時に省エネの性能配慮」は2割程度となっている。



- ✧ ドアのパッキングの劣化を確認する。
- ✧ フィルターを清掃する。
- ✧ 冷蔵庫周辺に熱源を置かない。
- ✧ 冷蔵庫背面が吸気口のそばにあるように設置している。
- ✧ 氷はほとんど使わないので、製氷機機能は Off にしている。
- ✧ 食材を探す時間を省くため、冷蔵庫の中の食材を書いたメモを貼っておく。

図 4-24 冷蔵庫の省エネとして取り組んでいること（割合）

（２）一般住宅の設備導入実態調査

① 世帯構成の内訳について

世帯構成の内訳（合計 3,922 人）について、60 代以上の割合が他の世代に比べやや多くみられる。また、世帯構成の割合では、「3 人以上の世帯」が多くみられる。

（単位：人）

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
男性	213	168	131	203	268	224	369	343
女性	192	176	143	221	277	262	396	336

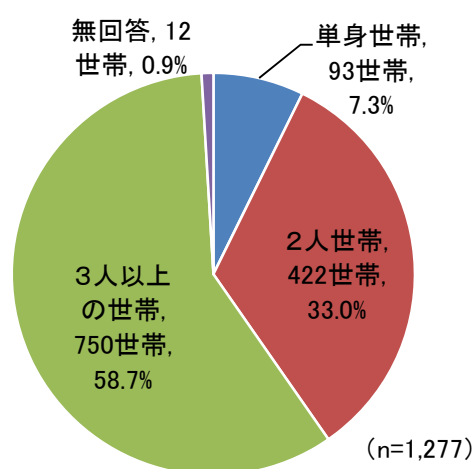


図 4-25 世帯構成

② ガスの種類について

ガスの種類について、「都市ガス」と「LP ガス」がそれぞれ 3 割程度となっている。

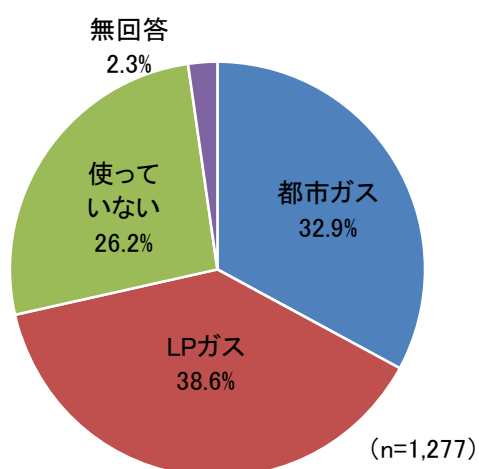


図 4-26 ガスの種類（割合）

③ 料理用コンロの熱源について

料理用コンロの熱源について、「ガス」が 66.1%、「電気」が 32.7%となっている。

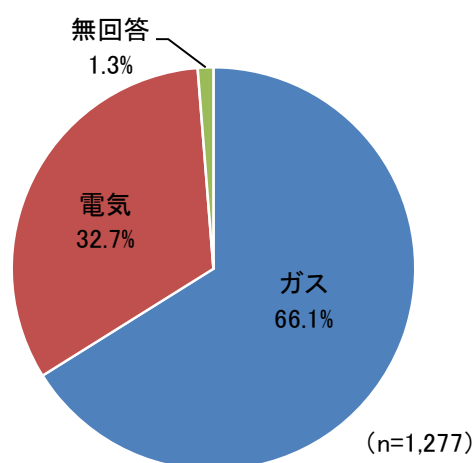


図 4-27 料理用コンロの熱源（割合）

④ お風呂の熱源について

お風呂の熱源について、「ガス」が 47.2%と、約 5 割となっている。次いで、「電気」が 30.1%と 3 割となっている。

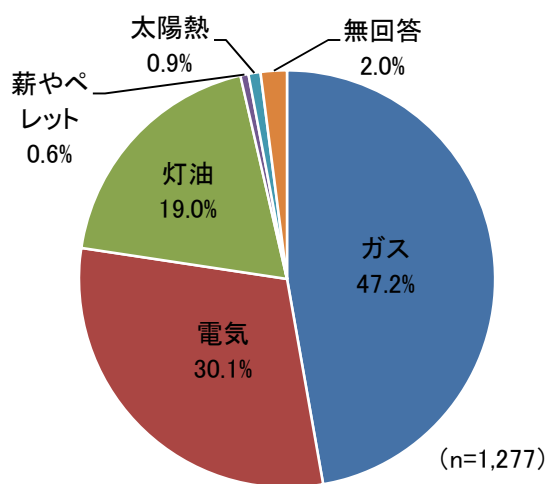


図 4-28 お風呂の熱源（割合）

⑤ オール電化向けの契約について

オール電化向けの契約について、「している」は24.7%と、2割を超えている。また、オール電化契約世帯の給湯機の熱源割合は、「エコキュート」が59.5%と約6割となっている。

オール電化契約世帯を都道府県別にみると、富山県と鳥取県で2割を超えている。

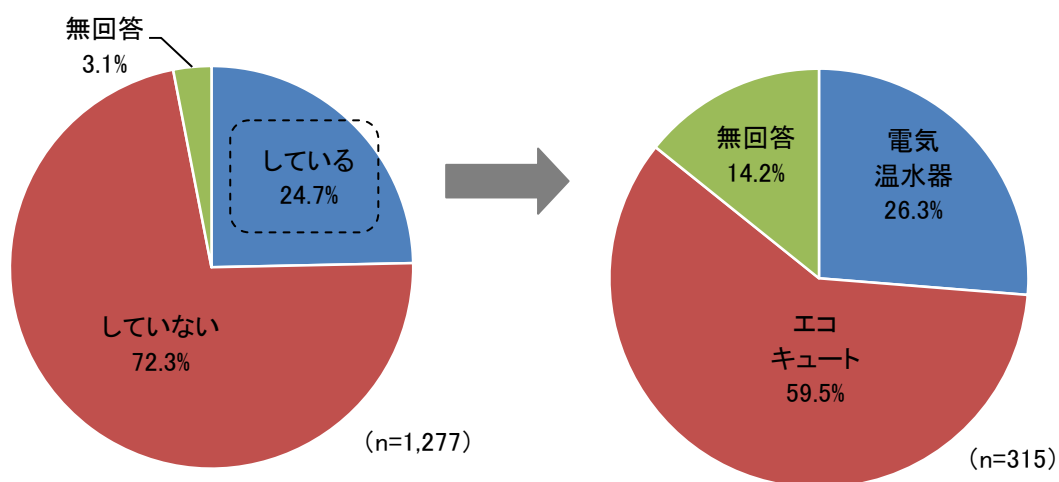


図 4-29 オール電化向けの契約と、オール電化契約世帯の給湯機の熱源（割合）

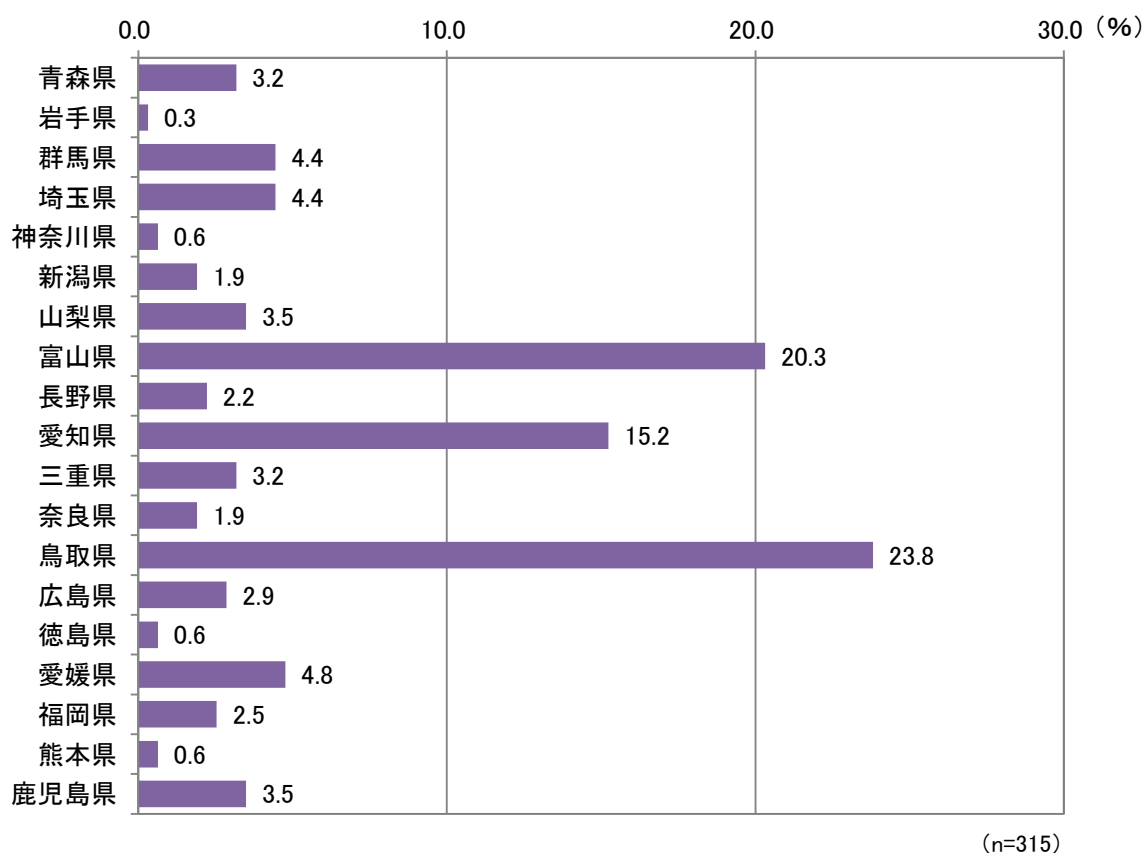


図 4-30 オール電化契約世帯 都道府県別（割合）

⑥ 家の所有について

家の所有について、「持ち家」は83.9%と、8割を超えている。

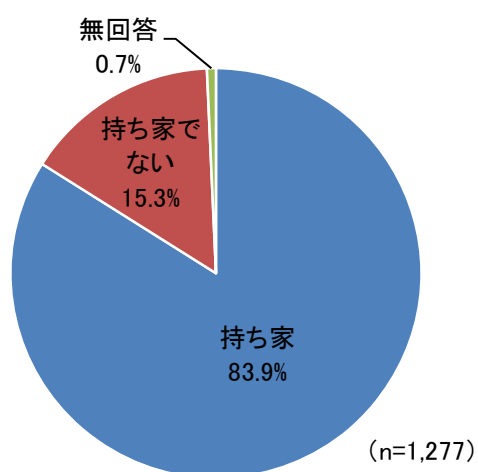


図 4-31 家の所有（割合）

⑦ 家の造りについて

家の造りについて、「一戸建て」は80.7%と、8割を超えている一方、「集合（マンションなど）」は17.2%となっている。

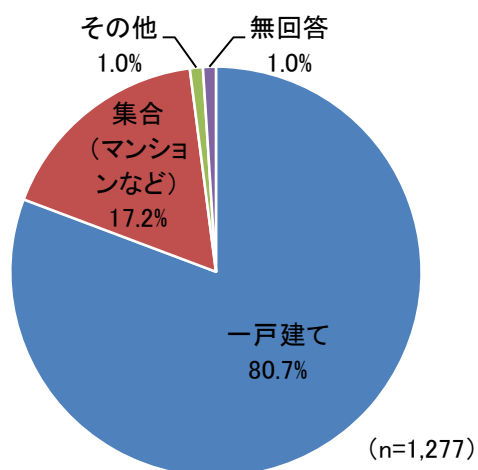


図 4-32 家の造り（割合）

⑧ 延べ床面積について

延べ床面積について、「100～150 m²未満（約30坪～45坪）」が400件で最も多く、次いで、「150～200 m²未満（約45坪～60坪）」が230件となっている。

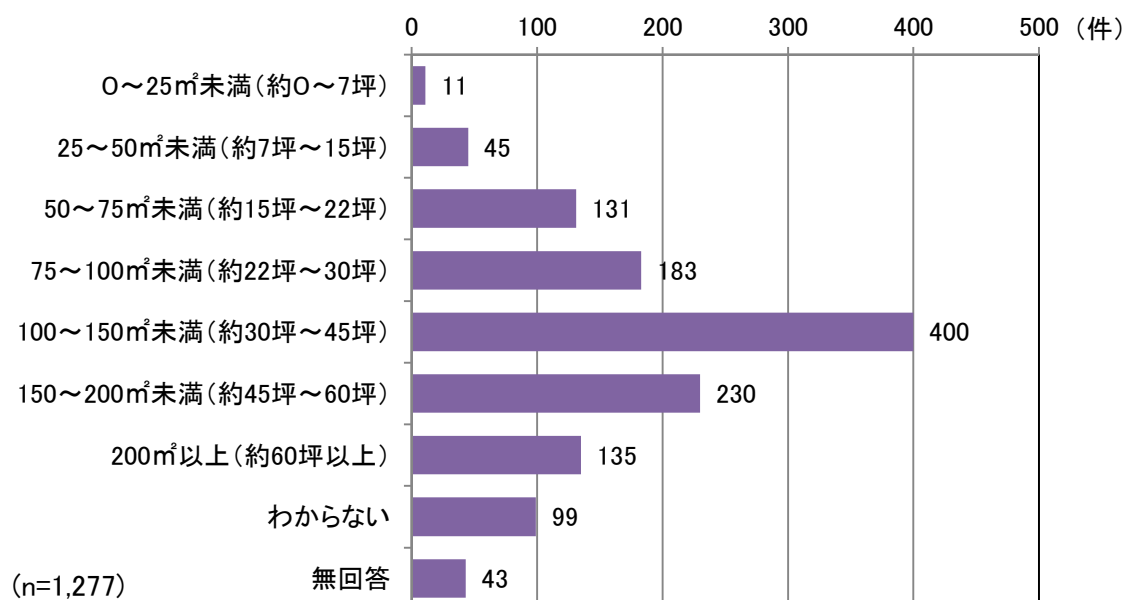


図 4-33 延べ床面積（件数）

⑨ 建築年代について

建築年代について、「1971年～1980年（昭和46～55）年」の建築物の件数が最も多くなっている。1985年以前の建築物を含め、30年以上経過している建築物が3割以上を占めている。

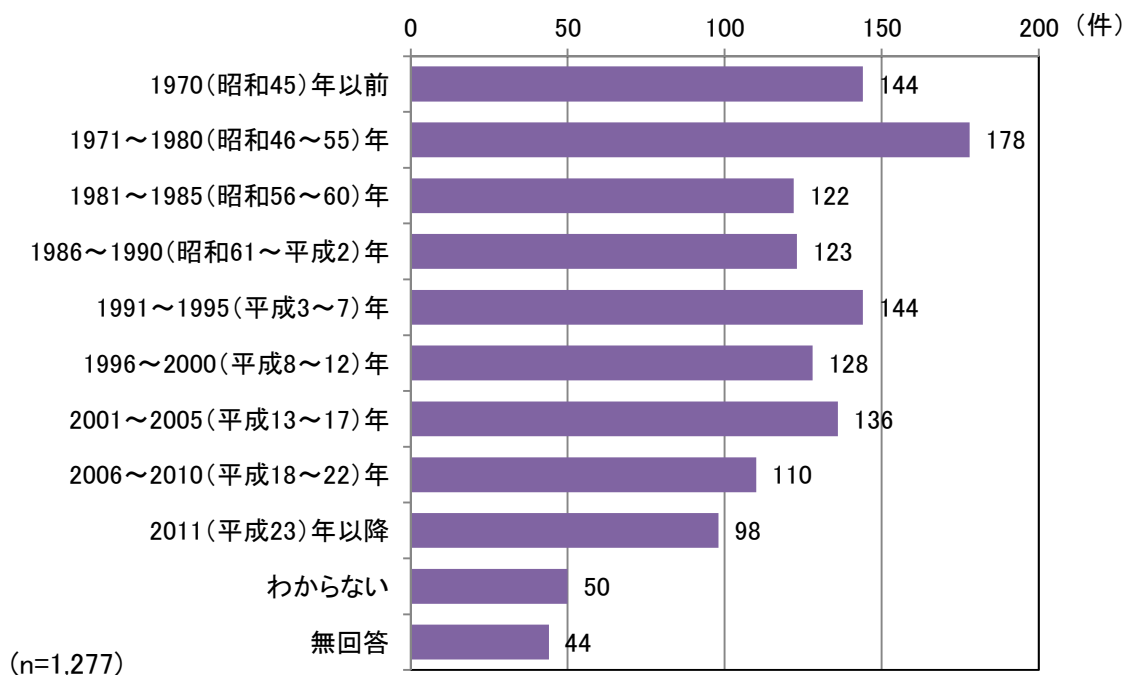


図 4-34 建築年代（件数）

⑩ 太陽熱温水器の利用について

太陽熱温水器の利用について、「利用している」は8.4%と、約1割となっている。

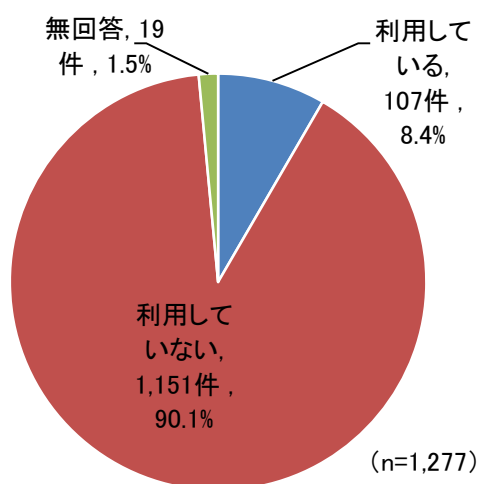


図 4-35 太陽熱温水器の利用

⑪ 太陽光発電の設置状況について

太陽光発電の設置について、「設置している」は14.6%と、1割程度みられる。

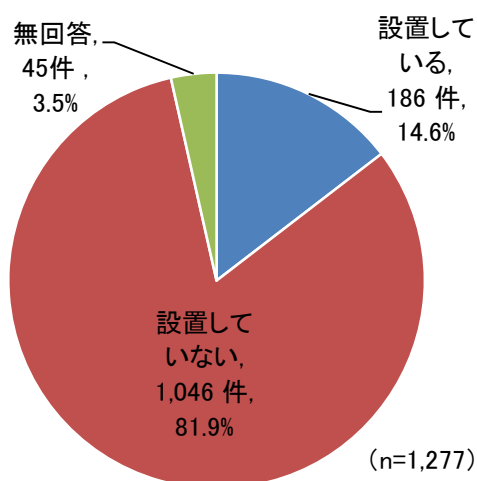


図 4-36 太陽光発電の設置状況

⑫ 新築時の断熱設計の配慮について

新築時の断熱設計の配慮について、建築年代別にみると、法の施行・改正のタイミングで、「とても配慮した」の割合が増える傾向がみられる。

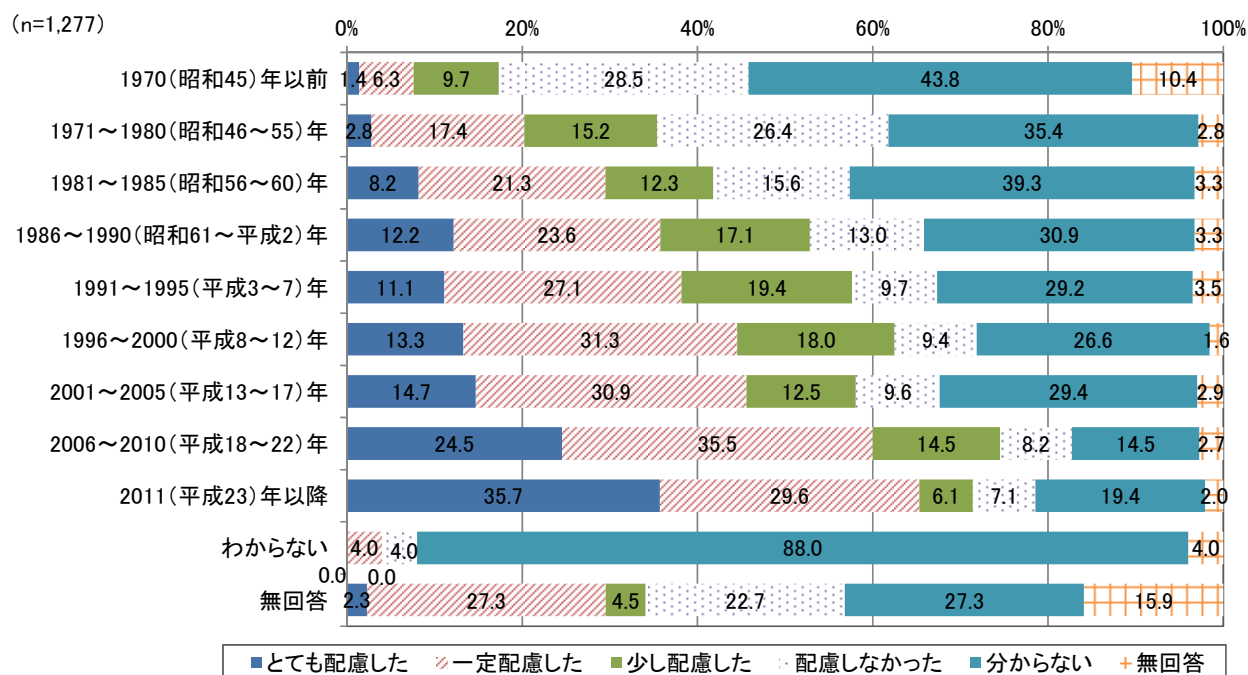


図 4-37 新築時の断熱設計の配慮（割合）

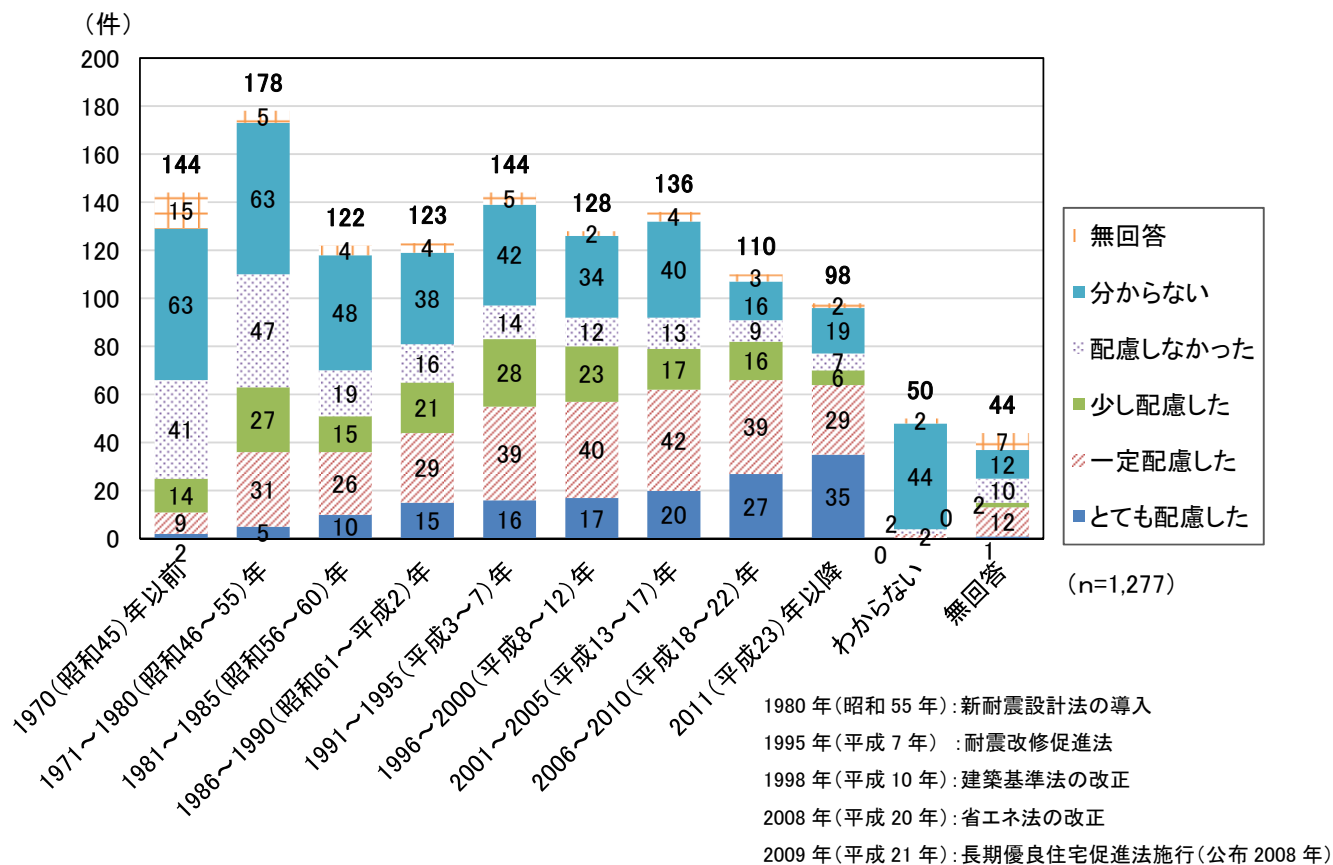


図 4-38 新築時の断熱設計の配慮（件数）

⑬ 断熱リフォーム箇所について

断熱リフォーム箇所について、実施件数は「窓」と「壁」が同程度となっている。

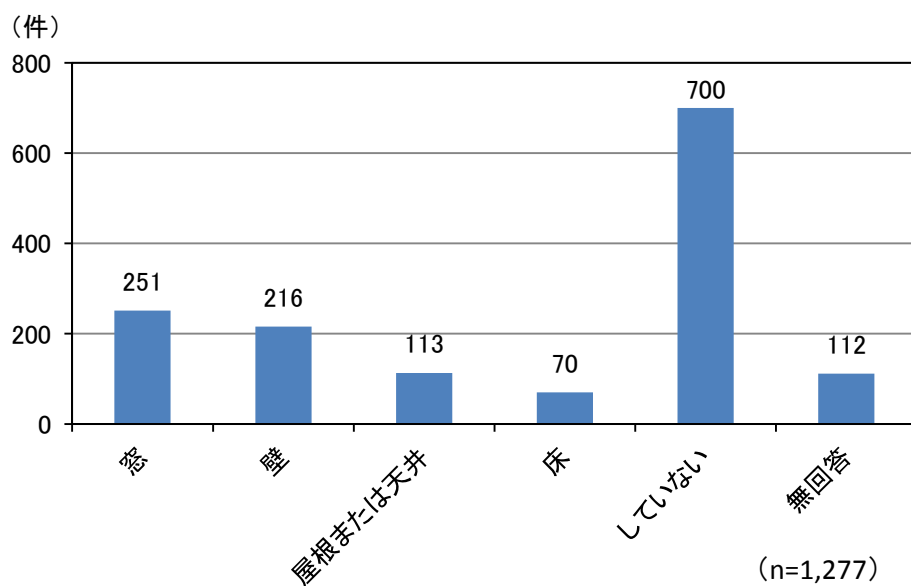


図 4-39 断熱リフォーム箇所（件数）

⑭ 窓の断熱について

窓の断熱について、実施件数は「単板ガラス」が最も多く、次いで、「二重窓」となっている。「エコガラス（Low-E ガラス）」の導入件数は、100 件程度となっている。

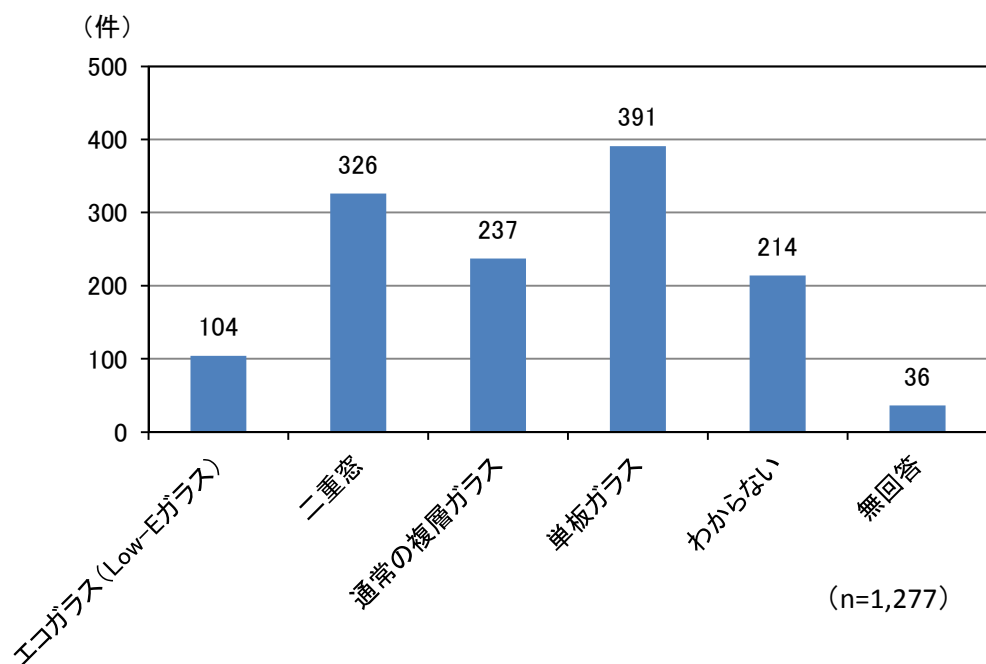


図 4-40 窓の断熱（件数）

⑮ 利用している自動車のタイプについて

利用している自動車のタイプについて、「ガソリン車」が最も多くなっている。また、ハイブリット車を含むエコカーは、2人世帯、3人以上の世帯でやや多くみられる。

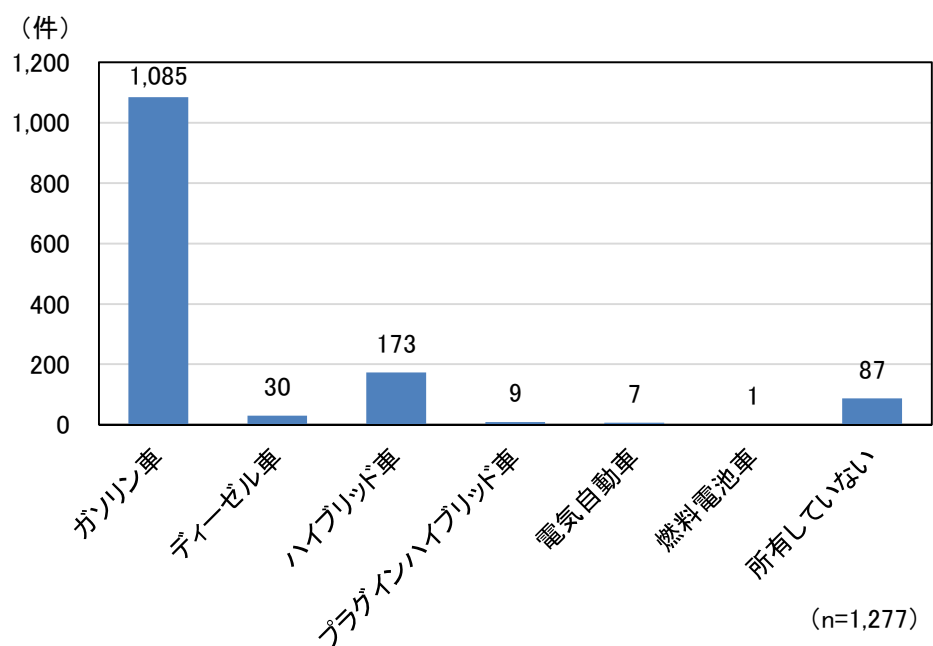


図 4-41 利用している自動車のタイプ（件数）

表 4-1 世帯構成／年齢層区分別 利用している自動車のタイプ（件数）

（単位：件）

世帯構成／年齢層区分		ガソリン車	ディーゼル車	ハイブリッド車	プラグインハイブリッド車	電気自動車	燃料電池車	所有していない
単身	高齢者のいる世帯	30	0	2	0	1	0	20
	若中年者の世帯	23	0	3	0	0	0	13
2人世帯	高齢者のいる世帯	261	6	49	3	1	0	34
	若中年者の世帯	74	3	16	2	1	0	3
3人以上世帯	高齢者のいる世帯	385	12	64	4	2	1	8
	若中年者の世帯	307	9	38	0	2	0	6

⑯ 給湯器の熱源タイプについて

給湯器の熱源タイプについて、「ガス」が644件で最も多く、次いで、「電気」が359件となっている。

建築年代別の給湯器の熱源タイプは、2001年以降をみると、「ガス」が減少傾向となっている一方、「電気」が増加傾向となっている。

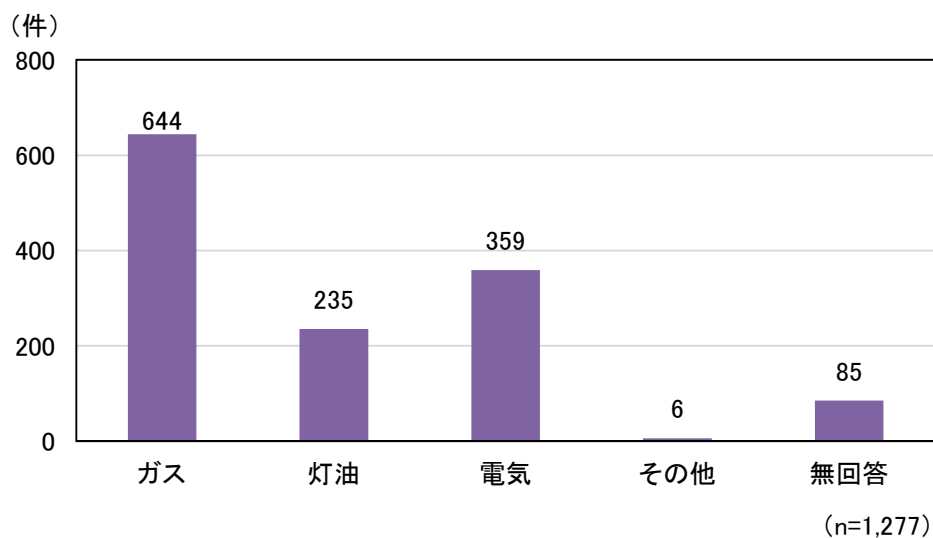


図 4-42 給湯器の熱源タイプ（件数）

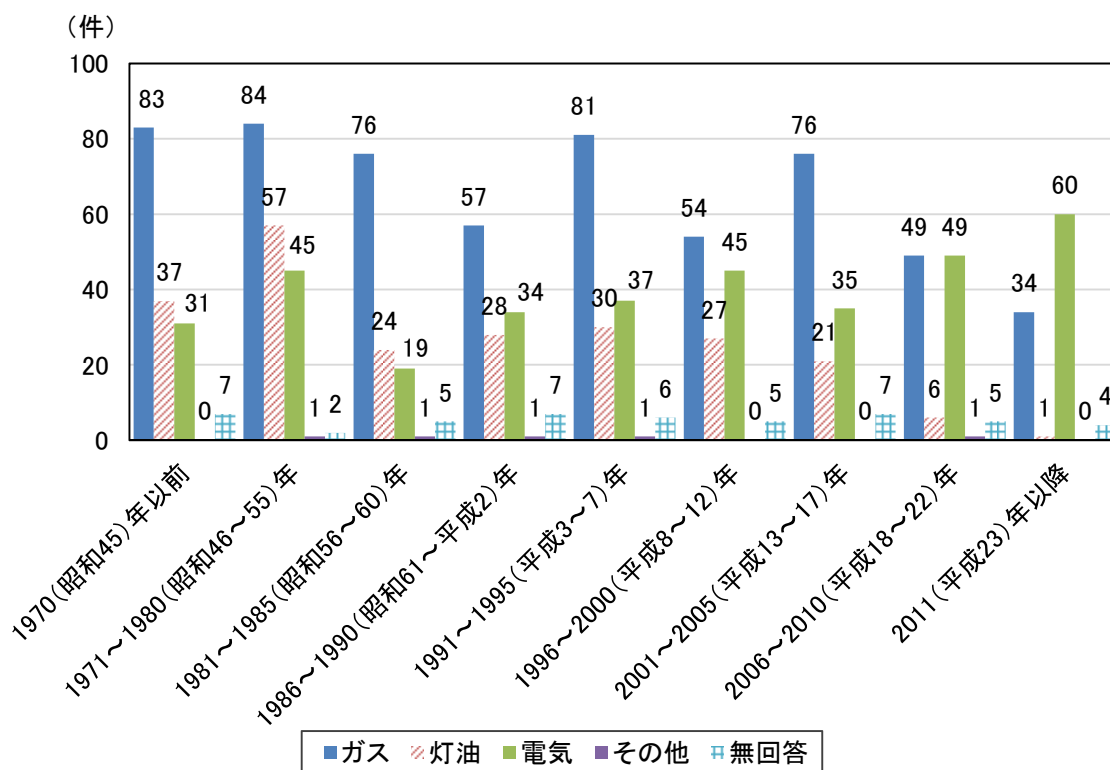


図 4-43 給湯器の熱源タイプ 建築年代別（件数）

⑩-i ガスの種類について

給湯器の熱源タイプがガスの方のうち、その種類については、「都市ガス」が5割程度、「プロパンガス」が4割程度の割合となっている。

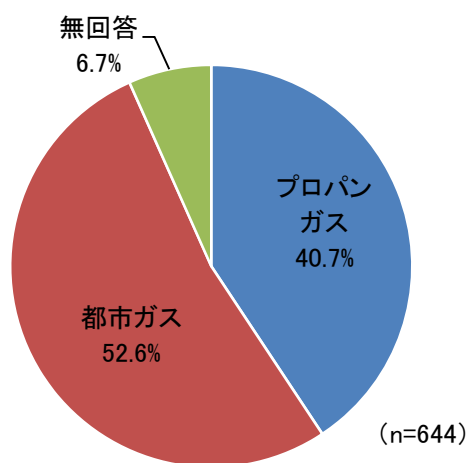


図 4-44 ガスの種類（割合）

⑩-ii 太陽熱利用給湯システムとの併用について

給湯器を使用している方のうち、太陽熱利用給湯システムとの併用については、「はい」は6.8%となっている。

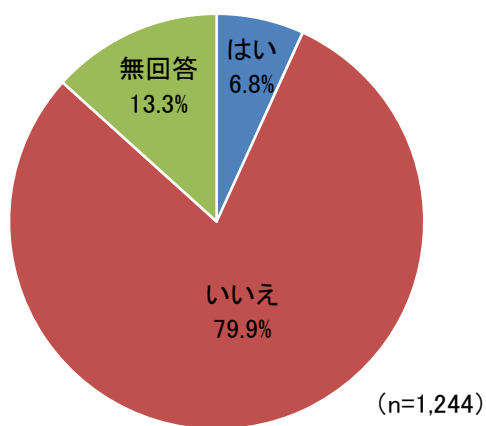


図 4-45 太陽熱利用給湯システムとの併用について（割合）

⑯-iii 熱源タイプ別の給湯器の種類について

熱源タイプ別の給湯器の種類について、ガスは「従来型のガス給湯器」が 66.6%と、6 割を超えている。また、灯油は「石油給湯器（ボイラー）」が 90.6%と、9 割を占めている。

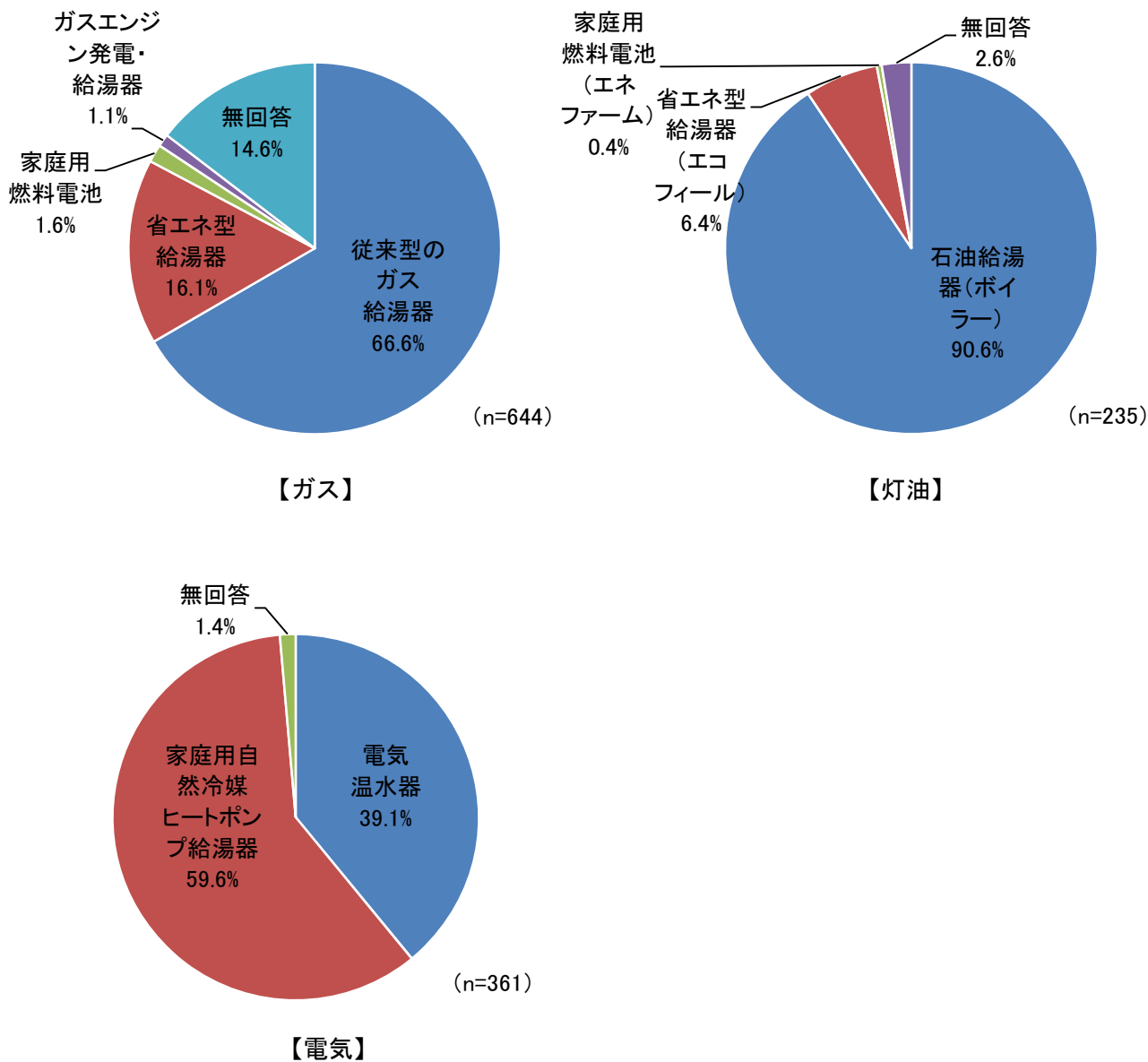


図 4-46 熱源タイプ別 給湯器の種類（割合）

⑪ 冬期に日常的に利用している暖房機器のタイプ

冬期に日常的に利用している暖房機器のタイプについて、「エアコン」が707件で最も多く、次いで、「灯油暖房」が663件、「こたつやホットカーペット」が550件となっている。

エリア別にみると、東北エリアでは、「灯油暖房」が61.3%と、6割を超え最も多くなっている一方、他のエリアでは「エアコン」の割合が最も多くなっている。

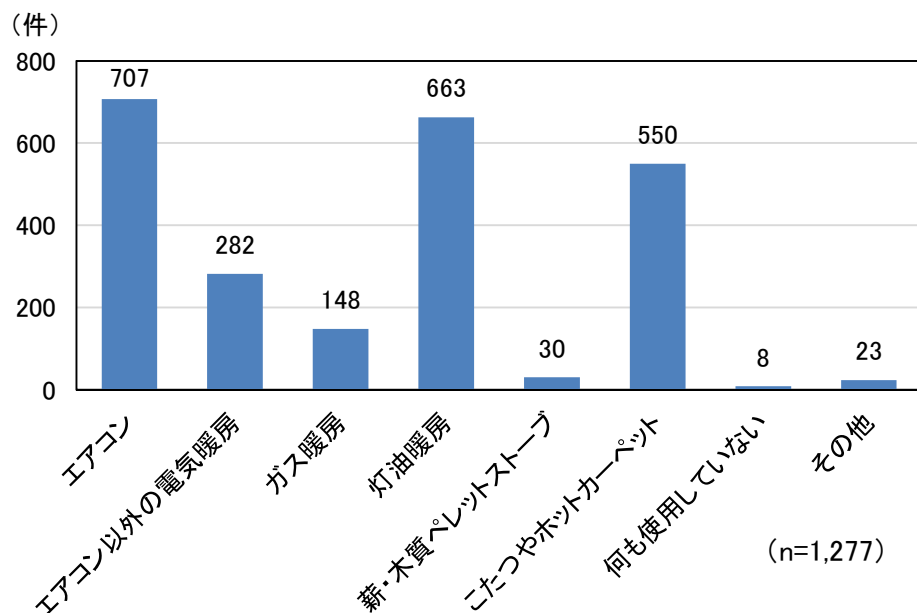
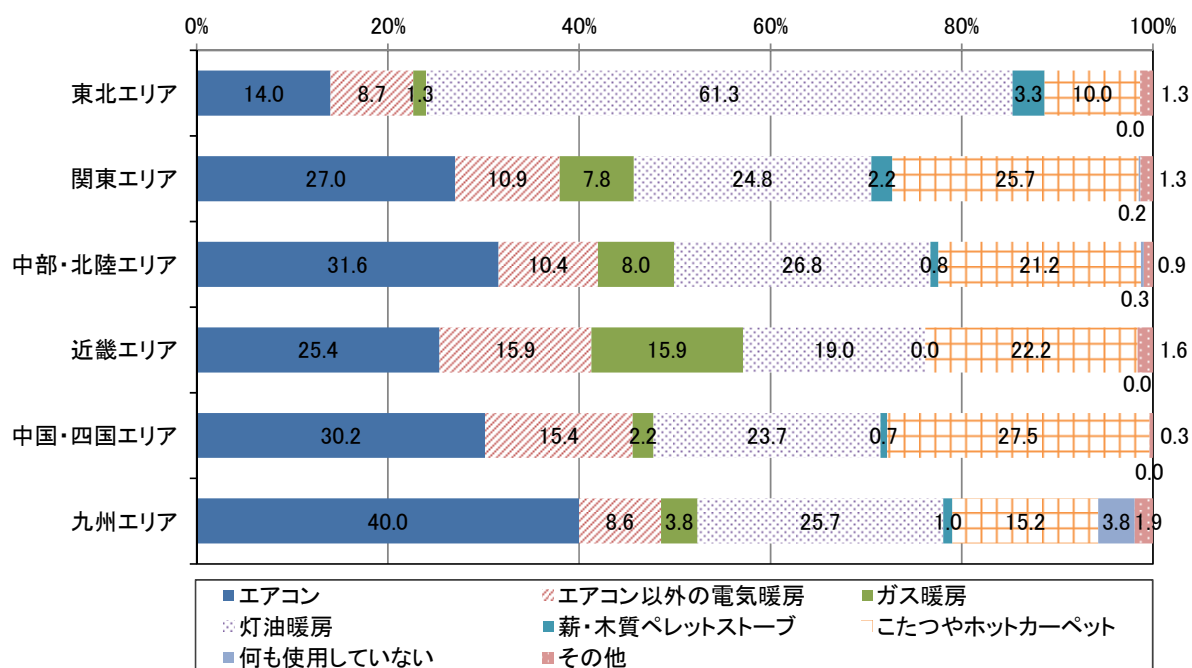


図 4-47 冬期に日常的に利用している暖房機器のタイプ (件数)



- ◎ 東北エリア… 青森県、岩手県 ◎ 関東エリア… 群馬県、埼玉県、神奈川県、新潟県、山梨県
 ◎ 中部・北陸エリア… 富山県、石川県、長野県、愛知県、三重県 ◎ 近畿エリア… 京都府、奈良県
 ◎ 中国・四国エリア… 鳥取県、島根県、広島県、徳島県、愛媛県 ◎ 九州エリア… 福岡県、熊本県、鹿児島県

図 4-48 冬期に日常的に利用している暖房機器のタイプ エリア別 (割合)

⑮ セントラルヒーティングの使用について

セントラルヒーティングの使用について、「はい」は全体の 2.3%となっている。

エリア別にみると、セントラルヒーティングの使用は、青森県が最も多くみられる。

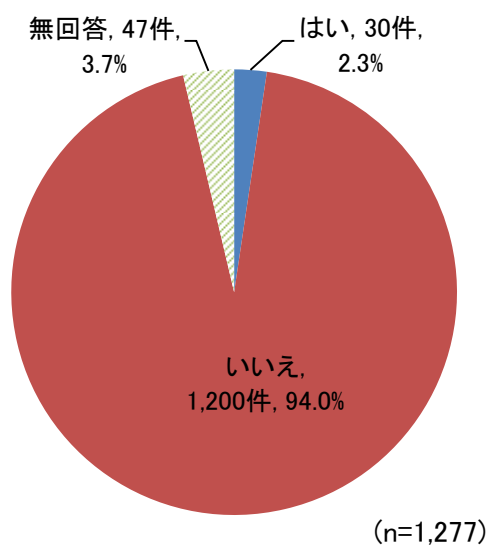


図 4-49 セントラルヒーティングの使用

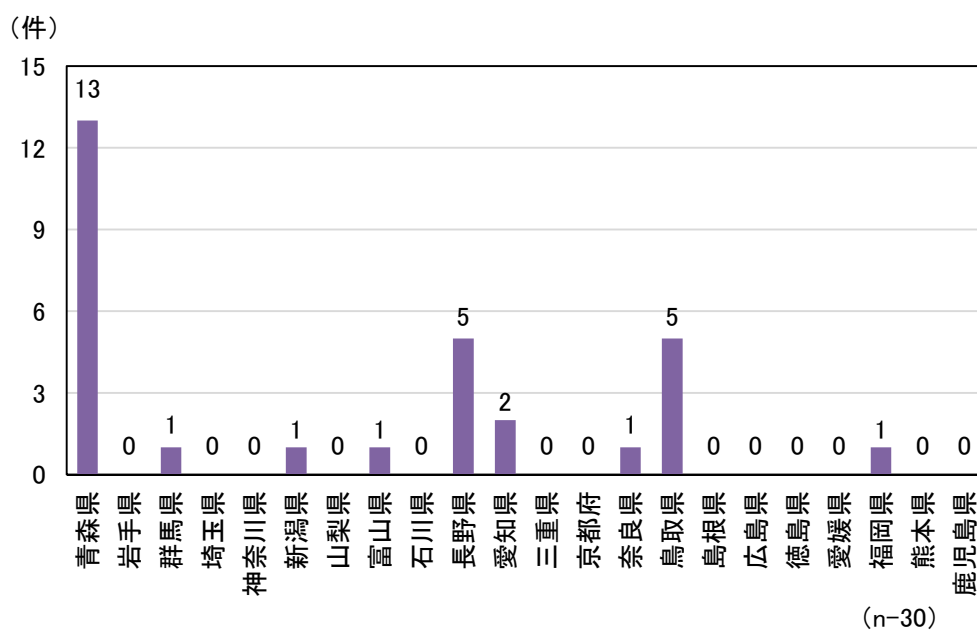


図 4-50 セントラルヒーティングの使用 エリア別

⑬ 電球タイプについて

電球タイプについて、全体個数の割合をみると、「LED 電球」、「白熱電球」、「蛍光管タイプ」は、概ね同程度となっている。

建築年代別にみると、「LED 電球」は概ね横ばいの傾向となっている。

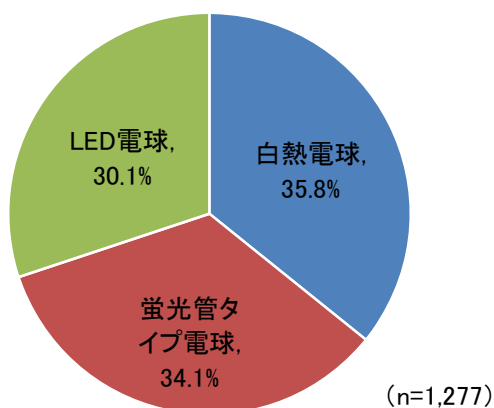


図 4-51 電球タイプ（全体個数の割合）

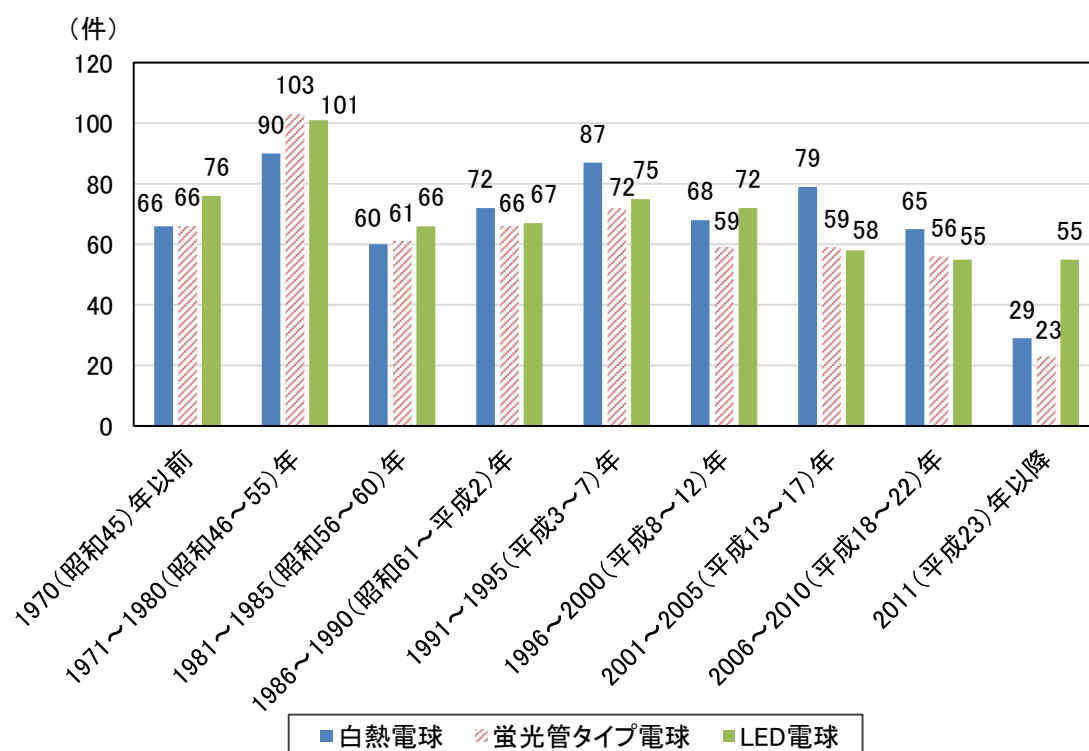


図 4-52 電球タイプ 建築年代別（件数）

⑳ 照明器具の種類について

照明器具の種類について、全体個数の割合をみると、「蛍光管タイプ照明」が7割を超えており、「LED照明」は、2割程度となっている。

建築年代別にみると、2001年以降、「蛍光管タイプ照明」はやや減少傾向がみられる。

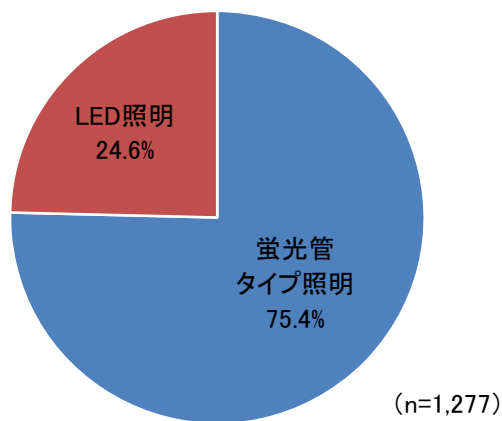


図 4-53 照明器具の種類（全体個数の割合）

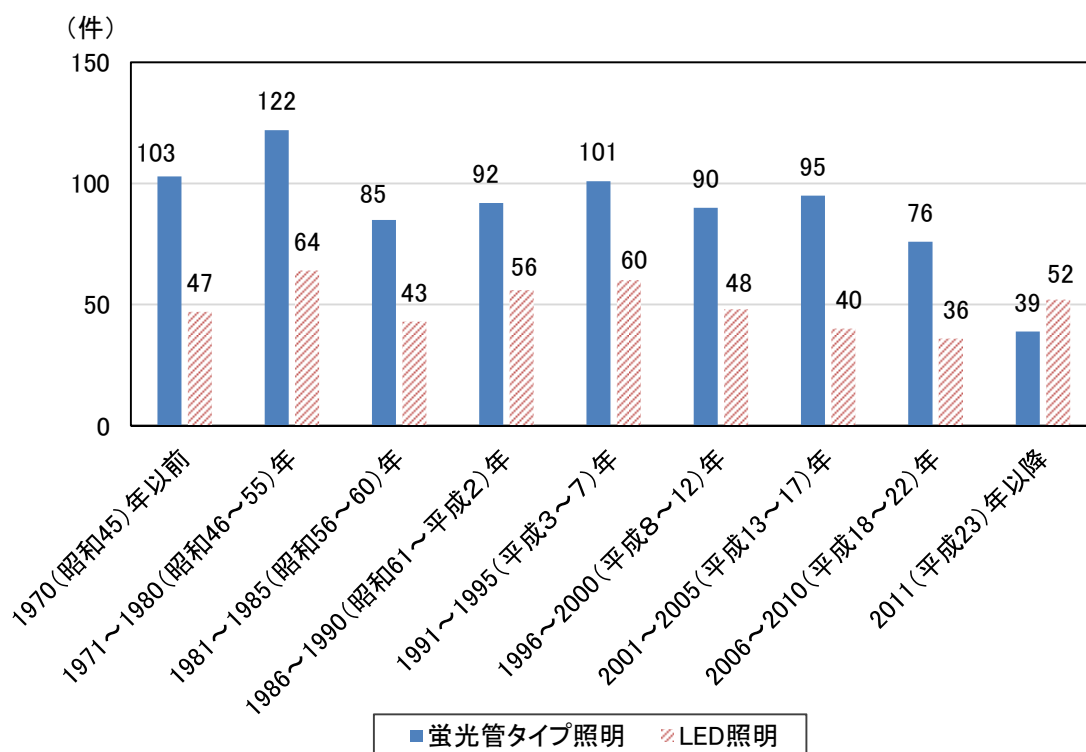


図 4-54 照明器具の種類 建築年代別（件数）

(3) エネルギー消費量実態把握調査

① 家の造りについて

家の造りについて、「一戸建て」が 79.0%と、8 割近くを占めている。

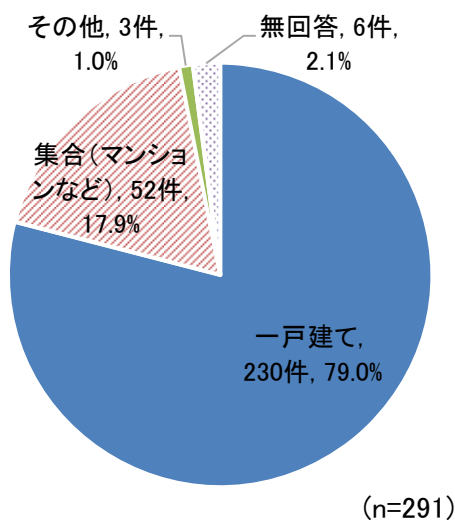


図 4-55 家の造り

② 建築年代について

建築年代について、「2001～2005（平成 13～17）年」が 38 件で最も多く、次いで、「1971～1980（昭和 46～55）年」が 35 件となっている。

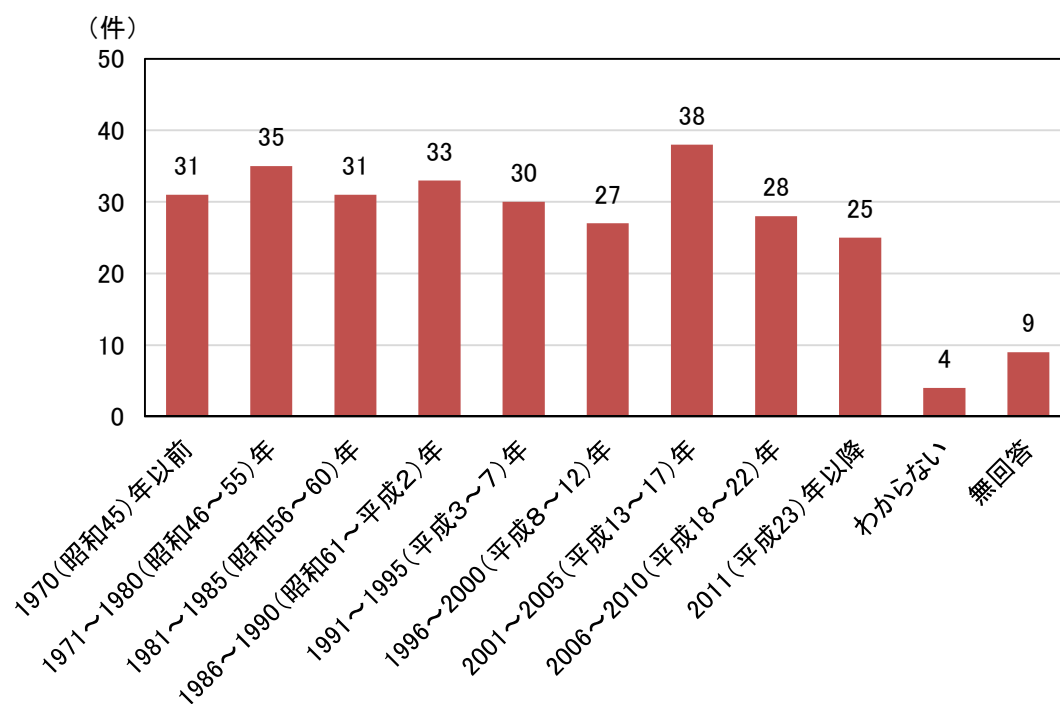


図 4-56 建築年代（件数）

③ 各エネルギーの情報提供の件数

各エネルギーの情報提供の件数については、調査依頼を6月中旬より実施したことから、8月～12月のデータ件数が他の月より多くみられる。

表 4-2 各エネルギーの情報提供の件数

(単位:件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
電気	192	192	191	197	199	201	191	245	245	242	240	239
深夜電力	40	41	41	42	43	44	38	38	39	38	37	35
太陽光売電	38	38	38	39	39	41	37	50	51	49	47	48
都市ガス	79	79	79	82	85	86	90	114	110	110	112	113
LP ガス	61	59	59	63	64	63	56	76	75	74	73	73
灯油	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103	103
ガソリン	73	76	74	78	77	81	82	76	78	76	72	75
軽油	1	2	1	1	2	2	1	-	-	2	-	-

④ 電気の各月の平均使用量

電気の各月の平均使用量については、「電気」、「深夜電力」が概ね同様の傾向となっているが、夏季の時期（7月～9月）に差が生じている。また、「太陽光売電」の傾向をみると、5月の時期が最も高い値となっている。

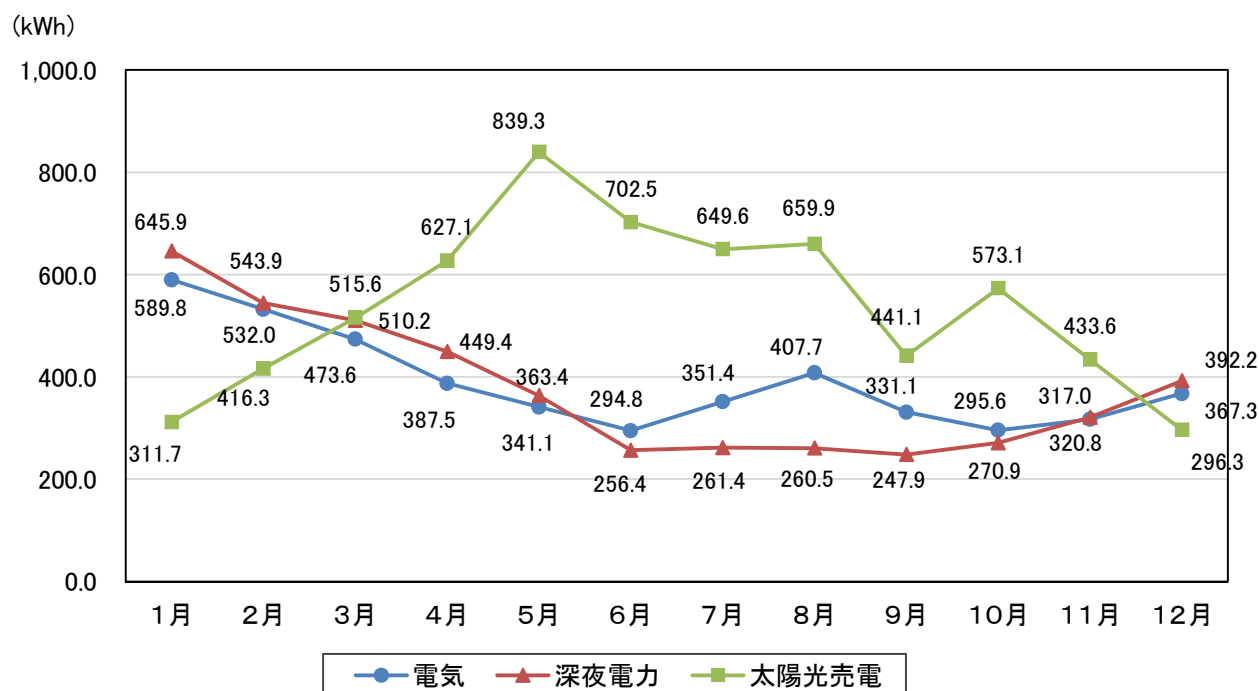


図 4-57 電気の各月の平均使用量

⑤ ガスの各月の平均使用量

ガスの各月の平均使用量については、「都市ガス」は、夏季の時期（８月）が最も使用量が少なく、冬季の時期で使用量が多い傾向となっている。

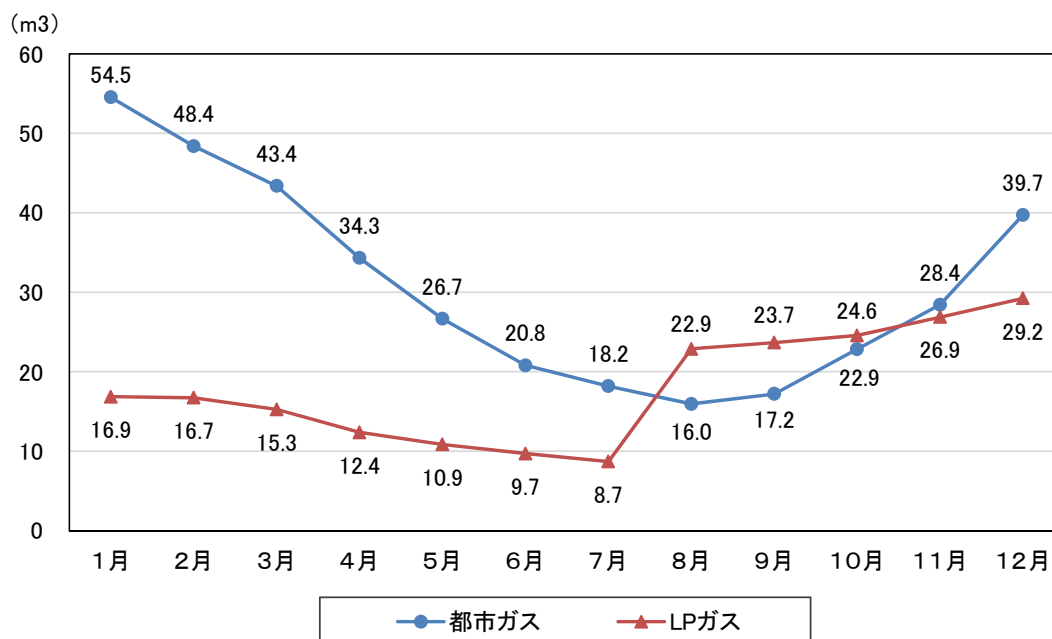


図 4-58 ガスの各月の平均使用量

⑥ 石油類の各月の平均使用量

石油類の各月の平均使用量については、「灯油」は、冬季の暖房時期に使用量が多くなっている。また、「ガソリン」は年間を通じて横ばいの傾向となっている。

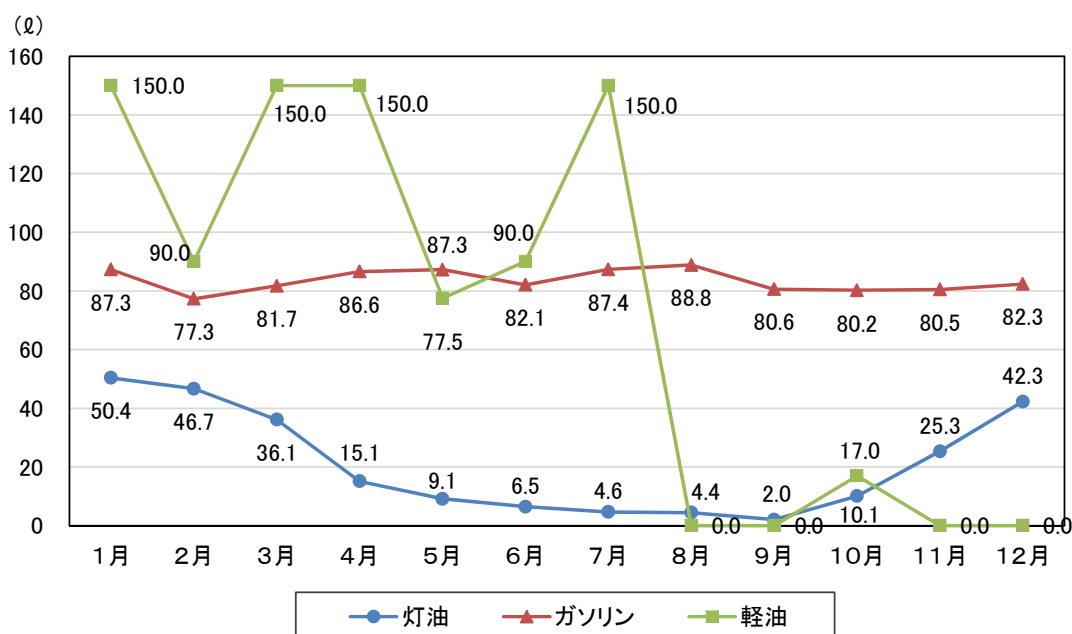


図 4-59 石油類の各月の平均使用量

⑦ エネルギーの各月の平均 CO2 排出量

エネルギーの各月の平均 CO2 排出量については、各月の使用量と同様の傾向となっている。

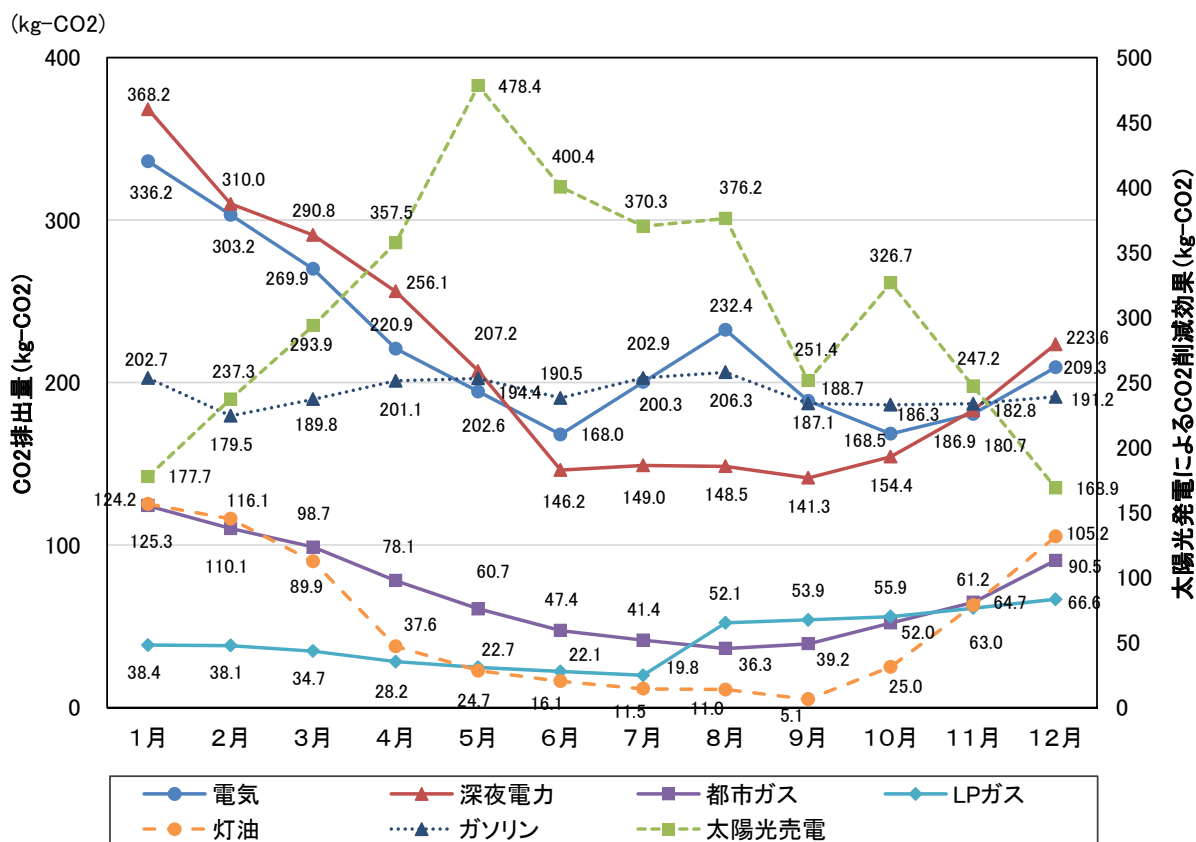


図 4-60 エネルギーの各月の平均 CO2 排出量

⑧ 電気使用量の各月の平均使用量（愛知県の例）

電気使用量の各月の平均使用量について、愛知県を例にみると、「一戸建て」では、冬季の時期の使用量が最も大きく、春季にかけて使用量が徐々に少なくなり、夏季の時期に再び使用量が高くなっている。

また、「集合住宅」では、一戸建てに比べ全体的に使用量が少なくなり、特に冬季の使用量が少ない傾向となっている。

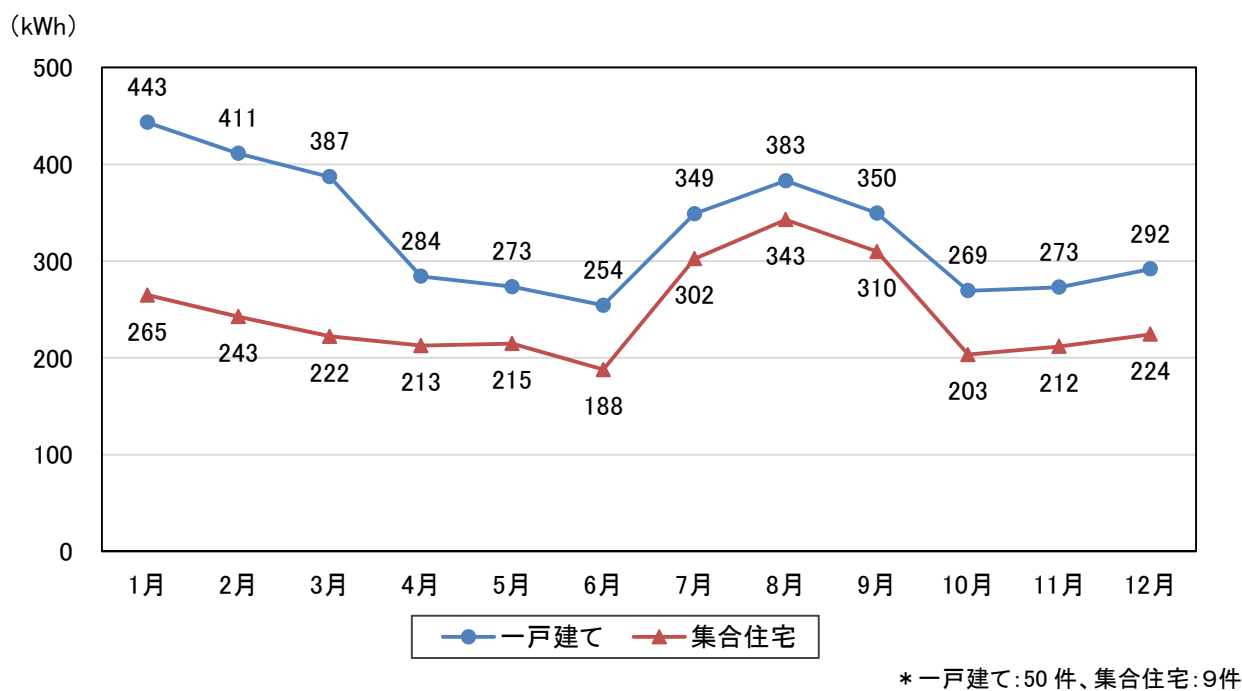


図 4-61 電気使用量の各月の平均使用量（愛知県の例）

⑨ 太陽光発電の効果の各月の平均使用量

愛知県内で太陽光パネルを設置している一戸建て（6件）についてみると、冬季の時期は、パネルの発電量が少なくなり、「電気（購入量）」の方が大きくなる。春から秋の範囲では、「太陽光発電」の方が「電気（購入量）」より大きくなっている。特に、春の時期が「太陽光発電」と「電気（購入量）」との差が大きくなる傾向にある。

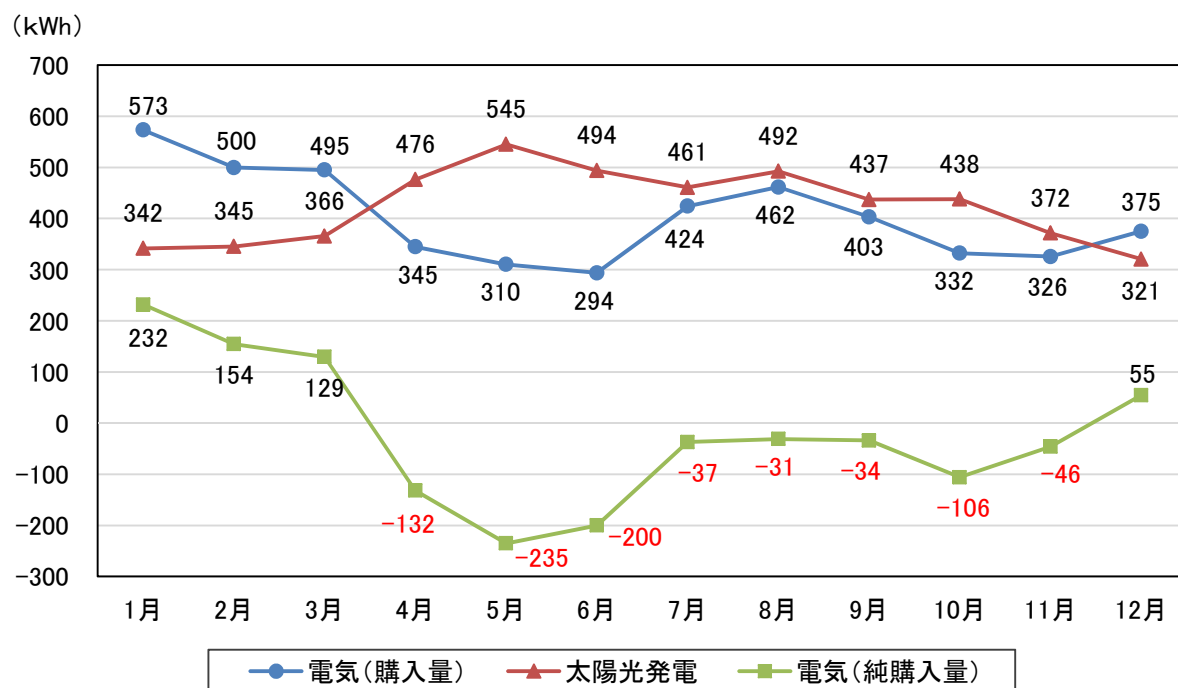
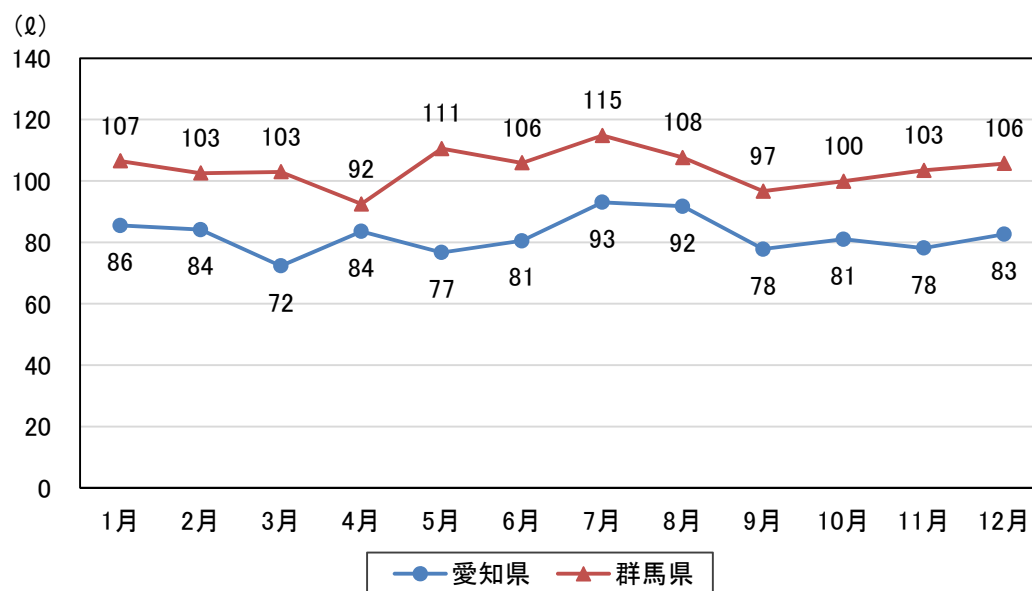


図 4-62 太陽光発電の効果の各月の平均使用量（愛知県の例）

⑩ ガソリンの各月の平均使用量

ガソリンの各月の平均使用量についてみると、愛知県よりも群馬県の平均使用量が一年を通して多くみられる。



* 愛知県:18 件、群馬県:10 件

図 4-63 ガソリンの各月の平均使用量（愛知県と群馬県の比較）

5. 自由回答

(1) 冷蔵庫の使用実態調査

北海道・東北エリア	調査で冷蔵庫が17年も経過しているのに気付きました。省エネタイプが主流になっているし、かなりの節電になるということなので改めて買い替えを考えなくてはと思いました。
	冬期は冷蔵庫を保温庫として使用している家庭も多い地域。外気温の目安を決め、冷蔵庫無しの期間を決めてはどうか。
	買い物に不便のところなので、ストックしておく。
	冷蔵庫の他に冷凍庫がありますが、夏は冷凍庫もかなりのウエイトを占めますが、冬はあまり必要としません。あるが故に使っています。できるだけ設定温度を調節しながら使用しています。昔と違い現在は戸棚の様な気分で使用しており、考えを新たにしなければと常々考えております。
	車がなく、重い物が持てない、欲しい物が揃わないなど、買物難民である。そこで、デパートに出掛けた時はまとめ買いをして、配達してもらう事になる。結果、3～4日は、冷蔵庫は詰め過ぎになる。この悪循環の繰り返し。これを断ち切るアイデアを思案中である。
	設定温度のエコモード等の操作がわからない。壁から適切な距離の正確は？冷蔵庫の買い替え時期は？家電量販店が近くにないので困っている。
	冷蔵庫を長く開けるとピーピー音がするので、鳴らせないように気をつけている。
	冬期間(11月～12月～3月～4月上旬)は、冷蔵庫内にほとんど食品は入れません。常備薬、牛乳等は縁側においています。肉や魚介類は火を通してから、外にあるホームタンクの上におきます。野菜類は作業小屋の中に入れます。
	できるだけ少ない量で…と思いますが、2人暮らしなので、頂き物があつたりして、いつでも満杯状態なので反省です。
関東エリア	1週間以上留守にする時は、事前に食品を消費し、冷蔵庫の電源を抜くようにしている。
	省エネ型電化製品にと心がけています。
	電化製品を買いかえる時、省エネタイプを選んでいる。
	再生可能エネルギー(太陽光、太陽熱、水力)の利用。
	2人の生活では、2台の冷蔵庫は必要ないと思いつつ使用している。冷蔵庫の使用については、ドアの開閉、中味の詰め込みを防ぐ等、心がけている。
	ドアの開け閉めをすばやくすること。庫内・庫外の整理整頓と、汚れ・ほこりの除去を行なっている。
	夏・冬の電気代・ガス代が急激に上がるので、冷暖房についてもっと我慢して減らす努力をしたい。
	やはり節電を第一に考えて、できるだけ無駄なエネルギーを使わないように常時、心掛けてはいる。風呂、トイレ、炊事場での水の無用な使用をしない。自宅ではクーラーは、就寝時だけ使用し、あとは扇風機で済ましている。
	冷蔵庫は料理して冷めてから入れる。

関東エリア	冷蔵庫を親世帯と私たち世帯の 2 台使っている。親世帯の年齢は 80 代後半なのでもう冷蔵庫を必要とせず、私たちと共同利用で実際は良いのだが、廃棄してしまうと居室の環境が変化してしまい、認知症の悪化などに影響するのではないかと考えてしまい、なかなか撤去できない。
	小さい子供がいて、共稼ぎなので、どうしても冷蔵庫や冷凍庫等には買い置きが増えてしまう。
	外気温が上がると(35℃以上)、冷蔵庫のすべてを強にしても冷凍室の氷が出来なかったことがあった。
	年金生活ですから、大型設備の購入は無理があり、日常の中で無駄をなくしていくことが大切かと思っています。
	料理は食べ残しがないよう、適量を作るよう心がけている。料理で作ったものが残ると、その都度、冷蔵庫の開け閉めが必要となる。
	冷蔵庫に関しては、冷蔵室は一杯入れないように、冷凍室一杯にするようにしています。
	最近の冷蔵庫は容量が大きくても省エネで快適に過ごせるようになりました。
	入れる物の位置を決めている(開閉時間を短くするため)。
	設定温度はあまり気にしなかった。今後夏冬季で考えたいです。
	冷蔵庫に入っているものは、いつまでも安心と思わないで賞味期限の過ぎた物は、捨てて…と、時々は中の整理もしてムダな電気は使用しないようにしたいです。
	冷蔵庫の消費電力のことは以前から認識はしていましたが、買い替えの時を先送りしていました。この調査の回答を記入しながら、是非今年度中にと再認識いたしました。
	省エネに協力し、工夫しているつもりでも、つつい無駄なことをしてしまっている気が致します。冷蔵庫は長持ちしておりますが、電化製品は当たりはずれがある気がします。
	知り合いの家では、冷蔵庫を 2 台置いている家が多くあります。2 台だと 2 倍に電気を使っている事を知ったら、1 台にしてくれると良いのですが…飲物用に 1 台など使い方は様々でしょうが、2 台を同じように色々と入れている場合は、どこに何があるか忘れて、2 台目のドアを開けたり、食品も電気のムダもたくさん出そうですね。2 台以上の冷蔵庫家庭が調査で多い場合には、節電の話をする際に必ず話題にするようにしていきたいと思いました。
	省エネタイプが年々普及されていく中で、故障しない限りなかなか買い替えられないのが現状です。
	省エネタイプの製品に買い替えたいと思っているが、価格が高くて変えられないでいます。また、冷蔵庫等 4 製品の引取料もとられるので買い替えが鈍る。
	うちエコ診断をしていただいて冷蔵庫が 23 年使用のものだった為、故障はしていなかったのですが、思い切って 8 月に取り替えました。なんと電気料金が約半数になり、とっても驚いています。
	設定温度を就寝前に「弱」に設定、起床時は「中」に設定している。
	開け閉めを短くするため、冷蔵庫の整理は大切ですね！夏の冷蔵庫まわりの熱・暑さがとてもきになります。
	色んなアンケートがありますが、冷蔵庫のアンケートに答えたのは初めて。普段から照明など、こまめに消していますが、電気を多く使う冷蔵庫について、再認識した。
	冷蔵庫が2台あるが、今回消費電力を比較するとはエコ対応の方はもう1台に比較して約 1/2 の消費量被電力でした。改めてエコ対応の効果の大きさを認識できました。

中部エリア	30 年前の古い冷蔵庫は長期保存用。飲料冷却に使用(併用)していたが、この春に廃棄した。1 台で無駄なものは入れないようにしている。
	冷蔵庫の買い替えと家中の電球をLEDに替えた事により毎月の電気消費が大幅に削減できた。もっと早く買い替えるべきだと反省した。
近畿エリア	冷蔵庫の買い替え、あと2年後にはしたい。物をつめこみすぎてよくわからないことが多い。ムダはまだ省けると改めて反省するきっかけとなった。
	今は「省エネ」でないと売れないので、メーカーは競って省エネ効率をアップしています。
	2005 年製以前の冷蔵庫を使用しているが、買い換えるきっかけがない。今回の調査で消費電力量(料)に気を使うようになったが、2005 年製は旧 JIS 規格のため正確には数値が分からないとのことだった。買い換える大きなきっかけは eco というよりも電気使用量の方が高い。メーカーは積極的に消費電力量(2005 年製以前のものを新 JIS 規格で)を示すべきでは。
	最近 20 年近く使用した冷蔵庫を買い換えて消費電力の少なさにびっくりした。電気料もダウン。2 台目は廃棄が良いと思うが、田舎のことなので、何かの時にすぐ買いにいけないという思いもあり踏み切れないが、新しく購入の際は機種を選んで省エネのものにと思う。
	今使っている冷蔵庫には温度設定がなく、自動です。次に買う時は是非、節電が出来るものを使いたいと思います。
	2 台目は離れで使用しており、朝食は常に離れですするため、なくすことはできない。小型の省エネ型があれば取り替えても良いが、消費電力量は少なくとも大型に買い替えるのは抵抗がある。
	少し前まで電気屋さんに置いてある冷蔵庫は価格的に安かったと思うが、ここ最近の冷蔵庫の価格はすごく高くなっていると思う。次の買い替え時には何十万もの出費があるのか…と今から漠然と不安に思っている。
	体が悪いので、いつも満杯にしています(子供が買い物をして運んでくれますので)。
中国・四国 エリア	冷蔵庫の中に食品を入れる際、置き場所を決めるように気をつけ、扉を開けて探す時間を短縮するようにしている。
	冷蔵庫の2台のうち1台は、古いものを利用しているので、消費電力は大きいかなと思いながら、なかなか買い換えまで至らないのが残念！
	家族の人数に比べて貯蔵量が多いことは、いつも反省していますが、改善されていません。こうした調査は、日頃の生活をチェックする点で、とても良いことです。
	何気なく使っている冷蔵庫ですが、電力量が一番多いと知り旧型の冷蔵庫を使用している家庭があったら買い替えのアドバイスをしたいと思った。
九州・沖縄 エリア	冷蔵庫は24時間稼働していますので、省エネタイプの製品を選んだり、使用法に注意したりすることが大切だと思います。
	私達の時代はとにかく物を大事に、使える間は使うことと教えられて育ちました。理屈では消費電力の違いと分かっているけど、5 年や 10 年毎に電化製品を買い替えることに少なからず抵抗があります。
	冷蔵庫は 10 年経つと、新しい省エネタイプの方が電気代を考えると良いのですが、廃棄処分にかかる運搬・解体・リサイクルできない分の埋立てなどの処理にかかるエネルギーなどが見えてきません。社会全体の負荷などもきちんと伝えてほしいと思います。

(2) 一般住宅の設備導入実態調査／エネルギー消費量実態把握調査

北海道・東北エリア	電気はこまめに消す。自然照明と風をなるべく使用して生活をする。
	夏は窓の開放、入浴時間の短縮。冬はドア窓の使用。
	長く使わない電化製品は主電源を切るようにしている。ストーブの温度設定を 22.3 度になっている。
	在宅で子育てをしていると、子供が騒ぐとすぐに TV をつけて集中させていましたが、今は遊びに集中させて TV をつけることがないようにしています。
	自家用車の使用を最低限にしている。エコカーへの切り替えをすすめるため減税しているが、今ある車を大切に、使用を抑えながら使う方がエコだと思う。CO2 を考えるなら「乗らない」が 1 番。
	LED にしたいが高いため、蛍光灯タイプを使用している。
	こまめに電気を消している。トイレと玄関は、感知型の器具を使用している。
	こたつの電気を入れないで、ストーブから熱をえんとつを通して取り入れている。
	炊飯器の保温をしていない。
	電灯のつけっぱなしはしない。薪が豊富なので、灯油ストーブと両方使っている。
	蛍光タイプの照明を LED 照明に変えたが、どのくらいの省エネになっているか、お得になっているかが実感できない。
	オール電化住宅なので、節電に努めている。
関東エリア	断熱シートを使用したら効果的だった。
	テレビのオンオフを心がける。LED を使用。ワット数を低くする。夏はドア窓を開けて扇風機を使い、エアコンは使わない。冬のストーブは18度。ドアにカーテンを付ける。
	電気はこまめに消す。コンセントを抜く。
	家庭の省エネの大事さは十分理解、認識しているが、我が国の電力消費量のほとんどは事業者部門での電力消費である。従って、もっと事業者分野の省エネについて、国や自治体にリーダーシップをとってもらいたい。2011 年の東北大震災後の省エネ活動は素晴らしいものがあつたと思う。街は余分な電気を使わず、交通機関も省エネに取り組んだが、我々一般市民は不自由をしなかった。ところが、時間が過ぎると、元の街に、交通機関に戻ってしまった気がする。
	冬期は暖房や加湿が必要であるが、入浴後風呂のふたを開けておくと、断熱・二重窓の建物であれば、建物全体に熱気と湿気を充満させることで朝まで適当な温度と湿度を維持できるので、暖房と加湿の熱量を補うことができる。
	普段から省エネに関心を持っている世帯とそうでない世帯では、使い方や品物の選び方等に大きな違いがあると思う。電気店等で購入時にこのようなアンケートを記入してもらえなどすれば、いろいろな世代や考え方の差でデータが得られるのではと思います。
	10 年程前に旧型のエアコンを更新して、大きな省エネになりました。エアコンの使用、更新状況を調べたら良いかと思っています。
	やはり節電を第一に考えて、できるだけ無駄なエネルギーを使わないように常時、心掛けてはいる。

関東エリア	風呂、トイレ、炊事場での水の無用な使用をしない。自宅ではクーラーは、就寝時だけ使用し、あとは扇風機で済ませている。
	敷地が延べ床面積の2倍以上あるので、木、草、グリーンカーテンを育てている。
	省エネモードに設定しています。内部が凍ることがありませんので、扉のヒーター部分をどのようにしたらいいか検討中です。試しにヒーターの電源を遮断したところ、2kw/月の低減ができました。扉が凍るような弊害は発生していません。
	エコドライブ、車は必要なので、少しでもエコな運転を心がける。
	冷房時等、家族が一室にいるようにする(可能な限り)。設定温度を高くし、扇風機を使う。暖房時も同様に。
	蛍光灯は年々LEDに変更。暖房、冷房の温度を適正に近い数値で実施。必要の無いコンセントは抜く。米のとぎ汁は庭木へ。
	掃除機を使う回数を減らし、モップにする等、節電を心がけていますが、電気の使用量のお知らせを見ると昨年同月と比べて減っているのに電気の料金は上がっています。この調査を機に使用量を減らすよう、いろいろ工夫したいと思います。
	使っていない部屋の電気は消す。使用していない電気器具はコンセントを抜いておく。TVは消すときは元の電源をOFFにする。エアコンは設置していない。
	今回何気なく使っていた電化製品について見直す機会となった。最近省エネについて以前程気を使わなくなっていることに気づいた。更に進んだ省エネに取り組まなければならないと思った。
	家内では必要の無い電気はこまめに電源をオフしています。エアコンは設定温度を高くして付けたり消したりしています。
	エアコンは、極力使用しない。テレビをつけっぱなしにしない。照明をLEDに替えている。自家用車はハイブリッド、必要な時以外は車に乗らない。エコキュートを導入している。
	夏場はシャワーにする。なるべく遅い時期までシャワーを使う。電気ポットを使わない。保温式にわかした湯を入れて一日使う。
	待機電力を減らすのに節電タップを使用しています。
	不要なプラグをコンセントから外して待機電力を減らす。グリーンカーテンによる暑さ対策。
	全室内の照明を町の助成金を使って、全てLEDに替えました。
	LED照明に使用頻度の多い部屋から8割とりかえた。電気使用量は20~30%減となっている。
	テレビは同室でみる。近隣は自転車移動。使わない部屋はこまめに消灯。
	ガス釜給湯器の種類を潜熱回収形エコジョーズタイプに買い替えた。
	LPガスコンロからIHコンロに取り替えた。電気温水器からエコキュートに取り替えた。リビングの照明をLEDに取り替えた。車をガソリン車からハイブリッド車に取り替えを実施。
	太陽光発電を利用したいのですが、設置時にお金がかかりすぎます。
	ソーラー発電(50W)機を取り付けて節電。
	冬は窓に緩衝材を貼り、熱が逃げないようにし、夏はアルミシートをたらして直射日光を防いでいる。風呂水は洗濯に、台所の洗ひ水はバケツにためてプランターにまいている。
	こたつの下にコルクシートを敷いて、一つの部屋に家族で集まっています。

関東エリア	窓に季節冬(厚手カーテン)、床にカーペット、下へアルミ断熱シート敷く。石油ストーブをつけたら煮物等をつくる。米のとぎ汁は、花壇・野菜コーナーへ。野菜の切りクズ・精米したヌカは、古い油と混ぜ肥料とし、ゴミを減らす。夫婦で車の免許証を返し、自転車を利用する。
	高齢と言われる70代以上の2人暮らしです。子供達が家を離れてからテレビはなく、冷蔵庫は小さめなもの、車も手放し、携帯も持たず、古い家なので窓や戸を開け放てば扇風機のみで十分です。扇風機の前に濡れタオル等を置くと結構涼しいです。暖房は、オイルヒーターを使用しますが、空気が汚れず快適です。湯たんぽでデンキ毛布いらずとまだまだあります。
	家周りが芝生か土なので、真夏でもエアコンを使うことが少なく済んでいます。
	家を新築した時(昭和54年)、風通しを良くしたのでエアコンは無し。夏は電気代が非常に安い。体にもとても良い。冬は窓をすべて二重にしてあるので、暖房効果がとても良い。
	健康を考えると、断熱リフォームが必要と考えています。さしあたり内窓が有効かと考えています。
	照明器具は、出来るところからLEDに切り替えています。
	電気ポット、電気毛布の使用をやめた。毎年の電力使用料を記録しておき、前年より抑えるようにしている。
	室内温度を見てストーブを付けるようにしている。太陽の熱を家の中に取り込めるように配慮している。
	電気エネルギーを少なくし、バイオマスエネルギーを使用する予定。
	家中の照明器具を調べた今回、我が家では、LEDの照明器具をさほど使っていないのだと改めて思いました。切れる度に少しずつ交換しているので、今後電気代がどのように変化するか楽しみです。
	不要な「スイッチオン」をさける。夏のエアコン対応として、庭に落葉樹を植え、土に草花を植え土からの反射熱を防ぐ。特別な日を除き、南北の窓を開け(夜も昼も)風を通す。また、在宅で仕事をしているので、パソコン等の連続使用(照明の一部も)がある。
	太陽光とエネファームの設置により、以前のエネルギー消費量の1/3になり、経済効果大です。しかし、初期投資はまだまだ高額と思います(多分、初期投資の回収は15年以上かかります)。
	冬の床暖房により、エアコンを使用することは極めて稀となり、また、暖気の上昇により階段まで暖かいです。
	外出が長時間になる場合は、外出前にブレーカーを切っておく。また、ガスの使用時には炎を鍋からはみ出さないように中火か弱火にして燃料の節約に努めている。
	早寝をする。家族で早寝をすると夜のエアコンや電気を減らせるので、みんなで一緒にの時間に寝ています。省エネをしたいけど、電気器具やガス器具などの省エネものは高いので、なかなか本格的な省エネには実行できない現実です。
	コンセントを抜いて外出。エアコンの設定温度を調整するくらいしか、省エネに関して取り組んでいないかもしれないと気付きました。この調査を機に、配慮していこうと思いました。
	LED照明に替えることにより、どれくらい電気使用量に変化があるか、分かりにくく、全てを替えるまでには至っていません。

関東エリア	出かける 15 分前には、ファンヒーターを消しています。
	早朝の電気料金の安い時間帯に部屋を暖めたり、時間のかかる調理をつくるようにしています。
	夏場はシャワーだけの日が多かったですが、寒くなり、追いだきする回数が増えてくると、ガスの使用料がぐっと上がりました。
	ゼロエネ住宅を新築しましたが、とても経済的でかつ快適です。
	高齢者が一日中在宅しているので、省エネには限界があるが(暖冷房)、照明などはこまめに消すようにしています。
	お風呂はなるべく続けて入るようにしている。温度設定は低めにしている。
	エアコンの消し忘れを防ぐために、必ず 1 時間タイマーにして使用しています。冬の暖かい日は日当たりの良い部屋で過ごし、エアコンをつけないようにします。
中部エリア	太陽光を考えたけれど、導入価値、耐久年数など調べると導入の意味が見出せなくなり、中止しました。
	マンションのベランダ用の太陽光温水器、太陽光発電機、風力発電機、バイクマシーン発電機が安くできたら、もっと普及すると思います。
	オール電化なので、電気料金の高い日中は、なるべく洗濯、台所の電気を使用しない。
	冬は煮物が多くなるので、LP ガスの使用量が多くなる。鍋帽子の使用を検討している。
	太陽光発電を最大限利用(自宅は売電用の他、独立型バッテリー付きあります)。
	電力で効果が大きいのが凍結防止ヒーター。長野県では節電器だけでは不充分。徹底的な保温・断熱が効く。
	家の窓、引き戸を LOW-E ガラスの二重窓にし、天井に断熱材を敷いた。
	コンセントをこまめに抜く。
	車は軽でアイドリングストップ機能付き。薪ストーブ・ロケットコンロでお湯を沸かす。
	効率の良い機器の採用(IH クッキング、HP エアコン、エコキュート、ランプの LED 化、ハイブリッド車の利用)。建物外壁の断熱化、ペアガラスの取替、ダブルサッシ。
	家を建てた当時は、ちょうど床暖房システムが一般家庭に取り入れられ始めた頃で、価格的にまだ高く導入を諦めたという経緯があります。それから約 20 年が経ち、リフォームを考える時期になってきました。今度は実際に設備の入れ替えをするときは、環境を考慮したものにしたいと思っています。
	古い家で一人暮らしなので、電気器具は壊れたりしたら順次、省エネタイプの物、LED に変えていきたい。
近畿エリア	冷蔵庫、エアコン、照明、扇風機等の老朽入替時に省エネタイプを購入。省エネタップで機器の元電源を切っている。
	世帯構成について、室内ペットがいる場合、夏は出かける時年をとるとエアコンが必要になることがあるのでつらいです。ペットを飼う時は後のことを考えた方が良いかと。
	新しいものに買い替えた方が良いのですが、今あるものをいかに省エネにつなげて使用したら良いか考えながら利用するようにしています。
	エコドライブは市内で実施をすると、後続車が抜いて走ろうとすることがある。 省エネも限界や事情があるので、やはり電源から変えられたらと思います。来年 4 月からの電力自由化に期待したいのですが。

近畿エリア	家を高気密・高断熱にして 24 時間空調している。
	マンションでの省エネはなかなか取り組みにくい、リフォームで快適さもあり、スマートにくらすことをこれからも試みたい。
	家は和風で当時は省エネを考えてなかった。年間で夏は風通しが良く、エアコンは客がある時のみ、冬は暖房が必要だが、人がいる部屋のみになっている。
中国・四国 エリア	冷蔵庫のフィルター掃除をする、リモコン付き製品はいらない季節はコンセントから抜く、電球は順次 LED に交換している、ワット数の高い電化製品は効率よく使用する。
	エコキュートを使っている。夜間電力を安く設定している。
	オール電化の場合、最も使用量が多いのは暖房です。家全体のエネルギー消費量の中での冷蔵庫の割合を考え、何に注目して省エネするか、もっとつつこんで考えるべきだと思います。
	夏場は窓にタープをしている。冬場は電気アンカや毛布ではなく湯タンポを利用している。太陽光パネルで売電している。
	子供が小さいので、FF 式のファンヒーターを使わないようにしているが、今年は灯油が安く、我が家のエアコンは型が古いので電気代が気になる。家を建てるなら、足元から暖まる床暖房に興味がある。
	買い物に夫婦で行く場合のみ、車を使用するようにし、普段は歩きか自転車を利用している。
	省エネ家電への買い替えは良いことと分かっているが、年金生活者の収入では難しいのが現実。
	車の運転は急発進、急加速はしないよう気をつけている。給湯器の温度は季節に応じて変えている。暖房機器は設定温度を低めに設定している。電球等については、随時、LED 電球に交換していく。
	家を建てる際に LED や太陽光発電を取り入れれば良かったと思っている。
	断熱リフォームについてよくわからない。
	なるべく自然の風を利用したり、それで難しければ扇風機を利用する。冬もできるだけエアコンをつけないようにしている。
	なるべく車を使わないようにしています。健康のためにも、近くの用事は自転車の使用を心がけています。
	電球、照明器具は LED に移行中である。車も、ガソリン車からハイブリットや次世代カーに乗りかえて行きたいと考えている。
	積雪の多い場所に住んでいるので、電気自動車の購入に今ひとつ踏み切れないでいます。
	将来、太陽光発電を考えている。
	和室にもカーテンをつけて、夏冬の省エネに取り組んでいる。
	点灯回数が多い場所(トイレ、洗面など)で、順次、LED に交換しているが、イニシャルコストが高い。
	家電の買い替えの時は、省エネのものを最優先する。家族がなるべく同じ部屋、同じ行動するようにしている。

九州・沖縄 エリア	新築時に太陽光発電の設置や外断熱、パッシブソーラーの家も検討しましたが、メンテナンス・維持・管理・廃棄時のことを考えて結局、断熱に力を入れて自然に近い生活をすることを選びました。
	冬場のエアコンは起床時のみ使用。夏場のエアコンは子ども達の帰省時を除いてほとんど使用しません。
	自動車利用によるガソリン消費を減らすため、市内移動は自転車の利用を心がけている。
	LED 照明と蛍光灯タイプの差に驚かされました。電球式のは全部替えてあるのですが、埋め込み式の部屋はそのまま。まずは使用量の多いところから…と思っている。
	エアコンが 6 台あり古いので、効率が悪いと思われ、省エネタイプに変えたほうが良いとわかっているが、なかなかできずにいる。

(3) その他

北海道・東北エリア	地産地消を心がけている。
	毎年の電力量を記録しておき、前年より消費量を抑えるようにしている。
	世の中が省エネすること、節約することが当たり前になりましたので安心しています。しかし、そんな中でも、さらに何ができるのか。1つ上のステージで考える時だと思います。さらにできることは、人間の体づくりだと考えます。便利すぎることに慣れない体をつくり、人の体を資源にできることをやっていこうと思う。
	暖炉がありますので、春～秋の間に出るトイレットペーパーの芯を捨てずに、冬の焚き付けにしています。風呂水は洗濯、床拭きに使い切るようにしています。
	エコ家計簿を10年余つけている。光熱費を見ると、70代の老夫婦は外出が少なくなり、そして、寒さにも弱くなり、電気・灯油の使用量が多くなり、くやしい思いもしている。仕方がないと言うところは否めない。
	省エネについて今後考えたいと考えますが、太陽熱など、利用するには元手が必要で難しいなと思います。
関東エリア	低炭素系ライフスタイルへの転換には各個人の取り組みも必要ですが、地公体などとの協働などが不可欠です。リデュースに特に心がけています。環境問題への意識が低い県民、市民への啓発活動の強化のひとつとして、このようなアンケートの実施は良い機会になると思います。
	本日も公民館活動の中で省エネ・エコの話をしてきました。人々に気付いていただき実践していただくことをお願いいたしました。
	温暖化防止と省エネをペアにして、小中学校などで学習会を実施している(実施数 50件)。この中で感じたことは、省エネの教育を加速しないと日本の経済は下降するばかりである。いずれ、化石燃料はなくなるので(石油は、あと 46 年)。これまでの生活を支えるには省エネしか残されていない。特に、次世代を背負う子供達の教育が最優先である。
	省エネには努力していますが、次々とパソコンなどの関係で新しい電器製品が必要になってきています。気持ちは省エネでも実際の生活が伴わずストレスを感じることも。しかし、楽しんで省エネをしようと心がけております。この調査で、冷蔵庫のことは忘れておりましたが、省エネタイプに替えようと思いました。良いきっかけをつくって下さって、ありがとうございました。
	省エネは大切であることは充分わかっているつもりですが、いざ何をどうするという実行がともなわないのが現状です。
	広葉樹を里山等に植林して、森を豊にして、農地に栄養を与え、CO ₂ の削減する活動を推進する必要あり。
	震災で感じたことですが、熱源は1つにしない事も選択肢に入れた方が良いと思います。
	敷地には木やグリーンカーテンで CO ₂ 削減を心がけている。
	リデュース、リユースに取り組み、無駄な資源消費をしないようにしています。
	個人も事業所も、まだまだ省エネの取り組みが十分でないと感じている。
	子どもの小学校でも夏休みや冬休みに、省エネに関心が持てるようノーメディアデーなどに取り組んでいきます。Co ₂ 削減の取り組みなども、身近なことから続けていきたいと思います。

関東エリア	ユニークな省エネ対策をしている方などがいたら、知りたい。また、家庭用バッテリーが早く安くなるように願っている。
	東日本大震災をきっかけに、エネルギーについて改めて考えるようになりました。身近な事から、出来る限り省エネを心掛けるようになりました。以前と比べると、だいぶ削減出来ているのではないかと思います。
中部エリア	オール電化に取り組まれているお客様の自宅に訪問する際、ガスを使用しているお客様には、特に光熱費のシミュレーションを行っています。
	暮らしの中で、電力やガスなど使用量を把握していないと感じました。
	温暖化が進んでいる中、どうも厳寒化も進んでいるように思える。冬期のエネルギー使用量の多さに気付かされた。
	省エネはしていますが、電気代は上がっていくので疑問に思います。家族が増えているので仕方がないのか。
	私は 2007 年から省エネに取り組んで、電気では-30~-35%、ガスでは-15%くらい、ガソリンもエコドライブで-15%くらい削減した。省エネでは、特に省エネ機器を導入したわけではなく、大切なことは日常の生活の中で省エネを意識することだと思いました。特に電気はムダな消費が多くなりやすいものと思った。自分と同じような家族構成の他人の消費量が現在よくわからないので、わかるようにしてほしい。地球温暖化問題が一時期に比べてマスコミでの報道が少なく関心が薄れてきているように思う。もっと一般市民に問題の重要性について PR が必要と思います。
	山里暮らしですが、自動車が必要ですので、省エネには厳しい暮らしです。
	集合住宅のため、個人で省エネ活動することが難しい(太陽光発電、燃料電池)。国の省エネ月間など、マンションなど集合住宅へは伝わってこないのでは、共同玄関、ロビーなどこれまでと何も変わらない。
	最近、省エネに対する意識が少し薄れてきている気がするので、引き締めないといけないと自分自身に対して思っています。
中国・四国エリア	緑を増やし、自給自足を考えている。
	小さな事でも積み重ねると大きな意味があると思います。これからも自分が出来る事を実行していきたいと思っています。
	温暖化防止は地球規模の問題であるが、CO ₂ 排出量世界 1 位と 2 位の国が、CO ₂ を出さない技術をもっと取り入れて、温暖化防止に努める必要があると思われる。
	省エネ意識を高めるためにも、1 人でも多くの方が環境家計簿をつけるか、毎月の水道光熱費などをチェックして、まずは我が家の消費エネルギー量を知ることが大切だと思う。
	節水型トイレを導入した。水道使用量がかなり減ったように思う。
	エアコンの設定温度は、気温ごとにチェックしている。
	買い物は環境を考えて購入する(ごみになるものは、できる限り買わない)。
	米のとぎ汁、野菜くずを畑へ。主電源を切るささやかな省エネを実践。
	頭でわかっていても、つい安いものに気持ちが動く。反省しています。
	省エネは 1 人では不可能。家族の協力が大きいと感じている。
	改めて住居について考えるきっかけになりそうです。
	我が家の電気代は、これ以上下げる事はできないのではと思う。

中国・四国 エリア	気楽に相談する電気屋さんがない。
	廃油は近くのスーパー回収箱へ持ち込み。
九州・沖縄 エリア	自宅は電気だけだが、電気、ガス、灯油を併用している家庭では、どのエネルギー源がエコ、または安いのかを知りたい。
	高齢世帯で、家の改築等を考えていないため、大きな省エネ器具の切り替えがなかなか出来ない。

6. まとめ

(1) 冷蔵庫の使用実態調査

冷蔵庫の使用実態調査では、主に、複数（2台目、3台目）で使用している冷蔵庫に着目し、その実態を把握し、使用停止の可能性について検討した。

調査の結果、3割近くの世帯で冷蔵庫を複数所有していることがわかった。その2台目、3台目を停止できる可能性がある冷蔵庫は、小型のサイズのものや、古い年代の冷蔵庫、複数人（複数世帯）の家族で使用している場合などが挙げられる。

また、冷蔵庫を購入する際に重視する点として、「冷蔵庫のサイズ」の次に、「価格」と「省エネ」が同程度重視されている傾向みられることから、人々の省エネに対する意識は高いと想定されるが、一方で、「省エネの効果がわからない」という回答もみられた。

そのため、複数台の冷蔵庫の停止や、買い替えなどのメリットなどについて、より広く情報提供が必要であることが想定される。

(2) 一般住宅の設備導入実態調査

一般住宅の設備導入実態調査では、住宅設備について、家族構成や建築年代、地域エリア別の傾向等に着目した。

住宅の建築年代別にみると、年々断熱設計を配慮する方が増えているほか、近年では、電球・照明器具のLED化が徐々に進んでいることがうかがえる。また、冬期に利用している暖房機器では、地域エリア別に設備状況にも違いがみられることから、さまざまな環境、設備導入の状況別に、設備導入にあたっての助言等がさらに必要であることが想定される。

(3) エネルギー消費量実態把握調査

エネルギー消費量実態把握調査は、今回、限られたデータで平均をとるのは難しいが、電気、ガス、ガソリン等のエネルギーは、季節、地域、一戸建て・集合住宅別にみても、特徴的な傾向がみられた。そのため、今後は、エネルギー別により深めた情報提供が求められる。

7. 資料編

(1) 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会 配付資料

① 第1回部会 配布資料（一部抜粋）

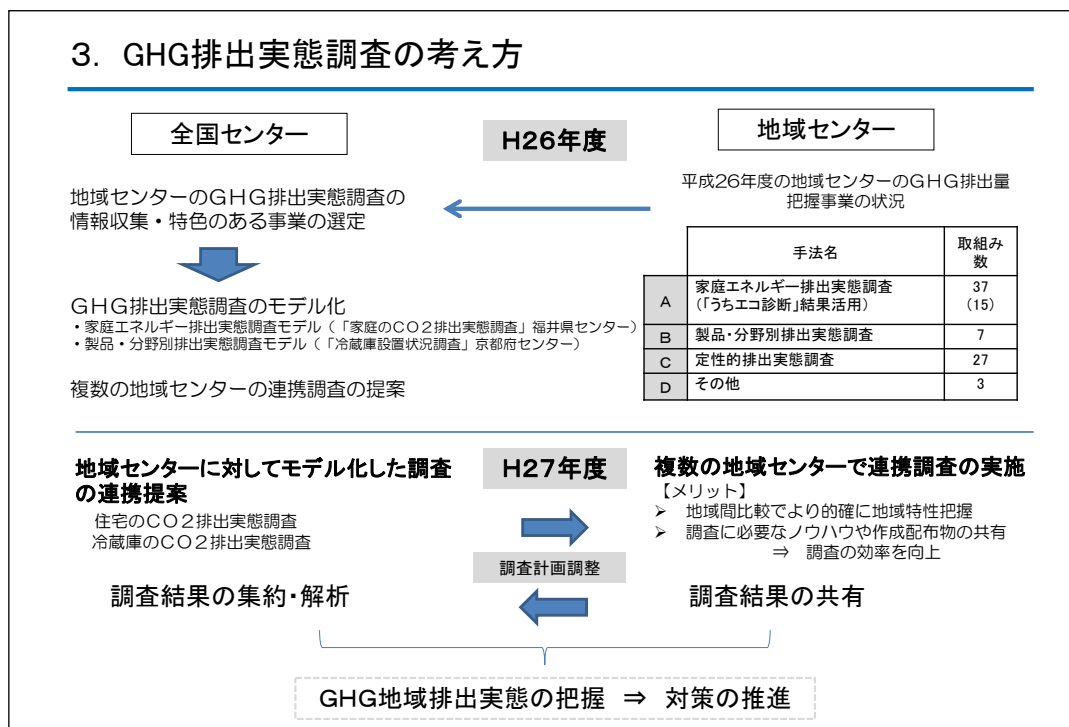
資料3

平成27年度 「日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査」 進め方について

1. 委員会・検討部会における主な検討内容
2. GHG排出実態調査検討部会に係る事業内容
3. GHG排出実態調査の考え方
4. 平成27年度の検討方針
5. 平成27年度 検討部会と調査の全体スケジュール(案)
6. 検討部会における進め方

2015.5.22


一般社団法人 地球温暖化防止全国ネットワーク
Japan Network for Climate Change Actions
地域での地球温暖化防止活動 基盤形成事業



資料3 平成27年度日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査 進め方について

資料4

住宅、冷蔵庫、冷房に関する実態把握

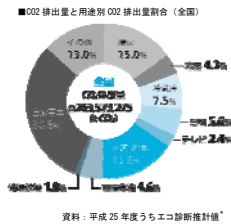
統一調査を行う「住宅」と「冷蔵庫」のほか、家庭におけるCO₂の排出割合が多い「暖房」の分野について、統計データ等から実態把握に努めます。

◆◇ 家庭における主なCO₂の排出源 ◇◇

家庭からのCO₂排出量を合計すると、約2億6,357万t-CO₂であり、日本の世帯数の約5,200万で割ると5,068kg-CO₂/世帯となります。

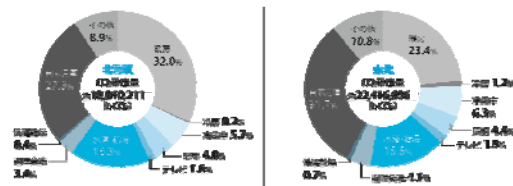
全国平均をみると、「自家用車」が3割を超え最も多く、次いで「水道・給湯」、「暖房」となっています。

なお、合計値から「自家用車」を除くと、約1億8,235万t-CO₂となります。



上記の結果を8つの地方に区分し、地方別の特徴をみると、北海道地方では「暖房」からのCO₂排出量が最も多く、その他の地方ではいずれも「自家用車」が最も多くなっています。

■CO₂排出量と用途別CO₂排出量割合（地方別）



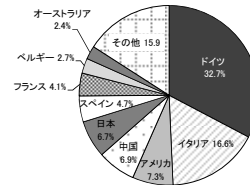
* うちエコ診断で得られる世帯別用途別CO₂排出量のデータを都道府県別世帯人数に集計し、CO₂排出単位を作成した上で、平成22年の国勢調査の人数をかけて算出する。

1 住宅について

(1) 太陽光の普及率

累積太陽光発電設備容量についてみると、2012年に全世界で9,926万kWに達しています。日本は2004年末まで世界最大の太陽光発電導入国でしたが、2012年には663.2万kWで世界第5位となっています。

■世界の累積太陽光発電設備容量（2012年）

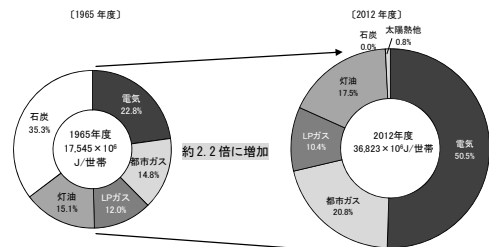


資料：資源エネルギー庁「平成25年度 エネルギーに関する年次報告」（エネルギー白書2014）

(2) 太陽熱の普及率

家庭におけるエネルギー源の推移をみると、1965年度頃までは「石炭」が3分の1以上を占めていましたが、家電製品の大型化・多機能化等をはじめ、近年はオール電化住宅の普及拡大もあり、2012年度は「電気」が半数を占めています。また、1965年度にみられなかった「太陽熱」は、1975年度頃から普及し始め、2012年度時点で0.8%となっています。

■家庭におけるエネルギー源の推移



資料：（財）日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」、資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」、総務省「住民基本台帳」

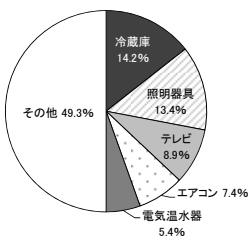
1 冷蔵庫について

(1) 家庭内の消費電力の構成比率

① 家庭における機器別エネルギー消費量

家庭における機器別エネルギー消費量の内訳をみると、「冷蔵庫」が14.2%で最も多く、次いで「照明器具」、「テレビ」となっています。

■家庭における機器別エネルギー消費量の内訳（平成21年）



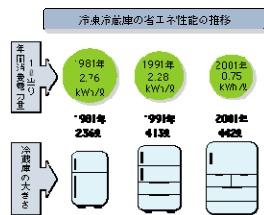
資料：資源エネルギー庁 平成21年度 民生部門エネルギー消費実態調査（有効回答10,049件）および機器の使用に関する補足調査（1,448件）より日本エネルギー経済研究所が試算（注：エアコンは2009年の冷夏・暖冬の影響含む）。

(2) 省エネ性能の推移

① 家庭における機器の改善傾向

冷凍冷蔵庫の省エネ性能の推移をみると、1/2当り年間消費電力量は減少傾向がみられます。

■家庭における機器の改善傾向



資料：資源エネルギー庁「平成16年度 エネルギーに関する年次報告」（エネルギー白書2005）

1 冷暖房について

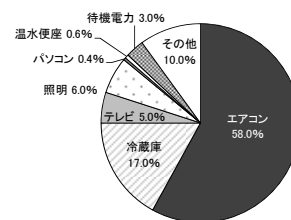
(1) 家庭内の消費電力の構成比率

① 家庭における季節と時間帯別の消費電力の比較

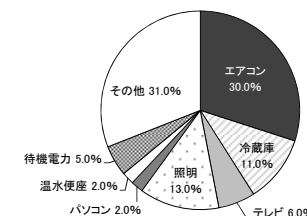
家庭における夏の昼間（14時頃）の消費電力の割合をみると、「エアコン」が58.0%と最も多く、6割近くを占めています。

また、冬の夕方（19時頃）においても「エアコン」の割合が最も多く、3割を占めています。

■家庭における夏の昼間（14時頃）の消費電力



■家庭における冬の夕方（19時頃）の消費電力



資料：資源エネルギー庁推計

資料4 住宅、冷蔵庫、冷房に関する実態把握

資料5

日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査 手法モデル 報告書について

日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会では、平成 26 年度の成果を標記の報告書にまとめました。

地域センターにおける家庭エネルギー排出実態調査モデルとして

- ・住宅の CO2 排出実態調査
- ・冷蔵庫の CO2 排出実態調査

を参考とし、全国で活用できる調査モデルを検討しました。

平成 26 年度は、「住宅の調査」において福井県センター、「冷蔵庫の調査」においては京都府センターの事例をもとに、調査手法のモデル化を行いました。

平成 27 年度は、この2つの調査モデルを活用し、統一調査を実施したいと考えています。「住宅の調査」からエネルギー使用の地域特性を把握し、調査を実施することによる省エネ意識の芽生え、エネルギー使用量の削減に寄与していくことにあります。また「冷蔵庫の調査」では、家電の中で削減効果の大きい機器であることに着目し、省エネ効果を認識して頂くものとなります。主婦目線での家計を見直すよい機会になればと思います。

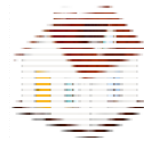
複数の地域センターが連携して具体的な取組に発展させていきたいと考えております。家庭部門の省エネに寄与していくことが重要な使命と考えています。本調査の実施によって、多くの家庭で省エネ意識を芽生えさせ、地域の生活環境の改善に繋げ、次の世代に住みよい環境を引き渡すことが我々の責務です。各地域活動の積み重ねが自治体レベル、国レベル、地球レベルの温暖化対策に繋がっていきます。

調査票は、今年度見直しを行いますので、実施時期については改めて書類が整い次第ご連絡いたします。現時点の予定では、6月上旬には配布したいと考えています。(調査票の例を「資料編」のP.5に示します。)

本調査モデルについてご興味を持っていただいた地域センター様は、下記担当までご一報いただければ幸いです。

<問い合わせ先>

日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会担当

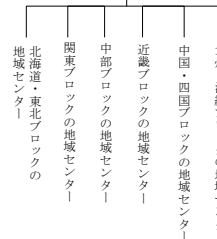


調査票の配布は
6月上旬頃を予定
(調査票の例を添付資
料1に示します。後日
見直しをします。)



＜住宅の調査＞

地域特性を調査したいと思いますので、各ブロックからのご協力をお願いします。



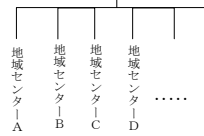
住宅の地域特性調査

- ・エネルギー源の特性
- ・年間使用量の特性
- ・家電使用の特性
- ・自然エネルギーの導入割合



＜冷蔵庫の調査＞

冷蔵庫に着目した省エネ機器の導入割合を調査します。



地域特性も調査できればと考えていますので多くの地域センターからのご協力をお願いします。

冷蔵庫の特性把握

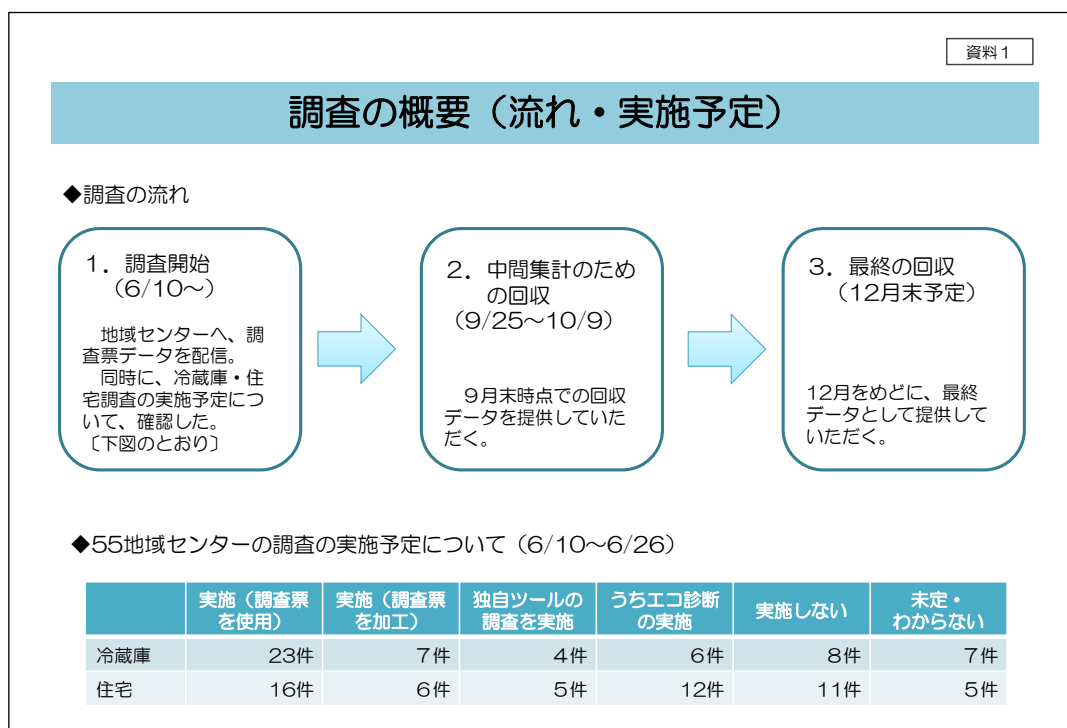
- ・年式と消費電力の関係
- ・容量調査
- ・設置台数調査
- ・制御スイッチ（弱、中、強）
- ・省エネ冷蔵庫の導入割合



(東京電力HPより引用)

資料5 日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査手法モデル 報告書について

② 第2回部会 配布資料（一部抜粋）



資料1 調査の概要（流れ・実施予定）

資料2

GHG中間報告回収数一覧

No.	センター番号	センター名	冷蔵庫	住宅〔設備導入〕	住宅〔エネルギー消費〕
1	1-02	青森県	75	74	無し
2	2-12	群馬県	59	56	30
3	2-18	神奈川県	48	無し	無し
4	2-20	新潟県	60	59	6
5	3-24	富山県	無し	65	無し
6	3-27	長野県	26	無し	無し
7	3-31	三重県	45	43	無し
8	4-36	奈良県	24	27	無し
9	6-47	福岡県	28	30	22
10	2-19	川崎市	27	27	無し
11	3-26	福井県	無し	23	23 * 独自調査
12	6-54	鹿児島県	27	27	27

392件
381件
58件

* 今回、福井県、鹿児島県は中間集計に含んでおりません。

資料2 GHG 中間報告 回収数一覧

冷蔵庫の使用実態調査報告書（中間集計）

回答者の属性について

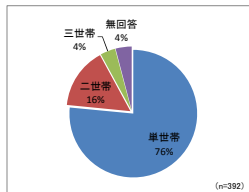
① 世帯構成について

世帯構成について、全体の平均は平均2.8人となっています。
年代については、60代以上が多くみられます。

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	37	37	35	58	63	63	123	130
女性	27	37	37	53	66	75	126	121

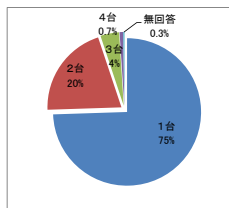
② 世帯数について

世帯数について、「単世帯」が76%で最も多くなっています。



1. 自宅の冷蔵庫の台数について

自宅の冷蔵庫の台数について、複数の所有は「2台」が20%で最も多く、次いで、「3台」が4%、「4台」が1%となっています。

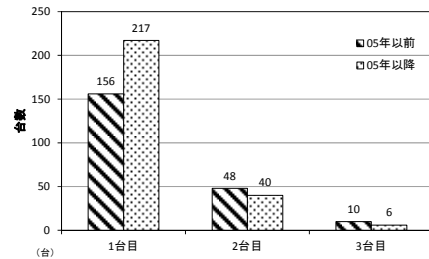


2. 冷蔵庫の情報について

① 製造年数

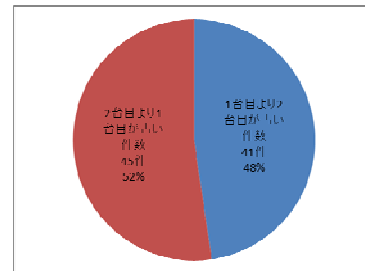
冷蔵庫本体について10年以上使われているかどうかを一つの指標とするため、冷蔵庫本体の製造年を「2005年以前に製造されたもの」と及び「それ以降に製造されたもの」の二つに分け、1台目冷蔵庫から3台目冷蔵庫までそれぞれについて集計しました。

1台目の冷蔵庫は、「05年以前」よりも「05年以降」が多くなっています。



また、2台以上冷蔵庫を保有している世帯について、1台目冷蔵庫と2台目冷蔵庫の製造年数の関係性を調べた。

「2台目より1台目が古い」と「1台目より2台目が古い」は同程度の割合となっています。



資料3 冷蔵庫の使用実態調査報告書（中間集計）

一般住宅の設備導入実態調査（中間集計）

～ 世帯状況やお住まいの住宅についてお聞きします ～

回答者の属性について

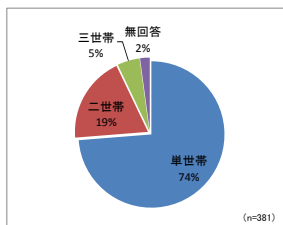
① 世帯構成について

世帯構成について、全体の平均は平均3.1人となっています。
年代については、60代以上が多くみられます。

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	57	37	25	61	69	54	115	113
女性	53	45	30	70	68	67	126	102

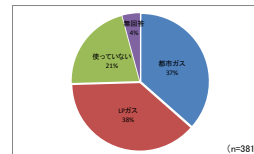
② 世帯数について

世帯数について、「単世帯」が74%で最も多くなっています。



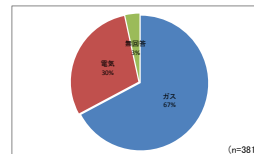
3. エネルギーについて

① ガスの種類



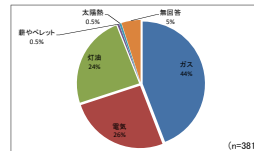
ガスの種類について、「都市ガス」と「LPガス」が40%弱と、同程度の割合となっています。

② 料理用コンロの熱源



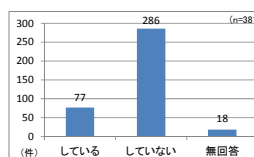
料理用コンロの熱源について、「ガス」が67%で最も多く、「電気」は30%となっています。

③ お風呂の熱源



お風呂の熱源について、「ガス」が44%で最も多く、次いで、「電気」と「灯油」が同程度の割合となっています。

④ オール電化向けの契約



オール電化向け契約について、「している」は回収数381件に77件となっています。

ただし、オール電化契約であっても暖房時に他の燃料を使用している可能性があるため、あとの設問で確認します。また、再生可能エネルギーと併用している割合についても確認します。

資料4 一般住宅の設備導入実態調査（中間集計）

③ 第3回部会 配布資料（一部抜粋）

1. GHG排出実態調査検討部会に係る事業概要

資料 1

気候区分や地域特性を踏まえた日常生活の温室効果ガスの排出実態の調査・研究及び排出抑制方策に係る検討を行う。

- ・日常生活に関する温室効果ガスの排出実態の調査・研究
- ・上記調査・研究を踏まえた温室効果ガスの排出抑制方策に係る検討
- ・上記で得られた成果の情報・結果を体系的に整理し、年次レポートとしてまとめる（A4版、100頁、80部程度）
- ・JCCCAのHP、SNS等により広く情報提供を行い、新たな検討結果、知見を随時更新する
- ・調査結果の啓発のための各種ツールやプログラムを制作し、適宜配布する

4. 検討部会における進め方

第1回 (5/22)	第2回 (10/27)	第3回 (3/2)
・部会の設置及び、部会座長の承認 ・検討部会の年間スケジュールと進め方について ・統一調査に関する検討 ○調査票の検討 ○調査結果の活用方法など	・統一調査の中間報告と課題の抽出 ・環境省全国調査の活用等に関する状況報告	・統一調査の結果報告と課題の抽出 ・排出実態の総合評価 ・調査結果の周知方法等について ・平成27年度の調査の成果と来年度へ向けての課題まとめ

資料 1 事業概要

今後の調査の方向性について（今後の課題について）

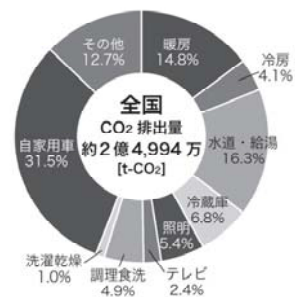
資料 6

●特化した調査

- ・今年度は、冷蔵庫に特化した実態調査を全国規模で実施
- ・来年度は、エアコンなどの冷暖房機器の使用実態調査が想定される

●政府統計（CO2に係る全国実態調査）

- との補完的な実態調査
- ・テレビの視聴時間
- ・照明の点灯時間
- ・エアコンの稼働時間
- ・洗濯機の乾燥機能の使用有無
- ・除湿機、加湿器の使用有無
- ・温水便座の使用有無
- ・ウォーターサーバーの普及率（冷水・温水）



平成26年度うちエコ診断推計値からの
CO2排出量と用途別CO2排出量割合

資料 6 今後の調査の方向性について（今後の課題について）

(2) 参考調査

① 冷蔵庫設置状況調査（京都府地球温暖化防止活動推進センター）

まずはこのアンケートにお答えいただき、FAX（または郵便）でお送りください

FAX 送信先：京都府地球温暖化防止活動推進センター 075-803-1130

冷蔵庫の使用状況に関するアンケート

①ご自宅に冷蔵庫は何台ありますか？（ ）台 NO.

②それぞれの冷蔵庫の情報について教えてください。（1 台しか持っていない場合は、2 台目以降は空欄で結構です。4 台以上持っている方は、主に使用している 3 台目までをご記入ください）

※製造年、年間消費電力量や大きさは、冷蔵庫の扉の内側に貼られた品質ラベルに記載されています。
ご自宅でご記入される際は、ぜひ確認してご記入ください。

	メインで使っている物	2 台目	3 台目
製造年 (わからなければおよその年を記入)	西暦 年	西暦 年	西暦 年
大きさ (正確にわかればこちら)	リットル	リットル	リットル
大きさ (正確にわからなければこちら)	☐ 大型 (背丈くらい) ☐ 中型 (胸くらい) ☐ 小型 (腰くらい)	☐ 大型 (背丈くらい) ☐ 中型 (胸くらい) ☐ 小型 (腰くらい)	☐ 大型 (背丈くらい) ☐ 中型 (胸くらい) ☐ 小型 (腰くらい)
年間消費電力量 (冷蔵庫のラベルに書いてあります) (わからなければ空欄)	kWh/ 年	kWh/ 年	kWh/ 年
使用目的 例えば「寝室に設置し飲料を保管」など			
使用停止の可能性について教えてください		☐ 日常生活に必要で 使用停止は難しい ☐ 少々困るが、止められる可能性あり ☐ 使用をやめても困らない	☐ 日常生活に必要で 使用停止は難しい ☐ 少々困るが、止められる可能性あり ☐ 使用をやめても困らない

③住まいの形態はどちらですか（ ☐ 集合住宅 ☐ 戸建住宅 ）

④世帯人数は何人ですか（ ）人

⑤お住まいの市町村を教えてください（ ） 府・県 市・町・村

⑥冷蔵庫の省エネについて、取り組んでいる内容や疑問に思っていることなどを自由に記入してください。

ありがとうございました

② 家庭の CO2 排出実態調査（福井県地球温暖化防止活動推進センター）

福井県センター 家庭のCO ₂ 排出実態調査								
第1回エネルギー消費量調査票					お名前 _____			
2014年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
電気(kWh) ※総量								
そのうち深夜電力(kWh)								
太陽光発電(kWh)								
都市ガス(m ³)								
LPガス(m ³)								
灯油(L)								
ガソリン(L)								
軽油(L)								

※伝票等の正確な数字でない場合は、かっこを付けてください。

エネルギーについて

ガスの種類 ☐都市ガス ☐LPガス ☐使っていない

料理用コンロの熱源 ☐ガス ☐電気

お風呂の熱源 ☐ガス ☐電気 ☐灯油 ☐薪

日常的に使用している部屋の暖房機器はどれですか(複数選択可)

☐エアコン ☐エアコン以外の電気暖房
(電気ストーブ、电热床暖房、ヒミックファンヒーター等)

☐ガス暖房 ☐灯油暖房 ☐夜間蓄熱式暖房

☐薪・木質ペレットストーブ ☐温水暖房(ガス床暖房、灯油セントラル等)

☐部屋暖房を使わない(こたつやホットカーベットのみのみ)

電気の夜間料金契約 ☐している ☐していない

世帯構成について

	10歳未満	10～19歳	20～59歳	60歳以上
男	人	人	人	人
女	人	人	人	人

最近1年間の世帯人数の変動

年 月 頃

人から 人へ

住まいについて

家の造り ☐一戸建て ☐集合 ☐その他

家の所有 ☐持ち家 ☐持ち家でない

太陽熱温水器 ☐利用している ☐利用していない

太陽光発電 ☐設置している () kW ☐設置していない

延べ床面積 ☐5坪(15㎡) ☐10坪(30㎡) ☐15坪(50㎡) ☐20坪(65㎡)
☐30坪(100㎡) ☐40坪(130㎡) ☐50坪(165㎡)以上 ☐分からない

建築年代 ☐昭和56(1981)年以前 ☐昭和57(1982)年～平成7(1995)年
☐平成8(1996)～平成14(2002)年 ☐平成15(2003)年～平成21(2009)年
☐平成22(2010)年以降 ☐わからない

断熱設計の配慮 ☐とても配慮した ☐一定配慮した ☐少し配慮した ☐配慮しなかった ☐わからない

断熱リフォーム箇所

窓の断熱 ☐省エネ型複層ガラスか二重窓 ☐通常の複層ガラス ☐単板ガラス ☐わからない

31

我が家のCO₂排出量
実態調査

ウチから出しているCO₂ってどのくらい？

募集モニター数 **50**世帯

謝 礼 **クオカード5,000円**

対 象 30代・40代子育て中の核家族(ご夫妻どちらかが30代・40代OK)
敦賀市、鯖江市、福井市、坂井市(春江町・丸岡町)にお住まいの方



調査内容

●9月から1月にかけて3回

調査票にご記入いただきます。

調査票は、今年1月～翌年1月の家庭でのエネルギー消費量、意識調査に関するものです。

●家電と照明設備・給湯器・自動車等の規格等の聞き取り調査

※電気器具を見せていただく為に、調査員がお家にあがらせていただくことがあります。

●住宅省エネ度調査

(お部屋の温度測定のため、自動測定器を取り付けていただきます：冬季1週間)

CO₂排出量

実態調査

モニター募集！

担当調査員が調査票の配布、説明に伺います。

今回の調査は実態調査ですので、
節電に徹底して取り組んでいないんだけど...
という方もお気軽にお申し込みください。
家計の見直しをしてみようかな、
という方におすすめです♪

お申込みはFAX
または メールで



★事務局

福井県地球温暖化防止活動推進センター

(NPO法人エコプランふくい内)

福井市日之出2-2-16

Tel.0776-30-0092 Fax.0776-21-1261

E-mail:npo@ecoplanf.com

応募期間 **6月20日～7月31日**

(定数になり次第終了)

CO₂排出量実態調査モニターに応募します。

フリガナ			
お名前			世帯人数 人
住所	〒		
電話			E-mail
訪問可能な日時	平日 午前・午後・夕方 土日祝 午前・午後・夕方		その他ご希望等ございましたらご記入ください。

個人情報の取扱いにあたっては、個人情報の保護に関する法令を順守し、「CO₂排出実態調査」に関する業務のみに使用いたします。また、収集した個人情報を本事業の業務委託先(環境省等)以外の第三者に開示・提示することはありません。

この事業は、平成26年度 環境省事業「地域における地球温暖化防止活動促進事業」として実施しています。

平成 27 年度環境省委託事業
地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業
日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査 年次レポート

平成 28 年 3 月

全国地球温暖化防止活動推進センター
(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町 1-12-3 第一アマイビル 4 階

TEL 03-6273-7785 FAX 03-5280-8100

URL <http://www.jccca.org/>